災害時に子どもたちが果たした役割の記録

～ 2018 年西日本豪雨の経験から～



公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

2020 年 3 月

Save the Children

目次

01　はじめに
02　「災害時に子どもたちが果たした役割の記録 ～ 2018 年西日本豪雨の経験から～」について
04　2018 年　災害の概況
05　セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの西日本豪雨緊急・復興支援
06　「災害後の子どもたちの声に学ぶ」 工学院大学教育推進機構 准教授　安部芳絵氏
10　投稿紹介（岡山県・広島県・愛媛県・兵庫県・宮城県からの投稿）
91　インタビュー
118　災害時に子どもとかかわる大人のみなさんへ ～緊急・復興支援におけるセーブ・ザ・チルドレンの取り組み～
119　「震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト 報告書」 活用事例
122　講評
124　まとめ
125　参考資料（ポスター、チラシ、投稿用紙）



体験談を提出してくれたみなさん、
この冊子を手にとってくれた小学生・中高生世代のみなさんへ

2018 年の西日本豪雨のあと、避難所などで小さな子のお世話をしたり、すすんで大人の手伝いをしたり、遠いところからボランティアに参加する子どもたちの姿がありました。そこで、そのことが忘れられてしまわないように、体験談を募集してこの冊子を作りました。

体験談を提出してくれたみなさん。投稿用紙には、子どもたちのがんばりや、これから先大切にしたいことなどがたくさん書かれていました。中には、「何もできなかった」といったコメントや、一部だけ書いたけどほとんど白紙で出してくれた子もいます。体験談募集のとき、子どもたちの活躍だけでなく、感じたことなどをありのままに知りたいと思っていました。何か活動をしようと思ったけれどできなかった子がいたことを知るのは、これから先また大きな災害が起きてしまったとき、大人が子どもたちの気持ちをくみとるのにとても大切なことだと思います。みなさんがしたこと・感じたことはすべて、これから先の災害で被害が少しでも減るように、命を守ったり災害から立ち直るために何ができるかを考えるために、役に立てたいと思います。体験談を提出してくれて、ありがとうございました。

また、この冊子を手にとってくれたみなさん。この中には、みなさんと同世代の子どもたちが感じたこと・行動したことがそのまま載っています。ぜひみなさんが今後災害に備える際に参考になる点を見つけてもらえたらうれしいです。

災害が起こったときに子どもたちが感じること・できることを、今後もみなさんと一緒に考えていけたらと願っています。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　スタッフより



はじめに

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、子どもの権利実現を使命とする NGO として、東日本大震災（2011 年）をはじめ熊本地震（2016 年）、九州北部豪雨（2017 年）、西日本豪雨（2018 年）など、国内における大規模自然災害の緊急・復興支援を実施してきました。被災した子どもや親・養育者が日常性を回復することを目的とし、緊急支援物資提供から子どもの居場所づくり、学用品や学校備品、給付金提供といった多様な活動を行っています。

私たちは、支援活動の過程の中で、子どもたちが主体的に声をあげ行動する存在であることを常に意識しています。しかし一般的には、主体者としての子どもの姿はあまり注目されていません。そうした思いから、2013 年、一般財団法人 地域創造基金みやぎ（現・公益財団法人 地域創造基金さなぶり）と協働で、東日本大震災発生後の中高生の体験談を集めた記録集『震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト 報告書』を発行しました。同報告書は、東日本大震災という未曽有の災害に直面した中で、中高生がどのような役割を担い、何を感じたのかをまとめた貴重な資料として、現在まで多くの教育や行政の関係者に活用されています。

このたび作成した『災害時に子どもたちが果たした役割の記録 ～ 2018 年西日本豪雨の経験から～』は、2013 年に続く災害時の子どもたちの記録集となります。今回は中高生世代と大人に加え、小学生からも体験談を募り、岡山・広島・愛媛・兵庫・宮城県から計 260 件 の投稿がありました。

子どもたちの体験は多様です。自宅の片付けや泥かき、水の運搬、避難所での非常食配布といった作業もあれば、避難所を過ごしやすい環境にしようと積極的に周囲の人とコミュニケーションをとったという体験もありました。また、ソーシャルメディアを駆使して豪雨の最新情報を集めたり、家族に避難を促したという声も複数ありました。これらの声に耳を傾けると、子どもたちの当時の様子が目に浮かんできます。

近年は、地震だけでなく、極端な豪雨などによる大規模自然災害が増えつつあります。2018 年には西日本豪雨、2019 年には九州北部大雨や台風 15 号、19 号、21 号などが広い範囲で甚大な被害をもたらし、多くの自治体が改めて対応を見直す必要性に迫られています。本冊子が、大規模な災害に備え、地域の防災計画や学校・子ども関連施設での防災教育、避難所運営について検討する際に、子どもの意見を取り入れたり、子どもにとって過度にならない範囲で果たす役割を整理したりする資料となれば幸いです。

最後に、本冊子作成に際し、体験談募集の告知などにご協力くださった関係諸機関のみなさま、また体験談を投稿したりインタビューを快く引き受けてくださった子どもたちを含む、すべてのみなさまに心からお礼申し上げます。

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
国内事業部
部長　川上 園子

「災害時に子どもたちが果たした役割の記録 ～2018年西日本豪雨の経験から～」について

1．募集概要

募集期間	2019年6月10日（月）～9月10日（火）
対象地域	岡山県、広島県、愛媛県、ほか全国
対象者	西日本豪雨などの災害時に何か活動をした（または、しようと思ったけれどできなかった）小・中・高校生世代の子ども（災害時に高校生だった方も可）。また、子どもたち（小学生未満も可）の行動を見た大人の方。
対象の活動	西日本豪雨をはじめとする、2018年に発生した災害に関連した活動
応募方法	郵送、ファクス、ウェブ
後援	文部科学省、内閣府、岡山県教育委員会、広島県教育委員会、愛媛県教育委員会、岡山市教育委員会、倉敷市教育委員会、岡山県私学協会、広島県私立中学高等学校協会、愛媛県私立中学高等学校連合会、一般財団法人 児童健全育成推進財団
主催	公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

2．告知方法

- ポスター1,000枚、チラシ12,000枚、投稿用紙 約18,500枚（小学生用6,500枚、中高生世代用8,500枚、大人用3,500枚）を作成し、掲示や配布の協力を依頼（※別表参照）。
- 岡山県、広島県、愛媛県の県庁および新聞社へプレスリリースを配信、また、ラジオでの呼びかけ。
- セーブ・ザ・チルドレンのウェブサイトやSNS（Facebook、Twitter、Instagram）での発信。
- その他、災害支援関係ネットワークなどを通して周知。

○ ポスター、チラシ、投稿用紙 送付先

※1 災害や防災に特化した学科のある兵庫県立舞子高校および宮城県多賀城高校、ならびに、ボランティア活動への参加があった兵庫県内の県立高校。

種別	県・市	送付箇所
小学校・中学校・高等学校・特別支援学校	岡山県・広島県・愛媛県・兵庫県※1・宮城県※1	568
放課後児童クラブ（学童）	岡山県倉敷市	73
児童館	岡山県・広島県広島市・愛媛県	199
公共施設	岡山県倉敷市	40
NPO・社会福祉協議会 など	岡山県・広島県・愛媛県・兵庫県	50
合計		930

子どもたちの体験談を募集するにあたっては、投稿は任意であり、投稿するかしないかは個人の判断にゆだねています。学校などを通した募集においてもその点を十分留意いただくよう伝えることで、災害を思い出したくない子や記入したくない子が投稿を強制されることがないよう配慮しました。

3．投稿集計結果　投稿数合計：260件

○ 投稿方法別

※2 メールや直接受け取り

	郵送	FAX	Web	その他※2	計
小学生	13	6	1	0	20
中高生世代	196	1	3	4	204
大人	29	1	3	3	36
計	238	8	7	7	260

子どもは、8才（小学3年生）から19才までの投稿がありました。

○ 都道府県別

※3 うち、白紙1件

	岡山県	広島県	愛媛県	兵庫県	宮城県	計
小学生	6	12	2	0	0	20
中高生世代	101※3	7	4	88	4	204
大人	26	7	2	1	0	36
計	133	26	8	89	4	260

子ども用の投稿用紙で「避難するときや避難所にあったほうがよかったものは？」「どんな応援があったらよかったですか？」の回答欄に記述された内容を分類して集計しました。

○ 避難するときや避難所にあればよかったもの

分類	数
食べ物や飲み物	50
布団・毛布・まくらなどの寝具	19
ライト・ラジオなどの電化製品	17
靴やスリッパ、衣類	17
ウェットティッシュ・タオル・歯ブラシなどの衛生用品	15
扇風機やクーラー / 暖房	14
仕切りや避難所のスペース	11
携帯の充電器・WiFiなどの通信環境	11
トイレ・風呂	7
文房具や勉強に必要な物、本、遊び道具など	6
その他（段ボール・コンセント・ガスコンロ・軍手・マスク・薬・子ども用品・子どもの預かり場所、など）	45

○ どんな応援があったらよかったか

分類	数
歌やメッセージなど気持ちの応援	51
物資	15
ボランティアなどの人手	13
食べ物や飲み物	12
支援金	9
情報	5
その他（支援者に対するケア、ボランティアバス、など）	21

4. インタビュー

投稿用紙の提出にあたって、より詳しくお話を聞かせていただけると回答した方の中から、以下の方々にインタビューを実施しました。（実施時期：2019年12月～2020年1月）

【岡山県】小学6年生（倉敷市）、大学1年生と保護者（総社市）
【広島県】小学5年生2人（広島市立矢野小学校）、大人3人（広島市）
【愛媛県】小学3年生（大洲市）、中学1年生（大洲市）、大人2人（大洲市喜多児童館）、大人（徳森児童センター）
【兵庫県】兵庫県立舞子高等学校の生徒・卒業生16人
【宮城県】宮城県多賀城高等学校の生徒3人　　計32人

5．実施体制

本事業の企画・体験談の募集・インタビュー・発行にあたり、子どもの権利・子ども参加の専門家の立場から、安部芳絵氏に協力いただきました。
協力：安部芳絵氏（工学院大学教育推進機構 准教授／セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 理事）
主催：公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
企画・実施：田代光恵・佐々木有紀、デザイン・レイアウト：太田しのぶ・和田優紀

2018年　災害の概況

2018年7月　西日本豪雨（平成30年7月豪雨）

前線や台風の影響で、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、岡山県、広島県、愛媛県など、1府10県に大雨特別警報が発表されました。河川の氾濫や大規模な浸水、土砂災害など、各地で甚大な被害が発生しました。

死者	負傷者	住家被害	最大避難者数
237人	400人以上	5万棟以上	4万人以上

（2019年1月9日 内閣府 発表資料、総務省消防庁「平成30年版 消防白書」より）

西日本豪雨以外にも、大きな地震が発生したり、9月の台風により住居の屋根が飛ばされたり関西国際空港の滑走路が大規模浸水したりという被害も発生し、2018年は数々の自然災害による被害の甚大さが際立つ年になりました。今回寄せられた投稿では、西日本豪雨以外にも以下の災害に関する活動の記述もありました。

2018年6月　大阪北部地震

6月18日、大阪府北部を震源とするマグニチュード6.1の地震が発生。大阪府内の5市区で最大震度6弱を観測したほか、大阪府、京都府、滋賀県、兵庫県、奈良県で震度5以上を観測しました。

死者	負傷者	住家被害	最大避難者数
6人	400人以上	5万8,000棟以上	2,600人以上

（2018年7月5日 内閣府 発表資料、2018年11月2日 大阪府防災・危機管理司令部 発表資料、2018年7月17日 京都府災害対策本部 発表資料より）

2018年9月　北海道胆振（いぶり）東部地震

9月6日、北海道胆振地方中東部を震源とするマグニチュード6.7の地震が発生。最大震度7を観測した厚真（あつま）町を中心に、広い範囲で土砂崩れなどが発生しました。

死者	負傷者	住家被害	最大避難者数
43人	780人以上	約1万6,000棟	1万3,000人以上

（北海道庁「平成30年北海道胆振東部地震 災害検証報告書」より）

また、2019年も、8月に発生した九州北部の記録的な大雨に続き、9月に台風15号が千葉県で長期にわたる停電や多くの家屋への被害をもたらし、10月には台風19号による記録的な大雨が東日本から北日本にかけての広い範囲で河川の氾濫などを起こし大規模な被害をもたらしました。

今後も日本国内において、地震や豪雨、台風といった自然災害によって、いつどこで甚大な被害を受けるかわからないといえる状況です。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの西日本豪雨緊急・復興支援

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、2011年に発生した東日本大震災の緊急・復興支援活動の経験と知見を活かし、2016年の熊本地震や2017年の九州北部豪雨など、日本国内で発生した自然災害で被害を受けた地域の子どもたちが日常性を回復するための支援活動を行ってきました。
2018年の西日本豪雨では、発生直後から、特に被害の大きかった岡山県倉敷市を中心に、被災地のニーズに対応した支援活動を実施しました。

2018年 7月6日～8日

「大雨特別警報」が11府県で発表

子ども支援のニーズを調査

現地に入り
子ども支援の
ニーズ調査を開始



7月9日から

緊急下の子どものこころのケア

災害時にストレスを抱えた子どものこころを傷つけず対応するために、ソーシャルメディアや研修を通して「子どものための心理的応急処置」を広く伝えました。



7月15日から

安心・安全に過ごせる場づくり

7/15・16に倉敷市真備町の避難所に隣接した施設で、子どもたちが安心・安全に過ごせる空間「こどもひろば」を実施したほか、7/18～8/31に岡山県が実施した「被災地域の子どもの安全・安心な居場所」事業への運営協力を行いました。同年代の子どもたちと遊びながら安心して過ごせる空間は、子どもたちが被災の影響から立ち直ることをサポートします。



7月下旬から

子どもたちの施設を支える

被災地域の子どもを受け入れている放課後児童クラブ（学童保育）の施設に、救急セットやビニールプールなどの備品を提供しました。



8月から

学校生活の再開をサポート

倉敷市真備町を中心とした地域で、保育園の椅子・机・靴箱、幼稚園児の園服・通園バッグ、小学生の鍵盤ハーモニカや絵の具セット、中学生の通学カバン、特別支援学校の楽器など、学用品の提供を通して新学期のスタートを支えました。



11月から

新入学や新生活を資金面で支える

被災によって進学や就職に向けた準備に支障をきたすことがないよう、倉敷市内で被災した小学6年生、中学3年生、高校最終学年の子どもたち428人に給付金を提供しました。

2019年6月から

子どもたちの声を聴く

災害時に子どもたちが行った活動の体験談を募集。

2019年10月

もとの校舎での授業再開をサポート

倉敷市真備町にある特別支援学校がもとの校舎で授業を再開するために、図書を提供しました。

2020年3月

「災害時に子どもたちが果たした役割の記録～2018年西日本豪雨の経験から～」（本冊）発行。

災害後の子どもたちの声に学ぶ ―「災害時に子どもたちが果たした役割の記録」をこれからに活かす―

工学院大学教育推進機構 准教授　安部芳絵

はじめに

今回寄せられた体験談は、子ども 224 通、おとな 36 通、合計 260 通（うち 1 通が白紙）であった。これらの声から、何を読み取り、災害後の子ども支援にどう活かすことができるのか。ここでは、子どもの権利の視点からプロジェクト全体をふりかえる。

1. 東日本大震災から西日本豪雨後へ ―書き手と読み手のゆらぎ―

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、東日本大震災後に『震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト報告書』（2013 年 4 月）を発行した。投稿されたのは、中高生世代を中心に 156 通、おとな 49 通、合計 205 通（うち 7 通が白紙）の声であった。とくに目を引いたのは「自宅がツナミにあいとくに何もできませんでした（宮城県、11 才）」の投稿である。

「中高生が果たした役割」というと、震災という大変な状況にあって何かを成し遂げた中高生は素晴らしく何もできなかった人はだめだ、と考えがちであろう。確かに、困難を乗り越えて何かを成し遂げた人のストーリーは「美談」として人の心を打つ。「美談」とまではいかずとも投稿者に対し「何か成し遂げたこと」を期待する。

だが、災害の記録とは何かを考えたとき、震災後の中高生のありよう、果たした役割と果たせなかったことをありのままに記録することが重要であると思われた。そうすることで、読み手が自分ごとにひきつけて考える材料にできるのではないだろうか。何より、子どもの意見表明・参加の権利は、子どもに関するあらゆることがらについて意見を述べるものであり「何もできませんでした」も重要な意見表明である。「何もできませんでした」の声から、この言葉の背景にある状況に思いをはせることができる。

この報告書は、その後、教育委員会や消防、学校など多くの現場で中高生向けの防災教育に活用されている（本冊 P.119-120 参照）。それは「美談」だけではなく、何もできなかった姿を含めて記録に残したからこそ、読み手自身もゆらぎ、それゆえに考える材料として広く活用されているということではないかと考えている。

東日本大震災後も災害はなくなったわけではない。特に、2018 年は 6 月の大阪北部地震、7 月の西日本豪雨、9 月の北海道地震のように立て続けに災害に見舞われた。このとき、SNS やマスメディアによって伝えられる被災地域のようすにはたくさんの子どもたちの姿があった。何らかの役割を果たしながら、あるいは果たせなかった自分と向き合いながら、子どもなりに感じ・考えたことがあるはずである。こうすればよかったというアイディアもあるかもしれない。しかしそれを人々の「記憶」にとどめてしまえばいずれ忘れられてしまう。「記憶」を「記録」へと転換するならば今である。

本プロジェクトの目的は、災害後に子どもたちが果たした役割をできなかったことも含めありのままに記録として残し、広く社会に伝え共有していくことである。被災の当事者として、支え手として、何を感じ、考え、ゆらいだのか。そのことを通して、国内外で頻発する災害と子ども支援の在り方を問い、子どもの権利保障への道を拓きたい。

なお、前回の報告書では中高生を主な対象としたものの小学生世代を含めた子ども全般から投稿が寄せられた。そこで本プロジェクトでは対象を広くし「災害時に子どもたちが果たした役割の記録」とした。また、投稿のなかには、白紙や自分の年齢と時期のみ記入されたもの、気づいたこと・伝えたいことの欄にだけ記入されていたものがあった。「『自分は大丈夫』だとおもわずに、はやめ、はやめのひなんをすること。（岡山県、13 才）」、「自分の命は、自分で守ろうと思った。（真備町、13 才）」のようなコメントからは、被災の当事者である子どもたちからの切迫したメッセージが伝わってくる。

2. 気候変動・自然災害と子ども参加の国際的枠組み

1989 年に国連総会において全会一致で採択された国連子どもの権利条約は、「子どもにとって一番よいことをしよう」という国同士の約束事である。国連子どもの権利条約において重視されているのが、「子どもに一番よいこと（第 3 条　子どもの最善の利益）」を「子どもに聴いて子どもとともに（第 12 条　子どもの意見の尊重）」考えていくことである。地震や津波といった自然災害のみならず、気候変動に対する世界的枠組みにおいても、子ども参加は大きなうねりとなっている。

子どもの権利委員会 一般的意見 12 号「意見を聴かれる子どもの権利」（2009 年）では、パラグラフ 10「緊急事態下における実施」のなかで「第 12 条に掲げられた権利は危機状況またはその直後の時期においても停止しないことを強調する。紛争状況、紛争後の解決、および緊急事態後の復興において子どもたちが重要な貢献を行えることを示す証拠はますます蓄積されつつある※1」として、災害などの緊急事態においても意見を聴かれる子どもの権利が停止しないことを強調した。加えて「子ども参加は、子どもたちが自分たちの生活をふたたびコントロールできるようにするうえで役立ち、立ち直りに寄与し、組織的スキルを発展させ、かつアイデンティティの感覚を強化する。※1」と指摘した。災害時、子どもは保護される客体として周辺化されがちである。しかし、本記録集が示したように、日本でも「子どもたちが重要な貢献を行えることを示す証拠」が蓄積されつつある。

もちろん、「トラウマにつながるまたは有害である可能性が高い状況を目の当たりにすることから子どもたちを保護するための配慮※1」は忘れてはならない。トラウマにつながるような状況はできるだけ避け、また子どもが嫌がっているにも関わらず無理に参加させるようなこともあってはならない。災害後の子どもの心のケアについては、本冊 P.118 の「緊急下の子どものこころのケア」を参照されたい。

ところで、災害によって喪失感や混乱を経験した子どもに、回復を促すもののひとつが「遊び」である。遊びは、子どもの参加の権利を構成する重要な要素である。

一般的意見 17 号「休息、余暇、遊び、レクリエーション活動、文化的生活および芸術に対する子どもの権利」（2013 年）では、遊びは紛争や災害後には食糧や避難所、医薬品の提供より低い優先順位しか与えられないことが指摘されている。これに対し、遊びやレクリエーション、文化的活動の機会は、子どもの回復や子どもが自分の身に起きた出来事を意味づけるのに重要な役割を果たす。そこで「子どもたちが普通の生活を取り戻すための試みの一環として遊びおよびレクリエーションに参加することのできる、安全な空間（学校を含む）を創設しまたは回復すること。※2」が積極的に求められている。

国連子どもの権利委員会が 2019 年に採択した「日本の第 4 回・第 5 回統合定期報告書に関する総括所見」では、気候変動に触れている。とくに、パラグラフ 37(a)(b) では、気候変動・自然災害に関する政策やプログラムの策定にあたっては、子どもの意見が考慮されることを確保すること、気候変動や自然災害に関する子どもの意識や備えを学校カリキュラムや教員養成・研修に組みこむことの重要性が指摘された。本記録集のような災害後の子どもたちの声を、政策立案や学校教育へ活かすことが期待されている。

※1 平野裕二訳「子どもの権利委員会・一般的意見12号：意見を聴かれる子どもの権利」https://w.atwiki.jp/childrights/pages/24.html
※2 平野裕二訳「子どもの権利委員会・一般的意見17号：休息、余暇、遊び、レクリエーション活動、文化的生活および芸術に対する子どもの権利」https://w.atwiki.jp/childrights/pages/232.html

3. 子どもたちの声から

全 260 通の声とインタビューから、以下の 6 点を取り上げたい。

3−1. 遊びは子どもだからできる支援

今回の特徴の1つは、乳幼児など小さな子どもたちと一緒に遊んだ、お世話をしたという投稿が多く見られたことである。真備町の Saki さん（小学 6 年生）は、避難所にいた小さな子どもたちと、トランプやブロック、ボールなどで遊んだ。そのこともあって避難所での記憶は「楽しい」ものとなっている。真備町の避難所に赤ちゃんがいっぱいいて家族が忙しそうなようすを見た 14 才は赤ちゃんのお世話をした。遊んでもらった赤ちゃんは「泣くこともなく、楽しく過ごせた」という。赤ちゃんは泣くものである。しかし、避難所で生活する乳幼児家族にとって赤ちゃんの泣き声は悩みの種でもある。そのような状況下、子どもがあやしてくれることで赤ちゃんが楽しく過ごせたことは、ご家族に大きな安心感を与えたのではないか。

避難所で子どもと遊ぶことは子どもだからこそできる支援である、というのは舞子高校の卒業生たちである。遊びを通して子どもが自分を取り戻したり、そのようすを見ていたおとなが元気になるようすは、広島県のおとなに対するインタビューや真備町のおとなの投稿からも伝わってくる。

3−2. 現地に行かなくてもできる支援 ―募金をめぐって

被災をしていない地域の子どもたちにとって、募金はハードルの低い支援のように見える。これに対し、多賀城高校のちなつさん（高校 3 年生）は、それでも最初の一言を誰が言うかはとても勇気がいることで思わずみんなで目を合わせてしまった、という。

一方、小遣い稼ぎで募金をやっているのだろう、と言われたのは舞子高校のさくさん（高校 2 年生）であった。さくさんは、この経験から寄付をよいことと思っていない人に対して、どのような伝え方をすればサポートしてもらえるのかをこれからも考え続けたいという。一見簡単な募金ではあるが、子どもたちは様々な思いを抱いていた。

3−3. SNS を使いこなす

中高生世代が SNS を使いこなしたのは今回の特徴のひとつである。これは前回の報告書では見られなかったことであり、時代を反映したものといえる。

まび記念病院に避難した AH さん（大学 1 年生）は、刻一刻と変化する災害の状況をインスタグラムのストーリーやツイッターを通して知り、それを他の避難者たちに伝えた。彼女を含め中高生の多くが、情報の信ぴょう性をどう判断するかが重要だと指摘した。自治体や国の機関などの公式が発信している情報を中心に RT（リツイート）する、複数の情報を照らしあわせて自分で判断するなど、やみくもに情報を流すのではなく各自が考えた上で行動をしていた点に注目したい。

3−4.「何もできなかった」の背景には何があるのか

何かをやった子どもたちばかりではなかった。

倉敷市の 50 代は、普段はお手伝いをよくしてくれる小 4 と小 6 の子どもたちなのに、豪雨災害のあとは手伝いをせず毎日テレビを見たりゲームをしたりしていたようすを投稿してくれた。災害に直面した子どもたちが、一時的に何もできなくなることはままある。何もしないからといって子どもを責めるのではなく、この投稿者のようにお子さんをあたたかく見守っていただければと思う。

何かやりたいと思ってもうまく動けず、自分自身を責めることもあるかもしれない。神戸市の 16 才は、何かやりたいと思ったものの部活動が忙しくてボランティアに参加できなかった。学校の校門に立って募金活動をしているクラスメイトや先輩を見て、がんばってほしいと思うと同時にその場に立てていない自分への恥ずかしさと悔しさもあった、と綴っている。お金を入れることしかできなかったことに対し、恥ずかしさ悔しさを感じた高校生がいることは忘れないでおきたい。

倉敷市の 14 才は「はしょう風の恐れがあったため、なにもできなかった」という。そして、ずっと 1 人家の中だけで待つのはつらかった、と述べた。

本冊 P.122 で坂本医師も指摘しているように、水害のあとに粉塵が舞う中で中学生以下の子どもたちが掃除をすることには危険が伴う。一方、投稿からは多くの小中学生が泥だらけになった家の片付けをした事実を突きつけられる。保護者に言われ、あるいはいてもたってもいられなくなり手伝った子も多かった。「有害なのにどうしてそんなことをさせたのか／したのか」とその子と保護者を責めることでは、子どもの権利を保障したことにはならないだろう。片付けの場に行くしかなかったかもしれないし、何か役に立ちたいと強く思う気持ちは責められるものではない。しかし、災害後の屋外での活動は子どもに有害なこともありうる。では、どうすればいいのだろうか。

ヒントとなるのは、家の片付けをしたかったけれどアレルギーがあるのでできなかったという真備町の 17 才の投稿である。この子は、自宅の片付けはせず避難所の小学生たちのお世話をしたという。中学生以下や持病のある子どもでもできることを一緒に考えていきたい。

3−5. とにかく、逃げて

自宅が浸水したり、救助されたりした子どもたちからは、自分だけは大丈夫だとは思わずにとにかく逃げてというコメントが寄せられている。

「僕は災害にあうまで、『なるわけない』と思っていたけど、じっさいにあってみて、けいほうはちゃんとみて避難しようと思った。（岡山県、12 才）」

「自分で“大丈夫”と決めつけず、はやめに逃げてほしい。（岡山県、13 才）」

愛媛県大洲市の YM さん（中学 1 年生）はインタビューに応じた理由を「つらかったっていう事実」を伝えたかったからだという。水は急に来る、だから油断せずに早く逃げてほしい、自分はできなかったからこそ「とにかく準備をしとったら一番大事なものは守れるんじゃないかな」「一番大事な物は手に持って逃げて」ということを全国の子どもたちに伝えたいという。

3−6. 記録に残すこと

災害のあとに子どもたちがしたこと／できなかったことを記録に残すことについては、インタビューに協力してくれた全員が重要であると答えた。

記録を読んだ人が次に動くきっかけになるのではないかというのは舞子高校の高校生たちであった。多賀城高校のあゆさん（高校 3 年生）は、東日本大震災で被災した当時小学 3 年生であった。記憶があいまいだった部分もあったが、西日本豪雨の被災地域に行くことでその当時のことを思い出せた、別の災害の現場や記録を見ることで、自身が経験した災害を風化させないという役割もあるのではないかという。愛媛県大洲市の児童館長は、支援を人につなげるために記録に残していくことが重要であると指摘した。

今のこの記録はやがて歴史となるかもしれない。まび記念病院で被災した AH さん（大学 1 年生）は、「過去の歴史を知ることは未来にもつながることなので、しっかり自分たちが住んでいる地域の過去の災害記録を知って、これからの将来に SNS を活用したりして発信していくことって大事だと思います」と語った。

おわりに

不登校だった子どもが災害を契機に自分から進んで動き始めたエピソードや、停電した寮で生徒たちが考えた工夫など、まだまだ紹介したい投稿がたくさんあるが、紙幅の都合上それはかなわない。ここから先は、ひとつひとつの投稿、子どもたちが直面したゆらぎに思いをはせながら、じっくり読んでいただければと思う。そして、この記録が、家庭や学校・地域で子ども参加の防災や復興の契機となることを願っている。

投稿紹介

岡山県 …… 11
広島県 …… 49
愛媛県 …… 59
兵庫県・宮城県 …… 64

※ 投稿内容は原文のままですが、明らかな誤字・脱字はセーブ・ザ・チルドレンが修正しました。

岡山県からの投稿

【投稿数】

小学生	中高生世代	大人	計
6	101（うち白紙1件）	26	133

岡山県内で特に被害の大きかった倉敷市真備町では、大規模浸水で51人が犠牲になり、約4,600戸が浸水被害を受けました。セーブ・ザ・チルドレンは、主に倉敷市で子ども支援活動を行ったこともあり、今回、多くの投稿がありました。また、小学校・中学校・高校それぞれ、取りまとめて投稿用紙を送ってくれる学校がありました。

【手書きの投稿の一部をご紹介】

③やってどう思いましたか？（やってみてどんなことを感じたのか、気持ちや思ったことなどを教えてください。）

私はひがいにあってないけど、ひがいにあった真備の人たちの、不安な気持ちが、とても伝わってきた。



④まわりの人はどんな反応をしましたか？（「□□□」と言われた、などありましたか。）

「ありがとう」といってくれたり、「えらいね」と言われた。
笑顔で言ってもらって、うれしかった。



10才（小学5年生）

②なぜ、それをやろうと思いましたか？　（きっかけや、理由、どんな気持ちで始めたか教えてください。）

周りはお年寄りばかりなので情報仕入れや体力仕事は若者の自分達がしなければならない状況だった。

③やってどう思いましたか？　（やってみてどんなことを感じたのか、気持ちや思ったことなどを教えてください。）

町内の状況写真をtwitterを通して必要な人に届けられたので良かった。

17才（高校3年生）

④周囲の反応はどうでしたか？　（「□□□」と言われた、などありましたか。）

生きている事が幸せだった。

12才（中学1年生）

※ 手書きのものも含め、投稿用紙はすべてデータ化して次ページより掲載しています。

小学生からの投稿

小学生 1	ひがいには　あってなくても　できたこと
年　齢	10 才（小学 5 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	二福小の体育館で学童の人たちと真備町の人たちにかき氷をくばった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	こう水などの水害が、自分の住んでいる市や町におこったら、悲しいし、こわいから、そんな思いをしている真備町の人たちに、安心感や、おちつき感を、いだいてほしかったから。
やってどう思いましたか？	私はひがいにあってないけど、ひがいにあった真備の人たちの、不安な気持ちが、とても伝わってきた。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	「ありがとう」といってくれたり、「えらいね」と言われた。笑顔で言ってもらって、うれしかった。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	どんなときでも、思いやりは大切。人を助けられることを、たくさん見つけた。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

小学生 2	お手伝い
年　齢	11 才（小学 6 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	災害後、真備町でお父さんとお母さんと姉でおじいちゃんおばあちゃんの家の床をはがしたり 2 階にあった物を運びました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	おじいちゃんおばあちゃんが住んでいたから。お手伝いが好きだから。早くもとの生活にもどってほしいと思う気持ちで始めた。
やってどう思いましたか？	家が片づいてよかった。やってみてまだほかの人の家も片づけてあげたいと思った。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	大変だね。（まわりの人） ありがとう。（家族・おじいちゃんおばあちゃん）
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	いつくるかわからないからちゃんとじゅんびをしておいたほうがいいと思った。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食料・飲料・ふとん・もうふ・けいたいのバッテリー・トイレ・テレビ・たたみ
どんな応援があったらよかったか	家の片づけのボランティアと道路をきれいにしてほしかった。

小学生 3	子供でもできることがある！！
年　齢	11 才（小学 6 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	ひなんしているとき。二万小で。自分より小さな子といっしょに遊んであげたり、ピースボートなどの災害ボランティアの人達の手伝いをした。（そうじや物資を出したりした。あと校内放送。）遊びは、トランプや虫とりなどをした。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	ひまだったから。
やってどう思いましたか？	小さな子供やボランティアの人と仲良くなれてよかったし、いいひまつぶしになった。おもしろかった。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	私以外のひなんしている人たちに「すごいね」って言われたし、手伝いをしたら「いつもありがとう」って言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	災害でまだ家に帰れてない人やひなんしている人に手をさしのべてあげたいです。あとみんなで助け合ってがんばりたいです。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	水とう、ライト、トイレ、ひじょう食、ダンボール、もうふ、たおる、ドリンク
どんな応援があったらよかったか	

小学生 4	自分の親に感謝を持ち、それを、実際表すこと。
年　齢	11 才（小学 6 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	母親の実家にひなんをし、家族と親せきの人で、家事の手伝いを協力していました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・みんなで協力をすれば、お母さん達も、ゆっくり過ごせるから。 ・わざわざ一緒に住ませてもらったから。
やってどう思いましたか？	やってみて、自分も大人になったら、こういうことを、いっぱいしなければいけないんだと思いました。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	「ありがとう」と言われました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	やってみて気づいたことは、自分のお母さんや、お父さん達は、お仕事があってまで、家事をしてくれているから、今度は、私たちに何かできることがあったらぜひしたいと思いました。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	避難用のグッズを備えた方が良かった。
どんな応援があったらよかったか	苦しんでいる人や、悲しい思い、つらい気持ちを持っている人たちに、ちょっとでもみんなの笑顔のあふれる応援があったらよかった。

小学生 5	災害時にした手つだい
年　齢	11 才（小学 6 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	水がひいて、にもつやごみを出したあと、家を直すじゅんびを手つだった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	自分の家だから。
やってどう思いましたか？	つかっている時家にいなかったけど、どこまでつかったかがよくわかった。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	あついからむりせずにしてねなど。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	つかる前にひなんすることが大切。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食料、水
どんな応援があったらよかったか	

小学生 6	
年　齢	12 才（小学 6 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	8 月頃。岡山県倉しき市真備町、おばあちゃんの家。家族（おばあちゃん、弟）3 人。しえんぶっしをとりに行った。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	お父さんとお母さんが家の片づけをしていて、しえんぶっしをとりにいくことが、私にはできたから。
やってどう思いましたか？	よかったと思った。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	とくにありません。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	しえんがとても大切なことだと気づいた。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	水、もうふ
どんな応援があったらよかったか	とくにありません

岡山県
広島県
愛媛県
兵庫県
宮城県

中高生世代からの投稿

中高生世代 1	ボランティア		
年　齢	17 才（高校 2 年生）	い つ 頃	7 月頃
どこで	岡山県総社市美袋	被災地	
だれと	友達や、ほかのボランティアの方		
どんな活動をしましたか？	初日は避難所に行き、たくさんの方が持ってきて下さったものをわけたり扇風機をたてたりしました。それ以降は被災地に行き家の中の浸かったものを外に出したり、畑のものを全部抜いたりしました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	自分は人を助けるのが好きなのですぐボランティアに参加しました。少しでも早く復興できるようにと思い頑張りました。		
やってどう思いましたか？	とても大変でした。夏だったこともありとても暑く汗をたくさんかくので水分補給もしなければなりませんでした。		
周囲の反応はどうでしたか？	被災した方にとても感謝されました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	日頃からどこに逃げるかを考えていたり、必要なものを一箇所に集めておくこと。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	扇風機、飲食物、隣との仕切りなど沢山いろいろなものがいります		
どんな応援があったらよかったか	たくさんの方からの感謝です。		

中高生世代 2	災害があって分かったこと		
年　齢	15 才（高校 1 年生）	い つ 頃	7/6
どこで	真備町	祖母の家	
だれと	家族		
どんな活動をしましたか？	家の掃除		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	家が汚れたから		
やってどう思いましたか？	疲れた。		
周囲の反応はどうでしたか？	大丈夫だった？と言われた		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	避難指示がでたら、すぐに避難しないとダメだと思った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	まくら		
どんな応援があったらよかったか	支援物資		

中高生世代 3	MSB30		
年　齢	13 才（中学 1 年生）	い つ 頃	10 月頃？
どこで	岡山県倉敷市真備町	家にいた。	
だれと	家族。私を含め 5 人		
どんな活動をしましたか？	被災後、MSB30 という団体で活動をした。お祭りなどを開いて、募金活動をした。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	友達が誘ってくれた。真備の人を笑顔にするため。		
やってどう思いましたか？	芸人「ウエストランド」さんや、市の偉い方などに会って驚いた。		
周囲の反応はどうでしたか？	お祭りに来てくださった人が楽しそうだった。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	これからも、真備の笑顔が増えるようにしたい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	避難していないです。		
どんな応援があったらよかったか	今までの応援でも十分なくらい助かっています。		

中高生世代 4			
年　齢	12 才（中学 1 年生）	い つ 頃	8 月頃
どこで	倉敷市真備町二万	二万小学校	
だれと	学校の友達と 4 人くらいで		
どんな活動をしましたか？	二万小でまだ安心して暮らせるところが無く、避難所生活を送っている方々に朝鮮人のボランティアの方と一緒に昼食などを作った。あと、二万小近くのようち園の子達の子守りも行った。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	危なく、家の手伝いもできず、宿題もなくてヒマな時に友達がさそってくれたのがきっかけ。何日かすると、何が起こったか分からず不思議そうに遊んでいる子供達を守りたいと思うようになった。		
やってどう思いましたか？	暑くてつらいだけ。そう思っていた。でも数日後には、「楽しい」と思っていた。不快な意味ではなく、自分も真備の復興の手伝いができていると思うと希望が見えてきた。		
周囲の反応はどうでしたか？	「暑い中おつかれ様。ありがとう。」「おねーちゃんっ！明日も来るよね？！」		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	「どうせ災害なんて起きない」と思った人は逃げおくれたり、十分な避難道具を持ってこれなかった。もっと災害はこわいもの、と伝えてほしい。そして災害を最小限にする取り組みをもっとしてほしい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	生活品で、服などはたくさんもらえたけど、ハブラシやティッシュ。お皿なんかもあったらうれしい。あと暑い日にはドリンクなど。		
どんな応援があったらよかったか	なんでもいいです。心さえこもっていればちゃんと伝わります。「大丈夫？」だけでも元気が出ました。		

中高生世代 5	ボランティア		
年　齢	13 才（中学 2 年生）	い つ 頃	7 月頃
どこで	岡山県倉敷市・真備町	なし	
だれと			
どんな活動をしましたか？	・親の友達の家に行って、ゴミぶくろとか、長グツをわたしました。 ・友達（自分の）の家に行ってそうじをしました。 ・小学校に行って、ボランティアをしました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	親が友達の家をまわって物をくばっていたので、僕もやろうと思ったから。		
やってどう思いましたか？	もっとボランティアしたいと思いました。		
周囲の反応はどうでしたか？	笑顔になったり、「ありがとう」と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	こまっている人がいると、助けたり、自らボランティアに行ってほしいです。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	ない		
どんな応援があったらよかったか	色んな人がボランティアにきてほしいです。		

中高生世代 6	私の活動		
年　齢	14 才（中学 2 年生）	い つ 頃	7 月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町		
だれと	友達と		
どんな活動をしましたか？	避難所で食事をつくるのを手伝った。ようちえんとかにいって小さい子とあそんだ。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	友達にさそわれたから、やってみようと思った。		
やってどう思いましたか？	食事をわたしてあげると笑顔で「ありがとう」といわれてとてもうれしかったし、笑っている顔が見れてよかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	うれしそうによろこばれた。「ありがとう」とか言われてうれしかった。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	自分のちょっとしたことで周囲の人をこんなにもすくえるんだなって思って、その人たちの笑顔が見れてよかった。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	とくに覚えてない。		
どんな応援があったらよかったか	とくにない。		

中高生世代 7	ボランティア活動		
年　齢	12 才（中学 1 年生）	い つ 頃	7 月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町	避難所	
だれと	30 人以上		
どんな活動をしましたか？	服などを分ける。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	みんなを助けようと思ったから。		
やってどう思いましたか？	暑かったけど、みんなの役に立つことが出来てよかったなあと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	みんなニコニコだった。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	みんなの役に立つことをこれからがんばろうと思った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	ふろ・水・食料		
どんな応援があったらよかったか	がんばれー		

岡山県
広島県
愛媛県
兵庫県
宮城県

中高生世代 8	みんなを笑顔に		
年　齢	14才（中学3年生）	いつ頃	12月頃から
どこで	岡山県倉敷市	真備町呉妹	
だれと	お父さんの知り合い所で約15人ぐらい		
どんな活動をしましたか？	支援物資などを配ったり、おかしや飲み物をいろんな人に渡したりした。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	お父さんにさそわれたから。人の役にたちたいと思ったから。		
やってどう思いましたか？	めちゃくちゃ楽しかった。人の役にたててうれしかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	いろんな人が笑顔になってくれた。「ありがとう」「がんばってね」と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	人の優しさに改めて気づけた。家族やいろんな人を大切にしていこうと思いました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか	めったに会えない芸能人にもっと会いたかった。ジャニーズに会いたかった。		

中高生世代 9	助け合う		
年　齢	14才（中学3年生）	いつ頃	7月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町	二万小学校	
だれと	・家族　・友人		
どんな活動をしましたか？	あかちゃんのお世話		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	避難所には、あかちゃんがいっぱいいて家族の方も忙しそうだったから。		
やってどう思いましたか？	赤ちゃんたちも泣くことはなくて、楽しく過ごせた。		
周囲の反応はどうでしたか？	「面倒見るの上手だね」		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	他人が忙しくしていたら、少しでも楽になれるように手伝いをする。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	離乳食		
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代 10			
年　齢	13才（中学2年生）	いつ頃	7月頃
どこで	岡山県	避難所	
だれと	・友達　・慈済		
どんな活動をしましたか？	・小学校での保護者のつのった子どももできるボランティア（ごみはこび・物品のし分け） ・ごみひろい（自主） ・台湾慈済さんの手伝い（料理、掃除）		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・「自分だけできない」がひどく悔しかったから。 ・台湾慈済にさそわれた。		
やってどう思いましたか？	・人の役に立ってるからうれしかった。 ・「こんなこと言うのなんですけど」楽しかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	ありがとうと言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・自分でも何かできる。 ・誰かに混ざれば強い。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代 11			
年　齢	当時13才(中学2年生)	いつ頃	7月～8月
どこで			
だれと	お母さんとおばあちゃん		
どんな活動をしましたか？	今どんなものが必要か。どんなものがほしいかを聞く。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	お母さんの手つだいでやりはじめた。こまってる人を助けたかった。		
やってどう思いましたか？	いいことをしたと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	ありがとう、助かりますといわれた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	人のやくにたつ。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	水、食べ物		
どんな応援があったらよかったか	がんばれ		

中高生世代 12	被災		
年　齢	14才（中学3年生）	いつ頃	7月
どこで			
だれと	6人		
どんな活動をしましたか？	お母さんの友達の家の手伝い		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	豪雨がおきて、なにもしていなかったから。		
やってどう思いましたか？	すごい被害だったんだなと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	がんばれといわれた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	とりあえずこんごないようにしたい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	とくにない		
どんな応援があったらよかったか	とくにない		

中高生世代 13			
年　齢	15才（中学3年生）	いつ頃	7月頃
どこで	岡山県	避難所	
だれと	1人		
どんな活動をしましたか？	避難所にいたお年寄りに“おはようございます”などあいさつをした。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	元気づけることを含め、あいさつをすることが良いことだと思ったから。		
やってどう思いましたか？	自分も気持ち良く生活できた。		
周囲の反応はどうでしたか？			
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	災害はいつくるかわからないから、非常食を用意することは大切だと思った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代 14			
年　齢	14才（中学3年生）	いつ頃	7月頃
どこで	岡山県	避難所	
だれと	1人		
どんな活動をしましたか？	ひなんじょでおばあちゃんおじいちゃんにあいさつをした。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	元気づけるため。		
やってどう思いましたか？	気持ちよく生活できた。		
周囲の反応はどうでしたか？			
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと			
避難するとき/避難所にあるとよいもの	もう少し多めの食料		
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代 15	自分がしたこと		
年　齢	14才（中学3年生）	いつ頃	7月頃
どこで	友達の家		
だれと	友達2人と友達のお母さんとお父さん		
どんな活動をしましたか？	家の中の家具を外にだした。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	自分もなにか役に立ちたかったから。		
やってどう思いましたか？	感謝の言葉を言われてうれしかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	「ありがとう」「助かった」と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	自分からすすんで行動すること。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	たくさんのもうふ		
どんな応援があったらよかったか	のみもの		

中高生世代16	
年齢	14才（中学3年生）
いつ頃	7月
どこで	岡山県倉敷市真備町
	市役所
だれと	家族といとこ　10～12人くらい
どんな活動をしましたか？	家の片付け。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	はやく家にもどりたい
やってどう思いましたか？	がんばったかいがあった。
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ひなんしじがでてもすぐ行けるようにひなん準備をしておく。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代17	西日本豪雨
年齢	14才（中学3年生）
いつ頃	7
どこで	岡山県倉敷市真備町
	真備総合運動公園
だれと	家族5人
どんな活動をしましたか？	いとこの家の片づけ
なぜ、それをやろうと思いましたか？	いとこが困っていて、僕も手伝おうと思ったから。
やってどう思いましたか？	いとこが喜んでくれてやって良かったと思った。
周囲の反応はどうでしたか？	手伝ってくれてありがとうと言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	自分の大切なものは持って避難する。家具を2階に持って上がる。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食料
どんな応援があったらよかったか	頑張れ

中高生世代18	何もできなかった
年齢	14才（中学3年生）
いつ頃	7月
どこで	倉敷市
	自宅
だれと	3人　親
どんな活動をしましたか？	はしょう風の恐れがあったため、なにもできなかった
なぜ、それをやろうと思いましたか？	無し
やってどう思いましたか？	ずっと1人家の中だけで待つのはつらかった。
周囲の反応はどうでしたか？	人にあわなかった
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	休むときには休む
避難するとき/避難所にあるとよいもの	電気
どんな応援があったらよかったか	がんばれ

中高生世代19	家の様子
年齢	14才（中学2年生）
いつ頃	7月頃
どこで	倉敷市真備町
だれと	父と
どんな活動をしましたか？	やね裏部屋にあった物を外に持って行くこと。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	やね裏部屋までは、被害にあってなかったから。
やってどう思いましたか？	外から入り、2階に上がりながら、「家がこんな風になったんだ」と感じました。被災前と比べて、物はすべてなくなり、木は折れていたから、災害はこんなにも多くの物をうばうんだと思った。
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	毎日、あたり前のようにあった物を急に失うと「もう無い」という真実をなかなか受け取れないのだと気づきました。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	明るい光を照らすようなメッセージがあると、心が少しずつ明るくなります。

中高生世代20	
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	8～10月
どこで	
	自分の家　しんせきの家
だれと	8人ぐらい
どんな活動をしましたか？	家のかたづけ
なぜ、それをやろうと思いましたか？	はやく直ってほしかったから
やってどう思いましたか？	地いきに家の明かりがもどってきた。いろんな人が助けてくれた。
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代21	
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	7月
どこで	
だれと	
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代22	
年齢	13才（中学1年生）
いつ頃	7月
どこで	岡山県・倉敷市
	しんせきの家
だれと	ボランティアの人と6人くらいで
どんな活動をしましたか？	ひがいにあったものを家からはこび出した。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	やってほしいとたのまれたから
やってどう思いましたか？	少しはこんだだけで、すごくつかれたのでたいへんだなぁと思いました。
周囲の反応はどうでしたか？	たすかったと言われました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	1人ではできないことはなんにんかでやればすぐおわると思いました。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	もっとコンセントがあったほうがいいと思った。家にきけんがせまっているとつたえるものがいいと思います
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代23	暑い中での片づけ
年齢	13才（中学1年生）
いつ頃	7月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
だれと	親と4人くらい。
どんな活動をしましたか？	水でつかった家から、重たすぎる物は運べないから、小さい物やふとんやざぶとんなどを家から取りだした。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	自分の家ではないお父さんの会社の人ががんばってくれているのに、「自分がしないでどうする。」と思ったから。
やってどう思いましたか？	自分よりまえから、片づけをしていて、しかも自分より重い物を運んでいて、すごいと思った。
周囲の反応はどうでしたか？	「休みながらでいいんよ」などといわれた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	自分がたいへんな事になったとき、たくさんの人がたすけてくれたから、次は僕がたすけてあげたいと思いました。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食べ物
どんな応援があったらよかったか	負けるな、がんばれ

中高生世代24	助けあい
年齢	13才（中学２年生）
いつ頃	７月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
	真備総合運動公園、第五福田小学校
だれと	家族と親せきと９人で。
どんな活動をしましたか？	避難所でダンボールを使って周りの人の分のプライバシーを守るための壁を作った。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	しえんの人がやり始めたから。
やってどう思いましたか？	疲れた
周囲の反応はどうでしたか？	感謝された。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	非常食が足りなくて困った。これくらいなら…という考え方が一番危ないことを知った。明るいうちに逃げたほうが良かった。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	もっと非常食が必要（水も） 寝るための道具がもっとあったらよかった。
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代25	
年齢	13才（中学２年生）
いつ頃	７月頃
どこで	
だれと	
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代26	あの日の姿
年齢	13才（中学２年生）
いつ頃	７月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
	クリーンセンター
だれと	家族４人、ペット１匹、おじいちゃん、おばあちゃん
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	
避難するとき/避難所にあるとよいもの	クーラーやだんぼうなど
どんな応援があったらよかったか	たくさんの方々が支えんをしてくださり、今の生活がおくれていると思います！！

中高生世代27	つかれた。
年齢	13才（中学２年生）
いつ頃	７月
どこで	
だれと	家族４人、親友10人
どんな活動をしましたか？	家の片付け（・水をぬく・土かべをこわす・その土を土のう袋に入れて運ぶ・浸った皿洗い・浸った物を家の外に出す・親の肩たたき・いる物といらない物の区別・いらない物をトラックに乗っけてゴミステーションでおろす・片付けに来とる人に飲み物をくばった。おんがくをかけた。）
なぜ、それをやろうと思いましたか？	親とかがやってるのを見て、自分も何かないかな？って思って
やってどう思いましたか？	・すごくつかれるけど、やりがいがあった。 ・親の格好良さが見れた
周囲の反応はどうでしたか？	「えらいね」と言われた 「おつかれ」と言われた
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・大切な物をまとめておくと、すぐににげれる。 ・自分の家を動画にとっておくといい。 ・被災してない人は、今の暮らしを大切にしてほしい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	クーラー、せんぷうき、アイス、ストーブ、コンセント、じゅうでんき、でんわ、ワイファイ、食べ物、飲み物
どんな応援があったらよかったか	・僕の好きなサッカーの観戦に招待してもらった。 ・被災地に、有名人が来てくれた。

中高生世代28	
年齢	14才（中学１年生）
いつ頃	７月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
	福田小学校？？
だれと	家族５人、いとこ２人
どんな活動をしましたか？	片づけ
なぜ、それをやろうと思いましたか？	ぐちゃぐちゃだから。
やってどう思いましたか？	暑かった。においがきつい。家に行くまでの道がゴミで通れない。
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	とにかく避難警報が出たら避難した方がいい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	エアコン
どんな応援があったらよかったか	飲み物、水

中高生世代29	人としてがんばったこと
年齢	13才（中学１年生）
いつ頃	７月頃
どこで	
だれと	
どんな活動をしましたか？	道路にのっかった土をはしっこに分けた。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	ほとんどの人がひさいをしているし、だから手が回らない人が多いから。
やってどう思いましたか？	本当にすごい被害にあったと思う。
周囲の反応はどうでしたか？	周囲の反応は、手伝ってくれてありがとうと言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	たとえ自分の家がつからなかったけど他の人は家がつかっているから、みんなをえがおにする。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	道路そうじをしていてよくやってくれたという応援

中高生世代30	ボランティア活動
年齢	13才（中学１年生）
いつ頃	６月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
	駅の近くの川
だれと	友達、４人くらいで。
どんな活動をしましたか？	色々な所へボランティアに行った。かせんの、どろを上げて、どのうぶくろに入れるなど。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	自分も手伝いをしてもらったりしたから、自分もしようと思った。
やってどう思いましたか？	大変だった。
周囲の反応はどうでしたか？	「ありがとう」と言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	災害がおきたら、手伝ったりしようと思えた。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食料・水・インターネット
どんな応援があったらよかったか	食料補給

中高生世代31	笑顔 ☺
年齢	13才（中学１年生）
いつ頃	７月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
	避難所
だれと	家族と
どんな活動をしましたか？	・隣の部屋の人と仲良くなった。（避難所の部屋）
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・ダンボールだけの仕切りだから、ピリピリしてるよりは、明るくした方がいいかな？と思ったから。
やってどう思いましたか？	・前とはちがって、気を張らずに過ごせるようになったから、よかったなって思った。
周囲の反応はどうでしたか？	・「家族みたいだね」って言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・悲しい気持ちになっても、周りの人たちと関わって楽しく過ごすと、気持ちも楽になるから、いいなと思った。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	・避難するときは、服、大切なアルバムなど、少しでも、持っていくようにする。 ・避難所にいろいろな服が欲しい。
どんな応援があったらよかったか	明るくなれるような応援。

中高生世代32	お手伝い
年齢	13才（中学1年生）
いつ頃	7月
どこで	真備町
だれと	5人
どんな活動をしましたか？	ひなん場所で、タオルや毛布をわたしたりしました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	あかちゃんなどがさむそうにしていたから。
やってどう思いましたか？	少しでもやくにたったみたいなのでよかった。少しでも笑顔になってくれた人がいたからよかった。
周囲の反応はどうでしたか？	「ありがとう」「助かります」などと言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	町を大切にしたい
避難するとき/避難所にあるとよいもの	冷房
どんな応援があったらよかったか	たくさんの方々が応援してくださり、どんな応援があったらよかった？などないくらいたくさんの応援がありました

中高生世代33	生活
年齢	12才（中学1年生）
いつ頃	7月
どこで	真備
だれと	
どんな活動をしましたか？	①家の手伝い ②インターネットで避難場所を書き、物資がほしいといった。 ③物資を買いに行った。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	①家に入った時、やらないと前に進まないと思ったから。 ②何もなくて、物資をもらわないとみんな困ると思ったから。 ③車で逃げているため、物資をかって、避難所へもっていった。
やってどう思いましたか？	①全て、すてないといけないため、ざんねんだった。 ②「ツイッターを見てきました」ともってきてくれて、うれしかった。 ③ティッシュなどをもっていって、やくにたった。
周囲の反応はどうでしたか？	①まぁ、すごかった。 ②氷をもってきてくれて、みんなうれしそうにのんだりしていた。 ③よろこんでくれた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	物資を買いに行く時、どこの店にも水、食べ物はなかった。なので普段からそなえた方がいいと思った。片付けを手伝う時は、軍手、マスク、保護メガネ、スコップ、トラックがあると便利。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	・服、ズボン　・ガスコンロ・油　・水　・米 トラックは、ゴミをはこべるため必要
どんな応援があったらよかったか	物資

中高生世代34	これまでの生活
年齢	13才（中学1年生）
いつ頃	8月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
	家
だれと	家族や親せき10人くらい
どんな活動をしましたか？	家の片付け
なぜ、それをやろうと思いましたか？	きたなくなっていたから。
やってどう思いましたか？	自分の家ってけっこう大きかったんだなと思った。
周囲の反応はどうでしたか？	「暑い中、おつかれ様」と言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	今の生活を幸せだと思ってほしい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	水、食料、ねるところ
どんな応援があったらよかったか	がんばれ

中高生世代35	苦
年齢	12才（中学1年生）
いつ頃	7・8月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
だれと	5人。母、兄、兄、祖母、私。
どんな活動をしましたか？	祖母の家がつかったので、そうじをしにいった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	少しでもはやくふっこうして、祖母に元気になってほしかったから。
やってどう思いましたか？	とても、くさくて、おもくて、呼吸がマスクでできなくて、あつくて、苦しいことばっかりだった。
周囲の反応はどうでしたか？	わたしの家は大丈夫だったから、すこし、ひさいしてないんだからいいじゃんといわれ、断水などあったのにとつらかった。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	もし、特別けいほうが出たら大丈夫とおもわずに、ひなんの準備をしたほうがいい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食料、水、休める広さ
どんな応援があったらよかったか	ひさいしてすぐは、とどかないから、よく分からない。

中高生世代36	手伝い
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	7
どこで	真備町
だれと	家族、父の会社の人
どんな活動をしましたか？	・家のかたづけの手伝い ・水が家に上がってきているあいだに下の階のにもつはこび
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・ちょっとでも周りの人を楽にするため。はやく家に帰るため。 ・たいせつなものがあるから
やってどう思いましたか？	よかった。
周囲の反応はどうでしたか？	ありがとうといわれた
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	カロリーメイトや水が必要、ライト、ボート、きがえ、よういする。 ガス栓しめる、ブレイカーきる、たいせつなものは上にあげるかもちあるく。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	カロリーメイト・水・ライト（手まわしでじゅうでんできる）・ボート・きがえ
どんな応援があったらよかったか	家のマドにガムテープで大きくドンマイとあってげんきづけられた

中高生世代37	家の片づけ
年齢	12才（中学1年生）
いつ頃	7月頃
どこで	岡山県倉敷市
	避難所
だれと	家族　4人くらい
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	家をキレイにしたかったから。
やってどう思いましたか？	臭かったからきつかった。
周囲の反応はどうでしたか？	「よく頑張ったね」と言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	自分の必要なものやとっておきたいものは、家族にまかせず、自分でもっておくこと
避難するとき/避難所にあるとよいもの	布団
どんな応援があったらよかったか	分からない

中高生世代38	
年齢	12才（中学1年生）
いつ頃	7月頃
どこで	真備町
だれと	家族
どんな活動をしましたか？	・道路のどろのかたづけをした。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・早く、真備町がきれいになってほしいから。
やってどう思いましたか？	・とても、たいへんだった。
周囲の反応はどうでしたか？	「すごいね」といわれた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・一ち団結すれば、すぐに色々な事がきれいになる。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	・食べ物　・もうふ
どんな応援があったらよかったか	・「がんばれ」

中高生世代39	周りの人からの支え
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	7月
どこで	岡山県倉敷市真備町
	真備総合公園
だれと	家族（7人）
どんな活動をしましたか？	家の片付け
なぜ、それをやろうと思いましたか？	早く帰りたかったから
やってどう思いましたか？	“もっと災害時に備えた準備をきちんとしておくべきだった”という後悔。
周囲の反応はどうでしたか？	心配してくれた
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	周りの人からの支えによって救われた。恩返しがしたいです。だから、周りの人や家族は、大切にしようと思った。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	非常食だけでなく、ちゃんとした食料
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代40	
年齢	12才（中学1年生）
いつ頃	7月
どこで	岡山県
	家
だれと	家の人
どんな活動をしましたか？	友達の家に行って片づけをした。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	友達がこまっていたから。
やってどう思いましたか？	さいしょは、きたなかったけど　さいごは、きれいになった
周囲の反応はどうでしたか？	ありがとう、と言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	自分の夢や希望をすてない
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代41	家の片付け
年齢	13才（中学1年生）
いつ頃	7月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
	クリーンセンター
だれと	家族4人、しんせき　15人以上
どんな活動をしましたか？	家の片づけをした。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	家がつかって、早く家に帰りたかったから。
やってどう思いましたか？	つかれた。
周囲の反応はどうでしたか？	「おたがい、がんばろう！」と言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	避難するものを用意しておく！
避難するとき/避難所にあるとよいもの	とくにない
どんな応援があったらよかったか	とくにない

中高生世代42	ボランティアについて
年齢	12才（中学2年生）
いつ頃	6月
どこで	倉敷市
だれと	色々な人と
どんな活動をしましたか？	ボランティア活動に参加した
なぜ、それをやろうと思いましたか？	他の人の役にたつと思ったから
やってどう思いましたか？	皆で作業して楽しかったし、被災した後、手つかずの所が汚いなと思った
周囲の反応はどうでしたか？	特になし
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	一度被災した所をもとに戻すのは大変
避難するとき/避難所にあるとよいもの	避難していない
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代43	家の片づけ
年齢	13才（中学1年生）
いつ頃	7月～8月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
	総合公園
だれと	10人以上
どんな活動をしましたか？	家の片づけの手伝い
なぜ、それをやろうと思いましたか？	自分の家がぐちゃぐちゃになって悲しくなり早くなおしたいという気持ちがあったから。
やってどう思いましたか？	被災した他の県の方々も同じような気持ちでそうじをしていたんだなと思った。
周囲の反応はどうでしたか？	頑張ろうねやありがとうと言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	いつ、どんなことがおこるかわからないからきちんと準備をしておくことが大切。もしものときがあったときのためにひなんする場所をきちんと話しておく。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食料や飲料　ふとん類
どんな応援があったらよかったか	いろんな方が応援してくださったので私は十分だと思う。

中高生世代44	ボランティア
年齢	13才（中学1年生）
いつ頃	7月頃
どこで	岡山県倉敷市
	避難所
だれと	4人
どんな活動をしましたか？	家の片付けをした。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	早く自分の家に戻りたかったから。
やってどう思いましたか？	いつ戻れるのか不安だった。
周囲の反応はどうでしたか？	「がんばってください！！」と言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ハザードマップをみて、家を建てる場所を教えたり、災害への備えが必要だと思った。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食料、水、情報
どんな応援があったらよかったか	生活用品

中高生世代45	ボラ活
年齢	12才（中学1年生）
いつ頃	7月頃
どこで	岡山県倉敷市
	避難所
だれと	40人以上
どんな活動をしましたか？	服などを分ける
なぜ、それをやろうと思いましたか？	助けようと思ったから
やってどう思いましたか？	暑かったけどひなんした人の気持ちを考えてできた
周囲の反応はどうでしたか？	ありがとうといわれた
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	勇気をもらった。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	クーラー
どんな応援があったらよかったか	がんばれ～

中高生世代46	ボランティアは大切
年齢	13才（中学1年生）
いつ頃	7・8・5月頃
どこで	
だれと	友達5人
どんな活動をしましたか？	二万小体育館（避難所）でボランティア、やたクリーン大さくせん
なぜ、それをやろうと思いましたか？	みんなたいへんそうだからなにか力になればと思ってやった。
やってどう思いましたか？	やってよかった、人の力になれてうれしかった。
周囲の反応はどうでしたか？	「ありがとう」と言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ひさいしたところに行ってボランティアに行きたい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代47	家のかたづけ
年齢	13才（中学1年生）
いつ頃	8月頃
どこで	真備町
	おばあちゃんち
だれと	おとうさんとおとうさんのしごとばの人と
どんな活動をしましたか？	家のかたづけ
なぜ、それをやろうと思いましたか？	おとうさんがたいへんだと言っていたから
やってどう思いましたか？	きたない、たいへん、くさい
周囲の反応はどうでしたか？	みんなでかたづけがんばろ！
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ひなんけいほうがでたらすぐににげる
避難するとき/避難所にあるとよいもの	水、しょくりょう、ふとん、ガスコンロ、タオル、服、料理きぐ、家のかたづけどうぐ
どんな応援があったらよかったか	一番しょくりょうや家のかたづけどうぐ、そして気持ち

中高生世代48	片づけ		
年齢	12才（中学1年生）	いつ頃	7月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町	クリーンセンター	
だれと	家族		
どんな活動をしましたか？	・家の片づけの手伝いをした		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・家をきれいにしたいと思ったから。		
やってどう思いましたか？	・きれいになってよかったと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	・「よくがんばったね」と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	人のためになると思うことはした方がいい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	・食料　・水　・衣服　・タオル		
どんな応援があったらよかったか	食料		

中高生世代49	希望		
年齢	13才（中学1年生）	いつ頃	7月頃
どこで	岡山県真備町	おじさんの家	
だれと	10人くらい　しんせきなど		
どんな活動をしましたか？	家の片づけ		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	家をキレイにするため		
やってどう思いましたか？	一つ一つの道具がどろまみれでかなしかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	よくがんばっていると言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	あきらめない		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	飲料		
どんな応援があったらよかったか	がんばってくれ		

中高生世代50	災害時の対応		
年齢	13才（中学2年生）	いつ頃	7月頃
どこで	岡山県・倉敷市・真備町	清音小学校の体育館	
だれと	4人		
どんな活動をしましたか？	高齢者の人々に食べ物を配った。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	みんな被災して、悲しい気持ちになっていたから。		
やってどう思いましたか？	やっぱり、人に、「ありがとう」と言ってもらえるのは、うれしい。		
周囲の反応はどうでしたか？	みんなが明るくなった。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	災害時は、みんなが助け合えば、良い。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	もっと避難所を増やす。		
どんな応援があったらよかったか	特になし		

中高生世代51	家族と協力		
年齢	13才（中学3年生）	いつ頃	7月中旬
どこで	岡山県真備町	旭ヶ丘	
だれと	家族と仕事の人と　8人くらい		
どんな活動をしましたか？	・小柄なので、小さくて細かい物を外に運んだ。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・自分たちの家なので、けじめを持ってした。		
やってどう思いましたか？	・やっと終わったという気持ちと共に、家に帰れないと思い、悲しい気持ちになった。		
周囲の反応はどうでしたか？	「よくがんばった」といわれた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・他の県の人にも、はやくひなんした方がいいと伝えたい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	ラジオと水分とけいたい。		
どんな応援があったらよかったか	川の復旧の人手の増やす応援。		

中高生世代52	西日本豪雨を経験して		
年齢	14才（中学3年生）	いつ頃	7月
どこで	岡山県倉敷市真備町	二万小学校体育館	
だれと	家族・母の友達		
どんな活動をしましたか？	モーフをくばったり、体育館のカーテンをしめた。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	少しでも人の役に立ちたかったから。カーテンは、爆発の音がして、割れても、ガラスのはへんがちらないようにした。		
やってどう思いましたか？	夢中で覚えていません。		
周囲の反応はどうでしたか？	「ありがとうございます。」て言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	自分の身は自分で守る。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	・トイレットペーパー ・夏は、扇風機、冬は暖房。		
どんな応援があったらよかったか	ぎえん金、物資、ありがとうございました。		

中高生世代53	被災して学んだ事		
年齢	15才（中学3年生）	いつ頃	8月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町	友達の家	
だれと	6人くらい		
どんな活動をしましたか？	友達の家の片づけ		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	友達は自分の家がなくなって大変なのになにも手伝えないのは嫌だったから		
やってどう思いましたか？	暑くすごいどろの臭うへやでそうじをするのは簡単じゃなかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	「ありがとう」と感謝してもらえた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	今回の経験をふまえて自分はならないと思わず、自分もなるかもしれないと思った方がいい		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか	これからもがんばって下さいと言って欲しい。		

中高生世代54	普通の生活に戻すために		
年齢	14才（中学2年生）	いつ頃	8月頃
どこで	真備町	家	
だれと	妹		
どんな活動をしましたか？	家から使える物を運ぶこと。支援物資を運ぶこと。避難先の片づけや運んできたものの整理		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	避難所で生活ができる状態にするため。早くふつうの生活ができるようにするため。		
やってどう思いましたか？	やってよかった。達成感が大きかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	ありがとう。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	色々な人に助けられて今生活ができていることを思い知らされた。だから、当たり前の生活のありがたさを知ってほしい。あと、早めに避難した方がいいと思った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	靴、服、文房具		
どんな応援があったらよかったか	がんばって　応援してるよ　TVからの応援		

中高生世代55			
年齢	14才（中学3年生）	いつ頃	7月6日　7月7日
どこで	岡山県倉敷市 真備町箭田	親の実家	
だれと	家族…3人　近所の人…1人　親戚…5人		
どんな活動をしましたか？	・家の片づけ ・親戚の家の片づけ ・近所の家の片づけ ・近所の人に声をかけて一緒に逃げた ・道路掃除		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・近所の人の家は、1人暮らしだったから ・道路掃除は、車の人が通りにくそうだったから ・家の片づけは、今までお世話になったから		
やってどう思いましたか？	・「ありがとう」や「助かった」と言われ嬉しかった。 ・役にたったと思う。		
周囲の反応はどうでしたか？	「ありがとう」と言われた。「助かった」と言われた		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・豪雨は怖いから日々気をつけてほしい。 ・大事な物はまとめておく。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代56	1年前のあの出来事		
年齢	14才（中学3年生）	いつ頃	7月頃
どこで	岡山県・倉敷市真備町	尾崎の自分の家。	
だれと	家族４人といとこ数人・おじいちゃん		
どんな活動をしましたか？	・家の片付け		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・被災して、家がめちゃくちゃになったため。つらい思いしながら宝など捨てた。		
やってどう思いましたか？	初めての事ばかりで、悲しい思いでいっぱいだった。		
周囲の反応はどうでしたか？	・心配してくれて、「大丈夫」「手伝いに行こうか？」など優しい言葉をいただいた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・真備町は山に囲まれ、田舎だから、私は早く都会に行きたい。そう思ってました。だけど被災して、やっぱ真備町が大好きと気付かされ、今では元の家に帰れたけど、まだ帰って来てない人も戻ってきてほしいし、なにより元の真備町に戻ってほしいです。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	・食べ物・飲み物・布とん・かさ・ランプ		
どんな応援があったらよかったか	「頑張れ」とかの応援も大切だけど、それより、日常生活に必要な支援物資		

中高生世代57	自分の自転車		
年齢	15才（中学3年生）	いつ頃	7月
どこで	岡山県倉敷市真備町	家	
だれと	母、妹の３人		
どんな活動をしましたか？	自分の自転車を洗った。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	「自分の自転車くらい自分で洗え。」と言われたから。		
やってどう思いましたか？	なかなかきれいにならない。		
周囲の反応はどうでしたか？	「大変だったな～」と言われた。（家全体が）		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	自分の家、家族、友達、町など身近にあるものを大切にしたい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	毛布、食べ物、タオル		
どんな応援があったらよかったか	文具、メッセージ		

中高生世代58	片づけ		
年齢	15才（中学3年生）	いつ頃	7月頃
どこで	倉敷市真備町	家	
だれと	家族、手伝いにきた人		
どんな活動をしましたか？	家の片づけ		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	家をきれいにしないといけないから。		
やってどう思いましたか？	つかれた		
周囲の反応はどうでしたか？	つかれていた		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	水害はこわいということ		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	ごはん		
どんな応援があったらよかったか	特になし		

中高生世代59			
年齢	14才（中学2年生）	いつ頃	7月
どこで		真備クリーンセンター	
だれと	5人		
どんな活動をしましたか？			
なぜ、それをやろうと思いましたか？			
やってどう思いましたか？			
周囲の反応はどうでしたか？			
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	支援してくださった多くの人達に「ありがとうございました」と言いたい。いつか支援してくださった人達に恩返しをしたい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	・体にかけるふとんのようなもの。		
どんな応援があったらよかったか	とくにない		

中高生世代60			
年齢	13才（中学2年生）	いつ頃	7月
どこで	岡山県		
だれと	家族、はとこ		
どんな活動をしましたか？	自分の家を片付けたり、はとこの家のそうじを手伝ったり。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	最初は、はとこに会うためにしていた。そのうち、「やらないといけない」と思うようになった。		
やってどう思いましたか？	汚れて、ビリビリになった賞状とかを見たりして、複雑な気持ちになったけど、物を外に投げ出すのは、なんか楽しかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	ありがとう。頑張ったなー。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	どれだけ大丈夫と思っていてもなにがあるか分からないからはやめに避難をした方が良い。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	毛布		
どんな応援があったらよかったか	なにかをきふしてもらう事があったら、それが一番いいけど、この頃は、はげましがあるだけで心強い。		

中高生世代61			
年齢	13才（中学2年生）	いつ頃	
どこで			
だれと			
どんな活動をしましたか？			
なぜ、それをやろうと思いましたか？			
やってどう思いましたか？			
周囲の反応はどうでしたか？			
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ハザードマップは、とても必要だと思った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	飲食料		
どんな応援があったらよかったか	とても応援があったからじゅうぶんでした。		

中高生世代62			
年齢	14才（中学2年生）	いつ頃	
どこで			
だれと			
どんな活動をしましたか？			
なぜ、それをやろうと思いましたか？			
やってどう思いましたか？			
周囲の反応はどうでしたか？			
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	知りあいなどが手伝ってくれたり、いろんな人たちから応援の言葉をもらったとき、人の優しさをとてもたくさん知れてうれしかった。亡くなった人の分まで元気でいようと思った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	一種類じゃなくていろんな種類の食べ物		
どんな応援があったらよかったか	どんな応援でもうれしかった。		

中高生世代63	掃除		
年齢	13才（中学2年生）	いつ頃	8月頃
どこで		第二福田小学校	
だれと	家族と		
どんな活動をしましたか？	家の掃除		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	自分の家のことだから。		
やってどう思いましたか？	すっきりした。		
周囲の反応はどうでしたか？	『ありがとう』と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	大丈夫だと思っていても、いつ災害が発生するかわからないから、あらかじめハザードマップを見ておくようにしたほうがいいと思う。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	ない。		
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代64	
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	7月頃
どこで	クリーンセンター
だれと	家族5人と1人ぐらしのおばあちゃん
どんな活動をしましたか？	家のそうじ
なぜ、それをやろうと思いましたか？	家の中にあるだいじな物をさがすため
やってどう思いましたか？	家の中がくさくてヘドロだらけだった。
周囲の反応はどうでしたか？	だいじょうぶ？
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	外のほうそうをよくきいて、今の川のじょうきょうなどをよくきいて避難すること。車がはしれるうちににげる。にげるときたいせつな物はもっていく。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	避難してからすぐのきがえようの服
どんな応援があったらよかったか	もっとひなんのじょうほうや川のじょうたいを大きな音でながす

中高生世代65	
年齢	14才（中学2年生）
いつ頃	
どこで	
だれと	
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代66	
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	7月頃
どこで	
だれと	
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	知らない人でも、もしもの時は、お話しをしてもいいと思った。お年寄りの方との、コミュニケーションが大切だと思った。←何か話しをしてあげたら、よろこんでくれる
避難するとき/避難所にあるとよいもの	避難する時、少しは食べ物があった方がいい。服など。スリッパ、サンダル。
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代67	
年齢	14才（中学2年生）
いつ頃	
どこで	
だれと	
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	にげるのは早くしたいと思う！
避難するとき/避難所にあるとよいもの	クーラーなど　早くしきりがほしかった
どんな応援があったらよかったか	ない！

中高生世代68	
水運び	
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	7月頃
どこで	岡山県真備町
学校	
だれと	母と2人
どんな活動をしましたか？	給水車の水を運ぶ
なぜ、それをやろうと思いましたか？	じゃ口をひねっても水が出なかった。
やってどう思いましたか？	水が思ったより重かった。
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	水は大切。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代69	
年齢	14才（中学2年生）
いつ頃	7月
どこで	岡山県倉敷市
だれと	近所の人　家族＋おばあちゃん
どんな活動をしましたか？	小さい子の世話をしました。家の片づけをしました。「にげよう」って言いました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	家が元に戻ってほしかったから。
やってどう思いましたか？	つかれたけど、たくさんの人が手伝ってくれてうれしかった。
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ひなん指示が出なくてもにげた方が身のため。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代70	
年齢	14才（中学2年生）
いつ頃	
どこで	
だれと	
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	少しでもあぶないと思ったら逃げたほうがよい
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食料
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代71	
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	
どこで	
だれと	
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	早めにひなんする。逃げる時の準備をあらかじめ決めておく。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代72	
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	7月頃
どこで	岡山県
	真備総合公園
だれと	家族（4人）
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・「自分は大丈夫」だとおもわずに、はやめ、はやめのひなんをすること。 ・食料や水をもっておくことが大切
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代73	
年齢	14才（中学2年生）
いつ頃	7月
どこで	岡山県倉敷市真備町
だれと	
どんな活動をしましたか？	二万小（ひなん所）のボランティア
なぜ、それをやろうと思いましたか？	ひまだから
やってどう思いましたか？	楽しかった。
周囲の反応はどうでしたか？	？
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	避なんけいこくがでたら逃げましょう。倉敷市なんで木きらんの？
避難するとき/避難所にあるとよいもの	wifi
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代74	
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	
どこで	
だれと	
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・早めに行動をする。 ・出来るだけ高く遠い場所へ ・周りで助け合う。 ・落ち着いて。 ・あわてずに。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	・布団・かけぶとん（雨で寒かった。）
どんな応援があったらよかったか	・メッセージ ・ちょっとした動画メッセージ

中高生世代75	
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	7～8月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
	二万小学校
だれと	友人、保護者
どんな活動をしましたか？	物資を運んだり仕分けをしたり炊き出しの手伝いなどをした。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	何かやらないといけないと思ったから
やってどう思いましたか？	大変だったが、もっと大変な人がたくさんいるので、もっとがん張らなければ…と思った
周囲の反応はどうでしたか？	感謝された
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	助け合いが一番大切だと思った
避難するとき/避難所にあるとよいもの	市との連携 小さな子供に必要な物
どんな応援があったらよかったか	人

中高生世代76	
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	
どこで	
だれと	
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	みんなバラバラにならず集団行動すること
避難するとき/避難所にあるとよいもの	くつ、スマホ、じゅうでんき、上に着る物
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代77	
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	
どこで	岡山県
	避難所、公民館
だれと	親と
どんな活動をしましたか？	・避難所で衣服の整理。 ・子供をあずけるところに行った。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	大変な人がたくさんいるから、少しでも力になればいいな。と思った。
やってどう思いましたか？	少しでも人の力になっていたらいいな。と思った。
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	前は大丈夫だったから。のように、前と比べずに危ないときには必ず避難することを大切にしたい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代78	
年齢	14才（中学2年生）
いつ頃	
どこで	
だれと	
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・はやめに避難することが大切だと思う。 ・大切な物はもっていかないと、そんすると思う。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代79	
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	7月頃
どこで	真備町
だれと	
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・自分の命は、自分で守ろうと思った。 ・しん水したらとても大変になることが分かったので、こうゆうことがもうないようにしたいです。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代80	
年齢	12才（中学1年生）
いつ頃	7
どこで	岡山県
	山の上の方
だれと	家族3人で
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	僕は災害にあうまで、「なるわけない」と思っていたけど、じっさいにあってみて、けいほうはちゃんとみて避難しようと思った。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食料、水、毛ふ
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代81	そうじ
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	7・8月
どこで	
だれと	家族と
どんな活動をしましたか？	家のそうじ
なぜ、それをやろうと思いましたか？	片づけなきゃいけないから
やってどう思いましたか？	何も感じなかった、理解できなかった
周囲の反応はどうでしたか？	“頑張ったね”といわれた
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・市内に流れる音をもっと大きくしてほしいです… ・自分で“大丈夫”と決めつけず、はやめに逃げてほしい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食料、水、服
どんな応援があったらよかったか	トイレ、おふろ、水の供給、友達とあつまれる所

中高生世代82	
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	
どこで	
だれと	
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	
避難するとき/避難所にあるとよいもの	トイレ（水が止まるため）
どんな応援があったらよかったか	パンではなく米（おにぎり）などがあると高齢者にうれしい

中高生世代83	迷わくをかけないように
年齢	13才
いつ頃	7月頃
どこで	岡山県・倉敷市真備町
	避難所　親せきの家
だれと	家族・5人
どんな活動をしましたか？	ひなんしている場所で親せきに迷わくかけないようにした。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	自分もつらいがそこでも自分の事ばかりではなく周りに気づかいたかったから。
やってどう思いましたか？	いろんなことをしてもらえた。
周囲の反応はどうでしたか？	「つらかったな」と言われた
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	はやめのはんだん・行動を心がけたほうがいい
避難するとき/避難所にあるとよいもの	たきたてのごはんが食べたかった。せいけつな服が欲しかった。
どんな応援があったらよかったか	つらかったねなどではなくてもっと明るい言葉がいい。

中高生世代84	
年齢	13才（中学2年生）
いつ頃	7月頃
どこで	岡山県
	友達の家
だれと	友達2人
どんな活動をしましたか？	友達の家に食料配達、友達の家の掃除。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	少しでも、力になりたかったから。
やってどう思いましたか？	みんな苦労して、大変だと思った。
周囲の反応はどうでしたか？	ありがとうなど言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	自分でも何かができる。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代85	私の行動
年齢	18才
いつ頃	7月
どこで	岡山県倉敷市真備町
だれと	家族
どんな活動をしましたか？	・家族に念のため、避難準備に必要な物を用意しておくよう伝えた。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・川の様子が変だったので、万が一があるかもしれないと思ったから。
やってどう思いましたか？	・時間がなければ厳しいと感じた。
周囲の反応はどうでしたか？	・女性陣は、一緒に準備をしたけれど、男性陣は、「大した事ないだろう」とそのままのんびりしていました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・起こらないとは言いきれないので、はずれても良いから避難する事も大切です。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代86	
年齢	被災当時17才（高校3年生）
いつ頃	7月頃
どこで	真備町
	自宅・まび記念病院
だれと	1人
どんな活動をしましたか？	自宅で避難情報のアラームが鳴り止まないなか、私は不安になり河川の様子を河川事務所の LIVE 映像を見たり、SNS などで友人からの情報を得ながら、避難を一向にしようとしない家族に情報を伝え危険がせまっていることを必死に伝え、避難準備をするようせまった。まび記念病院でも SNS やスマホを使いこなせるのは当初私くらいだったので、高齢者などの避難者に情報伝達した。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	私たち 10 代の強みでもある SNS によって、大人たちが知らない情報、または大人たちから聞いた情報を SNS で共有することにより、少しでも多くの人に真備にせまっている危険を知らせ、動いてもらうため。
やってどう思いましたか？	子どもたちの間、そして全国に流れているニュースとの情報格差を感じられた。そのため、ニュースなどだけではなく、その地域の人たちのなうな情報を SNS で共有し合うことも大切だと思った。また、ガセネタをまちがえて回し合って拡散してしまうこともあるので注意しないといけないと感じた。
周囲の反応はどうでしたか？	大人たちは思っていたよりも SNS で情報がまわっていることを知り、驚いていた。しかし、母には、ガセネタも情報の中には多いためあまり信じてもらえなかった。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ガセネタも時には混じる情報社会ではあるが、災害が起きた時には情報を得られる TV などもないため、身近なスマホで普段から SNS で知りあいや友人とつながりあい、いざという時に情報共有をしたり、することは大切だと感じた。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	wifi（電波がかなり悪くなるため）
どんな応援があったらよかったか	給付型支援金（学生のための）、勉強道具（文具でも参考書でも何でも）←私は特に受験生であり、勉強もなかなかできない状況であったため

中高生世代87	情報入手には苦労が必要
年齢	17才（高校3年生）
いつ頃	7月7日～
どこで	岡山県倉敷市真備町
	避難所や自宅
だれと	家族7人
どんな活動をしましたか？	被災した自宅の片付けや写真撮影による情報記録。毎日一日に何回も数キロ歩いて電波を探して外部と連絡を取ったり情報を得たりした。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	周りはお年寄りばかりなので情報仕入や体力仕事は若者の自分達がしなければならない状況だった。
やってどう思いましたか？	町内の状況写真を twitter を通して必要な人に届けられたので良かった。
周囲の反応はどうでしたか？	避難所から動けない人達にお礼を言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	被災直後は電波がとても悪く外と連絡がとれませんでした。「00000JAPAN」も使えませんでした。電話が繋がってもヘリコプターの音がうるさすぎて会話にならなかったです。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	用水路のガードレール。冠水していると危険すぎて近寄れなかった。
どんな応援があったらよかったか	防塵対策。これがないと喘息やアレルギーなどで体が持たない。

中高生世代88	瓦礫(小石 ガラス？)の撤去		
年　齢	16才（高校２年生）	いつ頃	３月末頃
どこで	岡山県真備町	道路の横	
だれと	集まった高校生約 40 人？ぐらいと		
どんな活動をしましたか？	道路の横の砂利道(幅広め)に埋まっている大きめの石やガラス、ゴミなどを拾った。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	クラスで募集があったので貴重な機会だと思い、参加した。		
やってどう思いましたか？	実際小さなものだったが、理由が「ここを子供が裸足で走っても安全なように」と仰られていて、とても有意義なものだと感じた。		
周囲の反応はどうでしたか？	周りの友達にはボランティアに参加する人が少ないので、「真面目やなぁ」と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	まだまだ知らないところで助けを求めているところがあるということ。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	靴		
どんな応援があったらよかったか	そのときは別の人が音楽を流しながら、活動をしていてとても励みになったので、音楽もひとつの応援なのかなと感じた。		

中高生世代89	被害者のために出来ること		
年　齢	17才（高校３年生）	いつ頃	12月頃
どこで	真備町	中洲小学校	
だれと	部員５人		
どんな活動をしましたか？	販売をし売上の一部を寄付したこと。豪雨があった日のことを聞いて私たちが出来ることを考えました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	大きな豪雨があり岡山ではいままで大きな被害がなかったので私たちにも出来ることがないか考えました。		
やってどう思いましたか？	誰かの助けになってよかったなと思いました。この活動をしてよかったなと思いました。		
周囲の反応はどうでしたか？	お客様には「すごいね」とか「がんばって」って言われました。お客様の中にはボランティアに行って来たと言われていました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	いつどんなことが起こるかわからないので、準備していく事が大事だと思いました。災害がまたあったらボランティアとかしていきたいです。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	もっと座れる場所があったらいいなと思いました。		
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代90	災害を経て		
年　齢	17才（高校３年生）	いつ頃	12月
どこで	岡山県倉敷市真備町	常盤小学校	
だれと	部員５人		
どんな活動をしましたか？	「くすのきマルシェ」というグループで他校の生徒と倉敷天満屋で販売をして売上の一部を寄付したこと。実際に真備を訪問したこと。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	本校の生徒にも、災害によって家を失くした人が多い中、部活の方で声をかけられたから。		
やってどう思いましたか？	部員としての初めての活動だったからとても緊張していたが、お客様に声を掛けられたりして嬉しかった。自分の小さな活動でも形に残せると思うと自然と頑張れた。		
周囲の反応はどうでしたか？	母には「立派なことをしている」と褒められた。商品を買ってくださったお客様からは「高校生なのに偉いね」と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	正直、販売前や真備訪問の前は同じ県でも他人事のように思っていたし関心も薄かった。でも今回いろいろ経験して、自分にも災害が起きていつか何もかも失う日が来るかもしれない。でもそんな中でいろんな人が動いてくれて、そういう優しさはすごくあったかいなと思った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	ちゃんと指示ができる人。		
どんな応援があったらよかったか	一日の避難でもすごくつかれたから「お疲れさま」っていう声。		

中高生世代91	思いを届ける		
年　齢	17才（高校２年生）	いつ頃	去年の12月頃
どこで	岡山県真備町		
だれと	部活動の人たち　７人くらい		
どんな活動をしましたか？	自分たちで開発した商品を、販売して、その売上の一部を寄付しました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	私の通っている学校の生徒や、テレビなどで見た避難をしている人、被災地の人たちを助けたいと思って活動を始めました。		
やってどう思いましたか？	初めて、寄付活動をやったのですが、たくさんの人たちが、復興のため、被災地にいる人たちのためにと、たくさんきて、応援をしていて、心が暖かくなりました。		
周囲の反応はどうでしたか？	商品を販売していた際に、ご購入してくださったお客さまから、「頑張ってね」と声をかけてもらいました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	被害にあった人たちのことを、遠くからも応援して、支えようとしていた人たちがたくさんいて、思いやりって本当に大切なんだなと思いました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代92	災害に遭った真備を訪れて		
年　齢	17才（高校２年生）	いつ頃	2018年12月
どこで	岡山県倉敷市真備町		
だれと	部活動の部員５人		
どんな活動をしましたか？	真備町を実際に訪れて、どこまで水が迫ってきたか、被害に遭った家はどんな感じだったのかを見てきました。それらを踏まえて、自分たちに今後何ができるかを県の高校生と一緒に考える活動もしました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	自分の家や近所も災害発生時にはかなり水が迫ってきていて、これは他人事ではないと思い、それがきっかけになりました。		
やってどう思いましたか？	災害発生時の映像も見せていただいたのですが、やはり凄まじい災害だと改めて思いました。次、こうならないために何かできないのかとも思いました。		
周囲の反応はどうでしたか？	家族からは「あんた、凄い事に関わったな」と言われました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	災害は他人事ではなく、いつどこで起きてもおかしくないということ、人と人が協力し合って復興を進めていくことが大切だと思いました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	非常食、ラジオやテレビ		
どんな応援があったらよかったか	力のある若い人たちで復興の手伝い		

中高生世代93	真備の現状		
年　齢	16才（高校２年生）	いつ頃	2018年12月
どこで	岡山県倉敷市真備町		
だれと	学校の部活で５人で		
どんな活動をしましたか？	災害のあった現場に行き水位がどこまで来たかなどの話を聞いた。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	部活の行事。興味があってどんな光景なのか。		
やってどう思いましたか？	自分だったら人を助けているひまがないので、真備の人たちの団結力がすごくびっくりしました。		
周囲の反応はどうでしたか？	自分と同じで自分たちの家や町にもし来たらどうするどこに逃げるなど話し合いの機会をもうけた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	人のことを気にかけることが極限状態になるとどれだけ難しいかあらためて分かった。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	地域のアナウンスで予測情報をながすスピーカーを各地に設置する。		
どんな応援があったらよかったか	各地に各家に避難用のボートを設置する。		

中高生世代94	西日本豪雨の恐ろしさ		
年　齢	15才（中学生）	いつ頃	８月頃
どこで	倉敷市		
だれと			
どんな活動をしましたか？			
なぜ、それをやろうと思いましたか？			
やってどう思いましたか？			
周囲の反応はどうでしたか？	まさか、こんなにも大きなことになるなんてと言っていました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	今回のことをふまえ、豪雨の恐ろしさがわかった。ただの雨と思っても、段々雨が激しくなるので早めの避難が必要。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食料やトイレ		
どんな応援があったらよかったか	被害にあった人達が元気になることをする		

中高生世代95	進化したあの日の私		
年　齢	18才(当時高校３年生)	いつ頃	７月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町	クリーンセンター	
だれと	・母と ・友人と		
どんな活動をしましたか？	・避難所で物資配りの手伝い。 ・避難所から家へ帰り、近所の人へ物資配り。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・母が率先して物資配りをしているのを見て、私も手伝いたい、役に立ちたいと思ったから。 ・車が浸水して交通の便がなく、困っている人がいると聞いたから、主に食材を届けた。		
やってどう思いましたか？	・高校生だったが、関係者の人だと間違われ、ご年配の方に「まだ家にとり残されているので助けて下さい」と言われた時、今の自分の役割をまっとうしなきゃと思った。 ・困っている人が沢山いるという危機感に襲われた。		
周囲の反応はどうでしたか？	・「ありがとう」「助かった」等の声を聞いてうれしかった。 ・「パンよりお金をくれ」と言われ、とても傷ついた。「頑張ってね」と言ってくれる方もいてうれしかった。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	自分から動かないと、まわりの状況や誰かの想いは、わからないことが分かった。支援者側も被災者側も、両方の気持ちが分かることができ、これから先、自然災害が多発している日本で、将来に繋げたい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	生理用品、ウェットティッシュ（体をふくため)、こまや竹とんぼなど遊べる道具		
どんな応援があったらよかったか	被災した高校生が気軽に集まれる場所		

中高生世代 96	被災して思ったこと
年齢	19才（高校３年生）
いつ頃	７月
どこで	岡山県倉敷市真備町
	総合体育館
だれと	弟（中１）
どんな活動をしましたか？	後から避難所に来た人に箱詰めされてある避難用具（毛布、レジャーマット）の配布作業の手伝いをした。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	自分の分は確保して、やる事がなかったから。
やってどう思いましたか？	沢山持っていく人がいて、もらえない人が出てきた。その事を呼びかけたら譲る人がいて感心した。
周囲の反応はどうでしたか？	「ありがとう」と言われて、うれしかった。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	被災した人が本当に欲しい物が何か考えてボランティアすることが大切だと思った。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	wi-fi 環境
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 97	
年齢	17才（高校３年生）
いつ頃	７月
どこで	岡山県倉敷市真備町
	小学校
だれと	祖父母、両親、弟達、８人
どんな活動をしましたか？	アレルギーがあるので沢山の事は出来ませんでした。避難所で小学生の弟達のお世話をしたりしていました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	家のかたづけはいろいろアレルギーの私には良くないと言われたので、家につれていくとあぶない小学生の弟２人の相手をしていました。
やってどう思いましたか？	家の片付けも手伝いたかったです。
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ご近所さんの親せきの方々が水が引いた次の日に手伝いに来てうちの片付けも手伝ってくれたそうです。とても助かったときいています。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	家の方へ行くとあぶない年の子達を預かってくれる場所。
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 100	（保護者が聞き取って記入）
年齢	中学３年生 高校３年生
いつ頃	９月
どこで	倉敷市玉島
だれと	２人
どんな活動をしましたか？	
なぜ、それをやろうと思いましたか？	
やってどう思いましたか？	
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	中学生の息子は周りに被災者が多かったので共感してあまり苦痛に思うような事は軽減されたようです。高校生の娘は学校で被災にあった人は６人という状況で、ストレスを感じる事も言う人もいたと聞きました。忘れ物をした生徒がいて、その友達が、「流されたと言えば？」というのを耳にして、冗談でも聞きたくなかったようです。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	スマートフォンの充電器が足りない WiFi 環境
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 98	２階へ逃げる前に
年齢	18才（高校３年生）
いつ頃	７月
どこで	岡山県倉敷市真備町
	浸水した自宅
だれと	１人
どんな活動をしましたか？	浸水が始まったとき、家族全員分の靴を１足ずつ持って２階へ避難した。バケツやペットボトルなどあらゆる物に水を入れて持って上がった。数日分の食料を持って上がった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	水が引かずに取り残されても大丈夫なように。2、3日２階でもすごせるように。家の中でははだしかスリッパしかはかないので、救助されて外に出るとき靴がないとあぶないと思ったから。
やってどう思いましたか？	水が２階まで来て、家の中の物が浮き流れはじめたり、にごった水で床が見えなくなり、靴が必要になったので、持って上がってきてよかったと思った。
周囲の反応はどうでしたか？	家族は家具などの方を持って上がっていたので「靴のことはすっかり忘れていた」と言っていた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	非常食やライト、毛布、携帯トイレ、水が入っている避難袋は販売されているが、それには自分に合う靴が入っていない。災害に合ったときにいつでも靴がはける状況である保障はないので、用意した方が良い。どうせ大丈夫という気持ちを捨てはやめに避難することを心がけてほしい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	冷房、ふとん、充電器
どんな応援があったらよかったか	報道されていることは、被災地には届かないので、現地への情報をはやくすること。

中高生世代 99	今、生きている事
年齢	12才（中学１年生）
いつ頃	７月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
	近くの高台
だれと	家族と、会社の人たち。20人くらいです。
どんな活動をしましたか？	家具を出したり、かべなどをはがしました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	早く、家に帰りたいから。
やってどう思いましたか？	つかれました。愛着のある物が水没して、とても悲しかった。
周囲の反応はどうでしたか？	生きている事が幸せだった。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	物はお金があれば買える。しかし、命はお金では買えない。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	本などの心の支えになる物。
どんな応援があったらよかったか	１人１人が共感して、思いやってくれる事。

倉敷市内の中学校から投稿用紙を取りまとめて提出いただいた際、原稿用紙に記入された体験談も 2 件ありましたので紹介します。

「岡山の豪雨災害を受けて」（中学1年生）

私は七月に災害に巻きこまれました。あの時の事は一生忘れません。あの日の夜、「ザーザー」と言う外の音でずっと起きていました。そのうち外から何かしらの放送が聞こえてきて、私はだんだん怖くなりました。そのうち友達からもLINEで避難する？どうするんと来ました。私はお母さんと、お父さんに「避難せんのん」と聞くと「どうせここまでこんし大丈夫じゃろう」と言われて不安ながらも避難せず家に居ました。すると爆発か土砂崩れの音が聞こえたと思うと地震のように家が揺れるのがわかりました。テレビやパソコンで調べるとアルミ工場で爆発と書いてありました。その事を知り寝ている人まで起きて、避難するかどうか聞くとそろそろやばいのではと思いそのあと南側も危険と外から放送があったのでお父さんがおばあちゃんを迎えにいって私たち残りのみんなで避難の準備をして犬のクッキーちゃんは二階へ、ベッドの上にしようか迷ったけどゆかにおいてハリネズミのチックンは、一階の犬小屋の上におきました。その時犬は「クンクン」と泣いてハリネズミはクッキーをやっと手であげれるようになったばかりでした。でもそんな二匹は家の二階まできた水のせいで死にました。私は悲しすぎて死がいをみてやれず最後をみとどけられませんでした。また犬をベッドの上なら、たすかっていたかもしれないとこうかいが心の中でずっと残っています。私の犬は愛らしくて、兄弟ゲンカの時泣いた私をはげましてくれた犬が…ありがとう。クッキー・チックン私は気持ちをあらたにして今のこうかいを次にいかしてどんなにおそろしい災害だったかまだしらない次のせだいの人におしえて、災害でなくなる人の被害を少なくしていきたいと思います。

「東日本大震災に学ぶ」（中学2年生）

『岩手日報号外』を読んで僕は東日本大震災が発生したときはまだ、小学校 1 年ぐらいのときなので、あまりよく分かりませんでした。そして改めて読んでみての一番の印象は、マグニチュード 9.0 の大地震で死者・行方不明者が四千六百七十二人超ということがとにかく驚きました。マグニチュード 9.0 という揺れはすごく揺れたんだなと思いました。そして行方不明者・死者がこんなに多かったのは、やはり津波のせいだったんだと気づきました。そしてその災害に全国各地からの支援をもらっているんだなと思いました。今回の西日本豪雨でも全国各地からの支援があり、大変うれしかったです。

東日本大震災を学んで、たくさんの犠牲者が出ましたが、僕の考えはこのことがなににもいかされてないと僕は思いました。

大人からの投稿

大 人 1	子ども達の絆ー思いやり&勇気にありがとう		
年　齢	40 代	い つ 頃	7 月の発災後 1 週間過ぎて
どこで	倉敷市真備町	被災された家	
だれが	何人もです。17 歳～18 歳		
どんな活動を見ましたか？	高校生の友達の家に自転車で行き、来る日も来る日も、汗と泥にまみれながら、家を点々とし、片付けにまわっていました。		
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	辛いのに子ども達も頑張っている。子ども達から勇気を貰った。大人も出来ることを頑張ろうと思えた。		
子どもたちへの期待やメッセージ	災害を経験をした子ども達が社会に出た時に果たす役割は大きい。 住みにくい社会になっても生き抜く力を持っている真備の子ども達。 頑張れ！！！		

大 人 2	はやめの避難		
年　齢	40 代	い つ 頃	7 月 7 日
どこで	岡山県倉敷市真備町	吉備路クリーンセンター	
だれが	5 名		
どんな活動を見ましたか？	携帯の緊急アラームがなり、早くひなんしようと、子供に言われて、貴重品をまとめて、ひなんする事ができました。		
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	子どもたちに言われなければ、ひなんはしていないです。ひなんしていないと、どんな事になったかと思うとこわかったです。		
子どもたちへの期待やメッセージ			

大 人 3			
年　齢	40 代	い つ 頃	7/6
どこで	倉敷市	祖母の家	
だれが			
どんな活動を見ましたか？			
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	子供達の“戻りたい”という気持ちに、自分達も頑張らないとという気持ちになりました。		
子どもたちへの期待やメッセージ			

大人4	家の清掃		
年齢	40代	いつ頃	7～8月
どこで	倉敷		
だれが	中・高・大人		
どんな活動を見ましたか？	全壊となってしまった家。暑くてほこり、異臭がすごい中、床や壁を取り除いたりそうじをしてくれたりしてくれました。		
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	他県から親子で手伝いに来てくれました。自分だけだと片付けもなげだしていたかもしれません。皆のはげましで頑張って前に進もうと思いました。		
子どもたちへの期待やメッセージ	人と人のつながりの大切さを学んだと思います。人を思いやる気持ち忘れないで欲しいです。		

大人5	大雨で少し伸びたか？		
年齢	60代	いつ頃	8月
どこで	岡山県倉敷市真備	岡田小学校	
だれが	息子　18歳		
どんな活動を見ましたか？	トイレ掃除ボランティア参加。8 月後半には外部からのボランティアも減ってきたので自分達で掃除をすることになった。		
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	日頃、家ではろくに掃除もしない息子が自発的に参加したのは少々びっくりした。参加者は大人ばかりだったので高校生は珍しがられたとのこと。		
子どもたちへの期待やメッセージ	大変な経験だったが、とても貴重な経験でもある。今後の人生で必ず役に立つと思う。		

大人6	元気をもらう		
年齢	50代	いつ頃	被災後 7～8月
どこで	岡山県倉敷市真備町	避難所	
だれが	いろいろな年代の子供達		
どんな活動を見ましたか？	地域の中高生や県内外の学生に自宅の片付けを手伝ってもらった。年齢を問わず、子供達の元気な声を聞くと、こちらも元気が出てくる。		
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	子供達の元気な声を聞くと、明るくなるし、元気が出る気がする。		
子どもたちへの期待やメッセージ	気持ちを、明るく元気にしてくれるのが、子供達です。明るく元気な声で、みんなに元気を下さい。		

大人7	ボランティアのお兄ちゃんありがとう！！		
年齢	50代	いつ頃	7月
どこで	倉敷市真備町		
だれが	関西高等学校の学生さん		
どんな活動を見ましたか？	自宅 1 階天井まで水没し、倉庫（階段下）にあった精米されていない米袋がパンパンにふくれあがり、汚い水を吸い込んだお米は鼻が曲がりそうなくらい、臭いにおいがしました。それを、文句も言わず、きれいに片づけてくれて…とってもありがたかったです。臭いし、重いし、バラバラだったお米が、あっという間にきれいになりました。		
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	一生懸命にしてくれる姿を見て、感謝の気持ちと、協力してくれる皆から元気をもらった様な感じでした。相手の気持ちを大切にしてくれるなぁ…若い人達なのに…感動しました。		
子どもたちへの期待やメッセージ	関西高校のバレーボール部員さんと伺いました。自分の事、家族の事、家の事で精一杯で、来て下さった人達への配慮はなにもできず、ごめんなさいね。少しずつ元気をとりもどし、毎日の生活を楽しんで生きていけてます。本当にありがとうございました。		

大人8			
年齢		いつ頃	
どこで			
だれが			
どんな活動を見ましたか？	災害にあっていない人は、災害時だけをピックアップしているけれど、実際は、その時は、親子も皆必死でその時を乗り越えるから、記憶もあまり残っていない。(←ゆっくりと子供だけを見れるわけではない！）その後の生活（学校が始まってから）が、長い戦いになります。子供達は、学校まで、朝早くからバスにて登校。自宅からではなく、失った物が多いがみなし仮設等から。。。毎日、毎日、1 時間以上の子もいる。…現実です。		
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	日々の疲れた姿を見ながら、自分（親）も負担の多い中、やはり、子供達のそういった姿の中に笑顔があったりすると親も頑張ろと思えました。		
子どもたちへの期待やメッセージ	不便な事や失った物、突然いつもとは違う生活になって、大変ですが、だからこそ、人に優しく、精神的には強い人間になってほしいものです。そして何より命の大切さを実感してほしいです。		

大人9	仲間（友達）の大切さ		
年齢	40代	いつ頃	7月
どこで	岡山県倉敷市真備町	自宅	
だれが	中学生、高校生		
どんな活動を見ましたか？	西日本豪雨災害にて自宅が被災し、その片付けにおいて娘の友達や仲間がかけつけてくれ、とても暑い状況の中で片付けを手伝ってくれました。特に高校の娘の友達や仲間は自転車で泥まみれの道の中でかけつけてくれ 10 数 km 離れている子もきてくれ、自宅の片付けを手伝ってくれました。		
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	私や親において、子ども達の元気な姿や動きのよさに影響され、被災を受けた苦しい思いを忘れさせてくれるひと時を作ってくれた、又、元気をいただけた。服や顔をドロドロにしながら、周りに笑顔を与えてくれました。		
子どもたちへの期待やメッセージ	仲間を大切にする想いをこれからも大切にしていただき、いろんな活動を頑張っていただきたいと思います。		

大人10	高校生のパワーに勇気をもらいました。		
年齢	40代	いつ頃	7月後半
どこで	倉敷市		
だれが	4 人ぐらい		
どんな活動を見ましたか？	被災 2 日後に娘と自宅の状況を見て悲痛な思いで 2 人で歩いて帰っていました。その時、前方から見慣れた坊主頭の男の子達が数人で自転車でこちらに向かって来る姿がありました。その子達は娘がマネージャーをしていた野球部の後輩でした。何か出来る事はないかと約 15km 離れた自宅から自転車でかけつけていました。		
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	野球の練習の間に疲れているのにすぐに何かをしないといけないと自らで行動する姿に感心しました。娘もその姿を見て感動していました。他にも娘の高校の多数の子供がボランティアに参加する姿を見て本当に有難く思い、この経験は今後に必ず役立つと思います。		
子どもたちへの期待やメッセージ	猛暑の中、文化祭、体育祭、受験を控えているにもかかわらず、ボランティアに参加して被災したたくさんの人達を助けてくれて本当に有難うございました。私達親子も今後は何かあればみなさんのお役に立つ事に積極的に参加して行きます。		

大人11	SNS での情報収集リーダー		
年齢	40代	いつ頃	7月頃
どこで	真備町	まび記念病院	
だれが	1 名　10 代		
どんな活動を見ましたか？	豪雨で不安になり集うだけの 7/6 夜から、高齢者を中心に 30 名程度がまび記念病院に避難していました。その中で唯一、10 代でスマホを使いこなし SNS から浸水被害や、避難状況の情報収集を行い、逐一避難通達の告知が鳴りひびきおびえる避難者達に情報提供を冷静に伝達していました。		
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	当時は SNS、ガセネタ？と半信半疑、何せ暗闇の中で何が起きてるか信じがたい状況でしたが、(信じたくないと言った方が正しいです）(今思うと彼女は必死に情報収集していたことに気付きました。）朝方（7/7）になると徐々に現実み真実みを増し、徐々に耳を大人も傾けていました。頼れる 10 代スマホ通情報収集に脱帽		
子どもたちへの期待やメッセージ	子の普段はスマホばかりで SNS かぶれは親にとって頭の痛いことですが、今回の災害で SNS を使いこなす、情報収集力を見直しました。		

大人 12	
年齢	50代
いつ頃	7月
どこで	岡山県倉敷市真備町　自宅
だれが	おかやま山陽高校野球部
どんな活動を見ましたか？	家の 2F まで水につかり、全ての家財を外に出さなければならないが築 60 年以上たった家で荷物も多く 2F のタタミや布団は水をすって外に出すのが大変な中、高校野球の県大会のさなか、チームみんなでサポートに来てくれ、全てのものを外に出す事ができました。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	学生さん達の笑顔や声かけ、そして元気良くどんどん運び出していく力とエネルギーは、私達家族の心にもエネルギーと元気をくれ片付いた事以上に前向きな気持ちになれました。
子どもたちへの期待やメッセージ	今後も野球の技術力はもとより精神も健全で、心優しく、心の強いチームになっていって欲しいと思いました。本当に心から、ありがとうございました。

大人 13	避難所と自宅
年齢	40代
いつ頃	7月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町　避難所や自宅
だれが	家族
どんな活動を見ましたか？	避難所と自宅を行ったり来たりしながらの片付けの間、避難所にて祖母と一緒に荷物の番や連絡係、物資の受け渡しをしてくれた。その合間に、動けないお年寄りの話し相手なども。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	今回の事がきっかけで、子どもも成長し、周囲に気を配ったり、考えて動くようになったと思う。それを見て、私たちもしっかりしなければ、と思わされた。
子どもたちへの期待やメッセージ	被災して初めてわかったが、被災者の気持ちは、実際に被災した者でないとわからない。今まではわかった気になっていただけだと気づかされた。この経験を、気持ちを、今後の人生でいろいろな人に繋げて、助け合っていってほしい。

大人 14	学生ボランティアのパワーに感謝
年齢	40代
いつ頃	2018年7月～8月
どこで	倉敷市真備町　炊き出しの会場　他
だれが	
どんな活動を見ましたか？	ボランティアの方々は、ベストを着用されています。ベストを着て炊き出しの会場や支援物資の配布会場などで小学生、中学生、高校生のボランティアの方々がたくさんお手伝いをされていました。大人顔負けのパワーと笑顔に助けられました。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	自分から進んでボランティアに来た人や、きっと、大人に連れて来られた子どもたちもいたと思います。でも皆さん一生懸命に活動をされていてとても感心しました。ありがたかったです。私の子どもたちは多くのものを失い、生活環境が変わり、自分の事でいっぱいで、ボランティア活動はできませんでしたが、いろんな場面で助けてくださった方々に感謝し、自らもボランティアに参加したいという気持ちになりました。
子どもたちへの期待やメッセージ	2018 年夏、貴重な夏休みを被災地のボランティアに来てくださって本当にありがとうございました。一生懸命に活動する姿にとても感動しました。みなさんのパワーで、元の生活に戻ることができるようになりました。みなさんの力が多くの人々の助けになり、希望になりました。

大人 15	高校生・大学生の即戦力
年齢	40代
いつ頃	平成30年7月
どこで	岡山県倉敷市真備町
だれが	高校生（17歳）数えきれない、大学生（21歳）6人
どんな活動を見ましたか？	発災後３日目に我が家の片付けに長男の子どもと同じ大学生が県道 180 号も通行止になりながら迂回してきてくれ作業を手伝ってくれた。（夫は豪雨やアルミ工場の爆発で大変だった総社市消防署での仕事で家にほとんどいなかった。）その時にとても有難く、同じ町内にいた義姉の片付けも翌日手伝ってくれ、そしてその翌々日には真備町服部地域の会長さん宅の片付けを自ら手伝ってくれ助けられました。長男は自分の所が終わればバイクで他の家を転々と手伝っていた。高校生の娘も自転車で毎日 2 階まで浸水した家を片付けにいっていた。近所の高校生の男の子も自分の家が終われば次々友達の家のお宅をはしごしていて、とても勇ましかった。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	真備の子達は自ら被災しながらも懸命に友達の家を支えていて必死に毎日毎日輝いてみえた。その行動力をみると大人も頑張らねばと思った。人は字のごとく支えながらも生きていることを実感した。近所の子どもが親の作業を手伝い（祖父と実父の言い合う姿を目にし）疲れて、裏庭の川のところにいて、行方が分からず心配して探しにこられたこともあり、子どもも大変だと思った。
子どもたちへの期待やメッセージ	大変な豪雨災害を経験した真備の子ども達です。乗り越えた時には、大きな糧となり、この真備いやこの社会を担って切り開いてくれるような気がしてなりません。いつかいつか笑ってこんなこともあったと思えるその日まで共に頑張っていきましょう。 ☆心傷ついている子ども達へ。 辛いことを我慢せずに大人に伝えてほしい。その大人が余裕がなくてダメな時は次の大人へ。3 人ぐらいに伝えると誰かは味方になり聞いてくれます。私は、いつも真備の子ども達の味方です。共に歩んでいけたらいいですね。

大人 16	
年齢	40代
いつ頃	7月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町　自宅と小学校
だれが	8人（祖父母２人、大人２人、高校生２人、小学生２人）
どんな活動を見ましたか？	家財の運び出しや泥のそうじなど。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	
子どもたちへの期待やメッセージ	自分達の事だけでなく他の人にも気を配れる人になってほしいです。

大人 17	避難所に通う中学生ボランティア
年齢	50代
いつ頃	2018年 7月～10月頃
どこで	岡山県　小学校体育館の避難所
だれが	中学生（15才）
どんな活動を見ましたか？	中学生ボランティアの子ども達は、避難所になった小学校の卒業生で、ほとんど毎日のように、体育館に来ていました。避難者の話し相手になったり、お世話をする手伝いをしていました。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	最初の頃は数人いた中学生ボランティアも、だんだんと少なくなり、8 月以降は、1 人の女子中学生だけになっていました。大人のボランティアの人や、市の人達、避難所の人達とも、すっかり仲良くなって、居心地が良かったのもあったようでした。
子どもたちへの期待やメッセージ	今回のボランティア活動を体験して、人と人との繋がりや、思いやりの心など大切なことを沢山学んだことを生かして、自分の将来に生かして欲しいと思います。

大 人 18	
年　齢	50 代
い つ 頃	8 月
どこで	倉敷市真備町
	薗小学校避難所
だれが	小学生　中～高学年　5,6 人
どんな活動を見ましたか？	私たちは、傾聴ボランティアとして DWAT さんや看護師さんとカフェをオープンしていました。運営サイドは、子どもたちは勉強をするか本を読むかの部屋へ行くようにと言っていました。行き場のない、あまりの暑さにあそび場のない子どもたちもクーラーの効いた部屋に毎日何人もやってきていました。 「高齢の方も、ここでニュースを見たり、お話したりしたいんだ。どうやったら、一緒にこの部屋が使えるかなぁ？」と相談をしたところ…、部屋の中で居場所を分ける、来られたら静かに過ごす、大騒ぎしてたら入ってきにくいかもしれないからほどほどにする…など、子どもたち自身が決め、場所を開け、掃除をし、おとなたちとともに過ごせる場を作るための工夫をしてくれました。さらに、「ようこそコンピュータールームへ！」と黒板に綺麗なイラストをたくさん描いて、呼びかけもしてくれました。部屋は明るく楽しくなり、その後訪れた方たちも「子どもの声はええのぉ～。」「子どもたちも我慢して避難所におるんじゃから、一緒におりゃぁええ！」と、一緒に過ごせる場となりました。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	上にも書きましたが、彼女たちのまっすぐにより良くしようとする姿はあっぱれ！でした。運営サイドへも伝え、カフェへの出入りも OK となりました。避難されている方たちも子どもたちと話したり、トラブル発生時にも「どうしたんなら…」と仲裁に入ってくださったり、「ここで我慢の毎日じゃもの、イライラするわ！」と温かい目で見守ってくださったりしました。みんながやさしくなれる場づくりに子どもたちの行動も大きな力となりました。
子どもたちへの期待やメッセージ	どこにいても、何があっても、やさしさにあふれ、生きる力にあふれたあなたたち。どんな時も大丈夫！と未来へのパワーをもらいました。本当にありがとう！！

大 人 19	2018 歴史に残る七夕
年　齢	40 代
い つ 頃	7（七夕）～8 月中旬
どこで	岡山県倉敷市真備町
	私の実家へ
だれが	family　4 人と
どんな活動を見ましたか？	自衛隊の仕事ぶりに感動した。支援物資がとても助かった。今となっては 1 年前の出来事だったが、当時はがむしゃらに片付け作業をひたすらしていたなぁと。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	すごく必死になって片付けをしてくれた。一部屋分、キソの部分（板）をはがしてくれたり etc.　女の子なのによく手伝ってくれた！
子どもたちへの期待やメッセージ	いろんな経験を基に「あの時の事を思えば…」と顔晴（ガンバ）ってほしいデス。

大 人 20	ちょっとした事だけど、当時の私にとってはとてもありがたかったこと。
年　齢	30 代
い つ 頃	7 月頃
どこで	岡山県倉敷市
	避難所や無料開放の風呂場など
だれが	娘たち
どんな活動を見ましたか？	私には娘が 4 人います。（災害当初は 11 才、8 才、4 才、4 ヶ月。）被災後はとにかく暑い、しんどいの言葉しかなく、四女のお世話もあり、余裕のない毎日でした。避難所で頂く支援物資や炊きだしの荷物持ち。無料開放の風呂場で私が体を洗う時などの四女の子守り。特に長女は、私と同じような体格なので、力もそこそこあるし、ちょっとした事だけど、たくさん手伝ってもらいました。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	「お母さん、○○（四女）、抱っこしておこうか？」と、私が困っている時に、自ら進んで、手伝ってくれる姿を見て、頼もしく思いました。食べたい時に食べれない。外であそびたいのにあそべない。子どもたちもたくさん我慢をして、辛抱してくれてる。と思うと、子どもたちのために頑張るしかない！一日も早く元の生活に戻さなくては！！と、こちらも気合が入りました。
子どもたちへの期待やメッセージ	2018 年の夏は、ものすごい経験をしたね。困っている時は、お互い様。今回の災害で、たくさんの方々に助けてもらって、やっと元の生活に戻ることができているよ。今、この時代。いつ、どこで、どんな災害が起こるかわからないけど、困っている人がいたら、自ら進んでその人のために行動を起こすことができるといいな。

大 人 21	頼もしい子ども達の姿
年　齢	40 代
い つ 頃	7 月 10 日
どこで	岡山県倉敷市真備町
	自宅
だれが	高校生 20～25 名
どんな活動を見ましたか？	水が引き自宅に戻れるようになって 2 日目。二女の通う高校からテスト期間中にもかかわらず、各自自転車や徒歩で駆けつけてくれました。当時まだボランティアなどの動きも始まっておらず、大人も先生も子ども達に参加させて良いかどうか判断できずにいる中、子ども達が率先して行動を起こしてくれました。猛暑と悪臭の中汚水でドロドロになった家財をすべて撤去し、泥をかき出してくれました。水道も復旧しておらず手すら洗えない状況でも文句一つ言わず、笑顔で汗をぬぐいながらすぐに次の家に向かって行きました。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	めちゃくちゃになった自宅を見てどこから手をつけてよいか途方に暮れている時、子ども達の一生懸命な姿に勇気づけられ前へ進むことができました。普段の姿からは見えない芯の強さと優しさを見せてもらい、本当に頼もしく思いました。今でもあの日の光景を浮かべると感謝と感動で胸がいっぱいになります。
子どもたちへの期待やメッセージ	夢に向かって素敵な人生を送ってほしいです。

大 人 22	学校に行かなかった子が…
年　齢	40 代
い つ 頃	7 月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
	避難所
だれが	当時小 4 の次男
どんな活動を見ましたか？	去年、小 4 だった次男が、西日本豪雨で被災後、学校に行って、支援物資や炊き出しをみずからすすんで行ってくれ、とても助かりました。その子は、小 1 の 3 学期から不登校で（母つきそいで）小四から別室へ数分～1 時間登校するようになっていました。被災した時は、1 人ですすんで小学校に行き、しえん物資や、情報をしらべて教えてくれたことに、本当に感動しました。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	子供の将来に不安がありましたが、こうやって人の為に、家族のためにすすんで働けるなら、大丈夫だ、と思え、今まで知らなかった一面を知ることができたことが嬉しかったです。
子どもたちへの期待やメッセージ	私（母）の支え、そして希望です。

大 人 23	
年　齢	50 代
い つ 頃	7 月～8 月
どこで	倉敷市真備町市場
	母の実家
だれが	小学 4 年男の子、小学 6 年女の子（姉弟）
どんな活動を見ましたか？	私の実家の一人暮らしだった祖母の家に避難しそのままいさせてもらうことになりました。自宅からどろどろに汚れた物を持って帰ると暑い中祖母が外の水道で洗ってくれる毎日をくり返し、私たち（親）は自宅の片づけで毎日へトへトでした。子供たち 2 人は祖母を手伝うことはせずテレビをみたりゲームをしたりしてずっと家の中ですごしていました。日頃はよく手伝いをしてくれる 2 人だったのですが、今から思えば現実を受け止めたくなくて、手伝えなかったのかなと思います。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	子供たちに大切にしていた宝物が机の中の引き出しにあるから持って来てほしいと言われて持ち帰ったのですが、ドロドロの宝物や大切にしていた汚れたぬいぐるみをちらっと見ただけで何も言わず家の中に入って行きました。自宅も見たくないとリフォームがほとんど終わるまで川辺には一度も行きませんでした。昼は祖母しかいないので給水の車が来たら水くみに行く力仕事や昼ごはんの手伝いはしていたようですが、わがままをいわずけんかもせず 2 人でテレビをずっと見ているのも親への気遣いだったのかなと今では思います。
子どもたちへの期待やメッセージ	

大 人 24	避難所での食事
年　齢	40 代
い つ 頃	7 月頃
どこで	倉敷市真備町
	岡田小学校
だれが	2 人
どんな活動を見ましたか？	避難所での食事の準備をボランティアの方が用意していただいていたのですが、小学校の生徒が積極的に手伝っていたのが心に残りました。生徒たちも被災していたのですが、明るい行動にはげまされました。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	大人達にも声かけをし、周囲の空気もとてもなごみました。
子どもたちへの期待やメッセージ	どんな困難でも笑顔を忘れず明日に希望を持ち続けて下さい。

大 人 25	
年　齢	40 代
い つ 頃	H30.7 月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
だれが	

どんな活動を見ましたか？	自分の子どもの事で申し訳ないですが…避難させて頂いたお寺で、温かいおにぎりを頂いたり、高台で家が無事だった近所のおばあちゃん達が大勢の人たちのために炊き出しをして下さったり、一緒に一部屋で過ごした高校生が、携帯電話の充電をさせてくれたり、子ども達同士でのツイッター等で、いろいろ情報交換したり（テレビも見れない中この情報で本当に助かった）、サッカーでつながっている、他校の先輩や対戦相手だった事がある顔見知りなだけの他チームの子等からサッカーの道具の物資を寄付したいと連らくをもらったり…本当にいろんな人の温かさにふれて、一緒に被災した三男は、「自分も何か人のためにしたい！」と思った様で、水が引いた後、泥だらけの自転車を洗い、近所のおばあちゃん達に物資を届けてまわっていました。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	三男のツイッター等のやりとりを見て、真備で今、何がおきてるか、状況がわかったし、サッカーで、つながってる…といってもツイッターでつながれた？だけの子ども同士での温かいやりとりを見てとても心が救われました。物資を届けた先のおばあちゃん達もとても喜んでくれたし、今では何でもだるがって動かなかった三男が、猛暑の中人のために動いてくれるのもうれしかったです。壊れた家財の片付けや壁の解体でも、私より力があり、重い物もどんどん運び、おじいちゃんにならって電動ドライバーやバールでどんどん解体を一緒にしてくれて、成長したな、頼れるようになったな…と驚いたと共にうれしく思いました。
子どもたちへの期待やメッセージ	今回の被災での様々な体験・思い・感じた事を忘れず、いざという時に人のために動ける人に成長していってほしい。

大 人 26	小さなスタイリスト
年　齢	40 代
い つ 頃	7 月豪雨すぐ
どこで	真備町二万
二万小学校避難所	
だれが	小学生（高学年女子）

どんな活動を見ましたか？	避難所に送られてきた衣類の仕分けを手伝ったり、おばあちゃんやおじいちゃんに普段着ないだろうと思われる若々しい服装を組み合わせてコーディネイトをしてあげている姿を見ました。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	子供達にコーディネイトをしてもらって、嬉しそうにしていました。普段選ばないであろうと思われる色あいや組み合わせに少し恥ずかしそうにしていた姿にほほえましく感じました。
子どもたちへの期待やメッセージ	行政の方は子供達が物資の仕分けや配給をする事を快く思っていなくて…という話も聞きました。でも子供達に触れ合う事で元気をもらえた人は多数いたように感じました。

広島県からの投稿

【投稿数】

小学生	中高生世代	大人	計
12	7	7	26

100 人以上の命が奪われた広島県は、被害が広範囲に及び、15 市町の自治体で学校施設への土砂の流入などの被害も発生しました。広島市内の公立小学校や三原市内の私立中高からも、被災直後の様子や、ボランティア活動の体験談などが寄せられました。

【手書きの投稿の一部をご紹介】

⑤やってみて、気づいたことや他の人に伝えたいこと、これから大切にしたいことがあれば教えてください。

災害はおこってしまったらしょうがないしますが命を守らないといけないけど、みんなで協力してできるかぎり助け合ってほしいです。

11 才（小学 5 年生）

④周囲の反応はどうでしたか？　（「□□□」と言われた、などありましたか。）

一緒にボランティアをしてくださった方々も喜んでくれました。
またプログラムに参加してくれた子供達の笑顔もうれしかったです。

⑤今回の経験をふまえて、気づいたことや他の人に伝えたいこと、これから大切にしたいことがあれば教えてください。

やはり自分1人でできることってそんなに多くは無いなと感じました。でも、またボランティアに参加したいと思ったときのしまいが低くなった感じがすると思います。また世界中で起きている災害やいろいろな問題にもっと気にかけていこうと思います。

15 才（中学 3 年生）

③子どもたちへの期待やメッセージを書いてください。

昨年の豪雨災害で見たあなたたちの受容力と行動力，そして不便な状況においても前向な姿勢で支え合う姿と笑顔に心が動かされました。当時の不便さ，そしてそれをお互いに協力し合いみんなで乗り越えた数日の事を忘れないでください。きっとその経験がどこかで必ずあなた自身の励みになる事でしょう。感動を本当にありがとう。

40 代

※ 手書きのものも含め、投稿用紙はすべてデータ化して次ページより掲載しています。

小学生からの投稿

小学生 1　みんなを笑顔にするために

年　齢	11 才（小学 6 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	7 月 6 日に近所に住んでいるおじさんとおばさんの家が、土砂崩れをうけ、家がつぶれました。私達は、二人を救出して、私のアパートに避難しました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	いつもお世話になっている人達なので助けたいと思いました。
やってどう思いましたか？	2 人が、土砂にまきこまれなくて本当によかったです。また一緒にあそびたいです。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	土砂崩れがおきた時、アパートのほかの人も気づいたので、私達の部屋に来て、「大丈夫」と言ってくれたり、料理を作って、持って来てくれたりしました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	1 週間ぐらい車を出せなかったので、県外から水を送ってくれたりして、助け合う事の大切さ、友達がいるという事は、とてもいい事だと学びました。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	土砂崩れのさいで、避難所に避難する事が、出来なかったので、分かりません。
どんな応援があったらよかったか	矢野は、たくさんの応援があったので、よかったです。県外で、おきた時には、ボランティアで行きたい。

小学生 2　災害のとき私にできること

年　齢	11 才（小学 6 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	7 月 7 日から矢野祇園町内会で土砂の運びだしや、ボランティアさんへのお茶やおむすびなどの接待をしました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	当時中学一年生だった先ぱいの手伝う姿を見て、自分も地域の役に立ちたいと思い手伝いました。
やってどう思いましたか？	災害の悲惨さを自分の身を持って知ることができ、また、手伝うことでみなさんから喜んでもらって胸がいっぱいになりました。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	「土砂をふくろに入れて運びだす先ぱいとの連けいプレイがすばらしかった」と近所の方がとてもほめてくださりました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	少しでも地域の方々の役に立ててとてもうれしかったです。これからも困っている人を見かけたら自分から助けられるようになりたいです。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	正しくゆうどうしてくれる人
どんな応援があったらよかったか	食事面での支えん

小学生 3　みんなで、がんばろう

年　齢	11 才（小学 5 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	2018 年 7 月。家の近所の人が、食べ物がなかったので、食料をもっていった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	土砂で通れなく、まだ小さい赤ちゃんもいて、それで、まだにげれなかったから。
やってどう思いましたか？	いいことやってよかった。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	「え～！？ありがとう」
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	災害は、あってしまったら、しょうがないしまず命を守らないといけないけど、みんなで協力してできるかぎり助け合ってほしいです。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	水と、かいちゅうでんとう、食料
どんな応援があったらよかったか	手紙

小学生 4　土しゃのかたづけ

年　齢	10 才（小学 5 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	夏休み近所の家で家族と土しゃをかき集めた。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	お母さんが手伝っていたから。最初はめんどうくさそうだなぁと思った。
やってどう思いましたか？	大変だった。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	親切にしてくれて、休ましてくれた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	このようなことがないように、もうちょっと災害が起こらないような工夫をしてほしい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	ひなん用トロッコ
どんな応援があったらよかったか	がんばってなどの言葉。

小学生 5　災害のかたづけ

年　齢	11 才（小学 5 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	去年の夏、お父さんと地いきの方とどろや道路をきれいにしました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	「道路がきたなかったからそうじしよ」とお父さんが言ってきたから少しでも役にたてることをしようと思ったから。
やってどう思いましたか？	大変ででも少しでも他の人の役にたててよかったと思った。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	大変だねといわれた。あと 3 人くらい手伝ってくれてよかった。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	困ったときは助け合いが大切だと思った。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	ひなんするときめがねと薬をもっていった方がよい。自分にしかもっていないものだから。
どんな応援があったらよかったか	積極的にそうじなどをした方がよい。そうすればすぐにきれいになると思う。

小学生 6　小さな力大きなわ

年　齢	10 才（小学 5 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	2018 年 7 月 8 日に、安芸区矢野西七丁目で地いきの人と土砂のてっきょをしました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	五けんとなりの家のうら山がくずれ家の中に土砂が入っていたので家族で話し合って手伝うことをきめました。
やってどう思いましたか？	とてもにおいがきつくてその人はたいへんだったんだなと感じました。そしてとても土砂がおもかったです。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	いっしょに手伝っていた人に「だいじょうぶ？」「暑くない？」「えらいね」「ありがとね」と言われました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	こまっている人がいて助けることでたくさんのありがとうが生まれていろいろな人に広がっていくこと。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	・いりょう品を買えるい動スーパー ・プライベート空間 ・おふろ
どんな応援があったらよかったか	みんなが元気になるようなイベントや絵手紙。

小学生 7　助け合い

年　齢	10 才（小学 5 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	自分の家の前のどしゃをかたづけた。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	自分の家の前に出たときに道路など道が土しゃでよごれていていつまでたってもよごれていたら通れないから。
やってどう思いましたか？	けっこう大変だったけどきれいになってよかった。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	手伝ってくれて「ありがとう」と言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	初めて土しゃのかたづけをやってきれいになったから気持ちもよくなったからよかったです。これからは助け合いを大切にしていきたいです。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	・災害グッズ　・食りょう
どんな応援があったらよかったか	「がんばってね」

小学生 8	土砂かき
年　齢	11 才（小学 5 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	7 月 11 日、自宅で、家族と近所の人達で家のしき地内におしよせた土砂をよけた。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	家の周りが土砂まみれになったから。
やってどう思いましたか？	土砂がとても重く、くさかった。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	「大変ですね。手伝います。」と言って一緒に土砂をかいてくれた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	人が困っている時、助けたり、手伝ったりすることを大切にしたいと思った。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	早めにひなんして、いとこの家に行ったので、とくにないです。
どんな応援があったらよかったか	電気が止まっていて、クーラーがきかなかったので、すずしくなるような物。

小学生 9	災害のときも幸せに
年　齢	11 才（小学 5 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	お母さんと、災害後にしえんをひなん所で、やった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	ひなん所にいる人が、少しでも楽に過ごせるようにしたいと思ったから。
やってどう思いましたか？	ひなん所の人が、「ありがとう」と言ってくれてうれしかった。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	「助かったよ」「ありがとう」と言われました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	「自分だけ幸せだったらいい」と思っている人は、協力してもらえずに、災害などが起こったとき、助けてもらえない。自分のことだけ考えるよりも、みんなと協力して、助けあうことが大切だと思いました。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	ライト、服、薬、歯みがき、スリッパ、食べ物など
どんな応援があったらよかったか	ひなん所にいる人が、ほしいものを聞いて、できる限りのことをする。食べ物で、栄養がとれる食べ物をあげる。

小学生 10	人と人との助け合い
年　齢	11 才（小学 5 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	おばあちゃんの家の前を妹と土しゃを土のうぶくろに入れました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	外に出たとき、きたなくて、水の中に入ったら、土しゃが気持ち悪かったから。
やってどう思いましたか？	土しゃがおもくて大変でした。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	「ありがとう。すごく助かったよ。」と言われました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	人と人の思いやりや人と人との助け合いなどを学んで、これからも大切にしていきたい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	・かいちゅう電とう
どんな応援があったらよかったか	地いきの人のあつまりで少しずつでも地いきをなおす。そのような応援があったらよかった。

小学生 11	助ける
年　齢	11 才（小学 5 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	大雨がふった次の日家に帰ると県道が土しゃくずれで通行止めになっていました。じゅうたいで動けなくなった車に乗っている人に食べ物や飲み物を配ってあげました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	前日の夜からお昼まで動けなかったのでおなかもすいていると思いました。おばあちゃんやおかあさんがおむすびを作ったので少しでも元気になってほしかったから。
やってどう思いましたか？	自分がしてもらった場合を考えてした。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	「ありがとう」と言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	これから大切にしたいことはこまっている人がいたら助けることです。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	飲み物、食べ物、ねるふとん、かいちゅう電とう
どんな応援があったらよかったか	ひじょう食をひなん所においていていつでもだせるようにしたら良い

小学生 12	ボランティア
年　齢	11 才（小学 5 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	災害が起きて夏休みの終わりまで、お父さんやお母さんとひ害にあった家の土砂をてっきょしたりしました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	人のためになろうと、早く町がもとどおりになってほしかったからです。
やってどう思いましたか？	これは時間がかかると思った。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	ありがとう、助かったよなどと言われました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	あいさつや声をかけることを大事にしたいです。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代からの投稿

中高生世代 1	知らなかったから知りたかったから		
年　齢	16 才（高校 1 年生）	い つ 頃	9 月頃
どこで	広島県		配給所
だれと	先生と生徒（有志）で。10 人くらいで。		
どんな活動をしましたか？	物資の配給所で、生活用品や非常食などを渡したり、お話しをしたりしました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	自分自身も被災し、私は災害を楽しんでいました。いつもと異なる日常、ろうそくや非常食が面白くて、仕方がありませんでした。その後、土砂崩れの現場やニュースなどを見て、困っている人、死者の数に驚きました。そして、知りたくなりました。困っている人、悲しんでいる人の「今」を知るべきだと思いました。また、少しでも役に立つことで、楽しんでいた自分を叱りたかったからです。動機は 7 割の「知りたい」と 3 割の謝罪でした。		
やってどう思いましたか？	始めは、なにもできず、つっ立っていました。私にできる事ってないのかな、と思っていました。そこで、声をかけてくれる同じボランティアの人や、被災された方に励まされました。物資の紹介をしたり、整とんをしたり、自分にできることをすることができました。思っていたより、できる事は少なくて、でもその小さい働きでも本当に感謝して下さる人がいて、単純に幸せで嬉しかったです。		
周囲の反応はどうでしたか？	配給所のボランティアを仕切って下さっていた大学生の方に、「お疲れ様、ありがとう。助かる。」と声をかけて頂きました。大学生は岩手からいらっしゃった方でした。その人のほうが走り回っていて、大変そうで、助けているのはその人なのに、周りの私達にまで温かく接して下さりました。また、物資を受け取りに来て下さった方に、「ありがとう、若いのにありがと。頑張ってね」と言っていただきました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	配給所には人がたくさんいらっしゃいました。そこで、たくさんのお話を聞かせて頂きました。DVD が見たいけれど、テレビは土砂などでもう使えなくなってしまった人。小さい子供が悲しそうに DVD を抱いている姿が忘れられません。本当に困っている人は楽しみさえ奪われてしまいます。心の傷をいやすのに、楽しみが必要です。千羽鶴を折るよりも、その色紙代を募金して欲しいです。「本当に必要なもの」を送って下さい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	本（暇があると、不安がつのるので）、空間（狭いと、やはり怖い）、汗ふきシート、笑顔（あたたかい笑顔は心を落ちつかせてくれました）		
どんな応援があったらよかったか	情報が入ってこなかったので、なにか、情報を受けとれるものが欲しかったです。偽善でも、善いことをしようと思うなら行動して欲しい。		

中高生世代 2	物資提供
年　齢	15才（高校１年生）
いつ頃	９月頃
どこで	広島県三原市　船木小学校
だれと	同級生や後輩と、15 人くらい。
どんな活動をしましたか？	全国から届いた物資（主に衣類）の提供と整理。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	少しでも、誰かの手伝いがしたかったから。ボランティアに興味があったから。
やってどう思いましたか？	実際に困っている人がいることを実感し、必要なものを提供できて、うれしかった。
周囲の反応はどうでしたか？	うれしそうに、自分たちが提供している衣類を選んでいた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	自分１人の力でも、誰かの役に立てるという事が分かったので、「自分だけじゃムリ。」と思っている人に伝えたい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	生活用品など。
どんな応援があったらよかったか	災害にあった方々は色々な物資を必要とされているので、少しでも多くの物資を寄付してほしい。

中高生世代 3	誰かのために、笑顔のために。
年　齢	16才（高校１年生）
いつ頃	昨年の冬頃（？）
どこで	広島県三原市　避難所
だれと	中学の頃の人たち。（先生なども一緒に）
どんな活動をしましたか？	避難所に来る子供たちと一緒にべっこうあめを作ったり、そうめん流しをしたり、あめを配ったり、避難所に来ていた人とお話しする機会もありました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	中学校の頃、休日を使って行けるという機会があったので、暇をするよりは…と思って参加しました。
やってどう思いましたか？	それまでボランティアというボランティアをやった事がなかったので、初めてでしたが、たくさんの人の笑顔や、感謝の言葉をもらい、逆に自分がひさい者の方々に元気をもらいました。
周囲の反応はどうでしたか？	ボランティアの服を着ている私たちを見ると、「わざわざありがとうね。」と、嬉しそうに声をかけてくれる人たちがたくさんいました。あるおばあちゃんの荷物をはこんでいると、「あなたたちくらいの子たちを見ると元気が出るわ。」と言ってくれた事をはっきり覚えています。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	私はこれまで、自分の事ばかり考えてばかりで他人の事なんて正直どーでもいいと思っていました。ですが、ボランティアに参加する事で、たくさんの人の笑顔、たくさんの人からもらう「ありがとう」の言葉に、逆に元気づけられている自分がいました。人のために何かをする事は、『苦』ではないと、初めて思った瞬間でした。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	特に…
どんな応援があったらよかったか	特に…

中高生世代 6	砂集め
年　齢	15才（中学３年生）
いつ頃	
どこで	
だれと	同じ学校の友達と
どんな活動をしましたか？	パチンコ屋の駐車場にたまっていた泥や砂を集める作業。はき棒を使って砂を集めシャベルで袋の中に入れる。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	学校でボランティアの企画があったので参加した。
やってどう思いましたか？	地味な作業だと思った。役に立ったのか疑問に思った。
周囲の反応はどうでしたか？	砂が風に飛ばされ洗濯物が外に干せないと依頼してくださった方に「ありがとう」とお礼をいわれた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	他人のために何かをするということは、大変であったとしても人を助けたという達成感は、疲れをいやしてくれる。人のために人生を使っていけたらいいなと思った。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 4	初ボランティアへの参加
年　齢	15才（中学３年生）
いつ頃	９月頃
どこで	三原市　旧　船木小学校
だれと	同じ中学校の生徒、先生　約 10 人
どんな活動をしましたか？	小学校に届いた衣類のサイズ分け、整理。子供向けプログラムの手伝い。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	これまでに具体的な“ボランティア”に参加したことがなく、学校の休日を利用して何かできることがあればと思ったから。
やってどう思いましたか？	実際、「役に立てた」という実感はあまりありませんでした。ですが、実際の災害にあわれた方々の支援をする場所を自分の目で見て体験することはとても新鮮でした。
周囲の反応はどうでしたか？	一緒にボランティアをしてくださった方々も喜んでくれました。またプログラムに参加してくれた子供達の笑顔もうれしかったです。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	やはり自分１人で、できることってそんなに多くは無いなと感じました。でも、またボランティアに参加したいと思ったときのしきいが低くなった感じがすると思います。また世界中で起きている災害やいろいろな問題にもっと気にかけていこうと思います。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 5	人々の明るさに感動した時。
年　齢	15才（中学３年生）
いつ頃	９月
どこで	広島県三原市
だれと	中学校の有志の人たち 20 人ぐらい
どんな活動をしましたか？	私は、学校から少しいったところにある施設で、施設に訪れた人たちに物資を提供したり、子供たちとそうめん流しやべっこう飴づくりをしました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	その頃、私は生徒会会長をしていて、振休をつかってボランティアをするという企画を先生にすすめられました。人のためになり、また良い経験になると思い、企画をうけたのがきっかけです。
やってどう思いましたか？	施設に訪れた人や、被災した方でボランティアに参加してる人とお話しする機会がありました。大変だっただろうに、笑顔で明るくおはなししてくださったり、子供たちが施設で用意したプログラムに楽しそうにしている様子をみて、明るくすごしていて感動しました。
周囲の反応はどうでしたか？	被災された方でボランティアに参加されていた人がいました。その方に「あなたたちみたいな若者が社会に貢献して日本を変えてくれたらうれしい」と言われました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	今、私たちが日常的に行っていることは多くの人にはあたり前だと感じられていると思います。あたり前であるために私たちは多くの不平・不満を言ってしまいます。でも私たちがあたり前だと思っていることがある人にとってはすごくて価値あるものだと思っている人々が世界中にたくさんいて、そんな環境でもいつも明るく、私たちよりも感謝をもってすごしています。私たちは自分の生活をみつめながら、どのように過ごしていくかを考えていきたいものです。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 7	笑顔作り
年　齢	14才（中学３年生）
いつ頃	2018　７月頃
どこで	広島県　三原市　オリブ寮
だれと	帰れなかった寮生と。
どんな活動をしましたか？	・雨が止んだ後、トイレを流すための水をくみに行き、バケツリレーをしました。 ・停電し、後輩たちが不安そうなとき、共に神様にお祈りしました。 ・川へ洗濯をしに行きました。 ・近所の人の手伝いをしました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・バケツリレーは、みんなで協力することで、少しでも明るい空気を作るためです。 ・神様にお祈りした理由は、私達が信じる神様とお話しして不安な気持ちをとりのぞいて下さいと、神様にお願いするためです。 ・川へ行き洗濯をすると、昔の時代へタイムスリップした気持ちでした。
やってどう思いましたか？	生活するために必要な物を、自分達でそろえそれを使い生活する。とても新鮮で、また、どれだけたくさんの人々に支えられて生活しているのかを学ぶ良いチャンスとなりました。
周囲の反応はどうでしたか？	私達、寮生がとった行動を通してたくさんの人が笑顔になって下さいました。そして、たくさんのありがとうを下さいました。ありがとうの数だけ、笑顔が増えました。悲しい災害の中であっても、笑顔を咲かせることができました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	今回の経験をふまえて気付いた事は、人と人との関わり、そして笑顔の大切さです。人は、関わるから生きている。人と人との関係が、人を作り上げそして笑顔を生むのです。災害の中から、このような、大切な大切な、学びをすることができました。周りの人への感謝と、決して１人では生きていけないと言う事を、その学びを大切にしていきたいです。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	・足元をてらすライト（停電していたら） ・不安しのぎのための遊ぶ物
どんな応援があったらよかったか	

大人からの投稿

大人 1	負けたくないのがこどもの本音
年齢	40 代
いつ頃	2018 年 7 月 ～2019 年
どこで	広島市安芸区矢野東
	被災地近郊
だれが	複数
どんな活動を見ましたか？	私はこどもの支援活動をしました。そこに来ることもたちが、喧嘩して泣いて、揉めていましたが、次第に助け合い、ときには大人の手伝いをかって出ることもありました。避難所にいる方に物資を届けたときには、全く関係ない子どもに、御礼をいわれました。仮設住宅にいる子どもをサバイバル教室に招待したときは、大きくなったら御礼をするとはっきり言ってお辞儀をされました。支援活動を続けてこれたのはこどもたちが背中を押してくれていたのだと思います。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	その姿から災害から身を守る方法を教えていないから恐怖を覚える子どもがいるけど、災害から身を守る方法を教えたらこどもたちは、立ち向かうのではないかと思いました。
子どもたちへの期待やメッセージ	これからは大人だけでは災害に立ち向かうことはできません。こどもたちの力と知恵を貸して欲しいと思います。

大人 2	旧船木小学校での支援物資の仕分け作業と配布、子供向けイベントのサポート
年齢	50 代
いつ頃	2018 年 9 月
どこで	広島県三原市本郷町
	旧船木小学校
だれが	広島三育学院中学校の生徒 9 名（中 3：7 名、中 2：2 名）
どんな活動を見ましたか？	私たち広島三育学院中学校も 2018 年 7 月 6 日から 7 日にかけて豪雨に見舞われ、電柱が倒れたことによる停電で電気・水道が数日間使用できなくなり、学校に通じる道路も山崩れによる通行止めになりました。全寮制で全員が寮に住んでいるため寮がそのまま避難場所となり、数日間ではありますが入浴や洗濯ができず、夜は懐中電灯やろうそくで過ごす避難所生活を体験しました。その時に普段はすることのない不便な生活を経験し、多くの人たちの助けをいただくことから感謝の思いを学び、次は自分たちも困っている人たちの役に立ちたいとの思いから、9 月中旬に行われた体育祭の翌日の休日を利用して災害ボランティアに参加することにしました。三原市のボランティアセンターに行くと、救援物資の受付・配布場所になっている三原市立旧船木小学校でのボランティアが割り当てられました。現地ではそれぞれの特性を生かして役割を分担し、続々と持ち込まれる救援物資の仕分けや、来場された希望者に物資の配布を行う作業を行いました。特に衣料品の配布では、小さい子供や小中学生向きの服を求めておられるご年配の方にアドバイスする姿が印象的でした。また当日は敬老の日で来場者が多く、子供向けの流しそうめんやカルメ焼きなどのイベントが催されており、子供たちをサポートする役割も与えられ優しく寄り添うという貴重な体験をさせていただき、被災された地域の方々とも温かい交わりの一時となりました。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	被災された方々を「少しでも励ましたい」、「少しでも助けたい」と笑顔で温かく接する姿から、子どもたちにも何かできることがあること、そして子どもたちだからこそできることが絶対にあると強く感じました。本校はキリスト教主義の全寮制の学校でありますが、普段から行っている寮生活や「隣人を愛しなさい」という聖書の教えがこのような時に大きく生かされるのだと強く感じ、これからも何かお手伝いをできる機会があれば参加を促していきたいと思いました。
子どもたちへの期待やメッセージ	私たちの住む日本の国は、いつ、どこで、誰が災いに巻き込まれるか分からず、誰もがその可能性があると、近年の様々な出来事を通して強く感じさせられます。だからこそ、何かが起こった時に決して他人事とは思わず、お互いに助け合う気持ち、可能な時には積極的にその場に出かけて行こうとする気持ちを持ち続けて欲しいと思います。私たちには小さな事しかできないかもしれませんが、必ずその助けで笑顔になる人たちもいるはずです。その人たちのためにも、自分たちの持っている小さな力をみんなで共有していきましょう。

大人 3	誠実に働くということ。
年齢	30 代
いつ頃	
どこで	広島県本郷町
だれが	10 人
どんな活動を見ましたか？	中学生男子 10 人程度で、営業されていないパチンコ屋さんの駐車場での、土砂を土のうにつめ、運び出す作業を行いました。明らかに長年、使用された形跡がない建物であり、本当にこれは必要な作業なのか、誰しもが疑問に感じる作業でしたが、中学生の子供達は何も言わず、笑顔で黙々と作業を始めました。休み時間をほとんどとらず、ゴミを撤去し、砂を払い、グラウンドほどのサイズの駐車場をキレイにしていました。誠実な働きとは、こういうものなのだなと感じました。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	被災者の方々が経験した、苦しみや不安を、ボランティアの人間は理解できません。だから、我々にとって不要なものと思えても、意味や why を考えずに作業することも、とても大切なことなのだと思います。大人の力は中学生よりも大きく、多くの作業をすることができますが、色々と考えてしまう大人より、素直に働くことができる中学生の方が「誠実」という言葉には近いのかなと感じました。
子どもたちへの期待やメッセージ	子どもは希望です。子どもが輝く光は未来をてらします。自分の力で、世界をより良い方向へと変えていけるということを信じて、笑顔を大切にしていって下さい。

大人 4	「被災地での支え合い」
年齢	40 代
いつ頃	2018 年西日本豪雨直後
どこで	広島県三原市大和町
	広島三育学院
だれが	広島三育学院中学生女子
どんな活動を見ましたか？	停電のため真っ暗な寮で過ごした初日は不安がピークに達し泣き出す 1 年生を上級生が優しく慰め励ましている姿が見られました。停電に加えて断水となりトイレやお風呂を今までのように使う事が出来なくなりました。その中で中学生はきれいな雨水が流れ出ている場所を見つけ、10 名ほどで 90L の大きなバケツをいっぱいにして荷台で運び、その水を洗面器で汲んでトイレを流すことを考え実践していました。「先生楽しい！」「見て！これだけあればしばらくはトイレも大丈夫ですね！」と作業を行なっていた逞しい姿を今でも思い出します。 夜には寮生が協力し合い自分の懐中電灯を廊下に置いてみんなが安全に過ごせるよう工夫をしていました。おどろく事に寮生はみなすぐにこの不便な状況を受け入れ、それぞれが出来る役割を自ら探して過ごしていた事が印象的でした。舎監だけではどうにも出来ない力仕事やお互いへの気遣いを協力しあって行ってくれた事に大変助けられました。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	中学生が声かけをしながら互いに励まし合う姿、そしてどのように工夫をしたら良い環境づくりができるかを考えて実行する姿に感動し、子供達の受容力と可能性を強く感じました。
子どもたちへの期待やメッセージ	昨年の豪雨災害で見たあなたたちの受容力と行動力、そして不便な状況においても前向きな姿勢で支え合う姿と笑顔に心が動かされました。当時の不便さ、そしてそれをお互いに協力し合いみんなで乗り越えた数日の事を忘れないでください。きっとその経験がどこかで必ずあなた自身の励みになる事でしょう。感動を本当にありがとう。

大人 5	まっすぐな子どもたちだからこそ!!
年齢	30 代
いつ頃	2018 年 7～8 月
どこで	広島市安芸区矢野東
だれが	マールこども食堂に参加してくれていた子どもたち
どんな活動を見ましたか？	災害後に避難所などで騒ぐと大人たちから怒られ子どもたちのストレスもすごくたまっていたと思います。マールこども食堂＆寺子屋を開催する中で子どもたちはそれを私たちにぶつけてきてくれました。ルールを守らない、暴言を吐く、いたずらをする、食事を残すなど。でもそれを表現してくれたからこそ、大人はどう対応していけばいいのかを考えることもできたし、子どもたちの抱えるストレスが見えてきました。話を聞いたり、ストレス発散の場を設けることで、だんだん心を開いてくれて、友人の輪が広がったり、準備片付けを手伝ってくれるようになったり、家や土砂の片付けをする大人を見送り待てるようになったり。その子どもたちの笑顔に大人は本当に救われました。子どもはその存在だけで素晴らしいし、未来を作る宝物です。その笑顔が見れることで、大人たちも頑張ろうと思えました。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	女性は特に土砂かきなどのボランティアはできない人が多く、悲惨な状況の中で何もできない自分を責める人も出てきました。その中で、子どもたちと遊ぶ（勉強を教えるなど）という普段は当たり前のことを一緒にする中で、自分も役に立てているんだと感じられ、前向きになれた大人がたくさんいます。我慢しすぎず、思ったことを行動やことばに表す子どもたちのおかげで大人たちが救われていたと感じます。実際に私自身、娘の体にじんましんが出たことがきっかけでマールこども食堂＆寺子屋をスタートすることになり、そこにたずさわれて自分の役割が出来たので、被災後乗り切れたと感じています。
子どもたちへの期待やメッセージ	素直に思ったこと感じたことを表現してください!! それがあなたたちの素晴らしいところ!!

大人6	立ち向かう子供達		
年齢	40代	いつ頃	2018.8～
どこで	広島県安芸区、坂町、呉 岡山県真備	災害現場・各地避難所	
だれが	小・中・高の子供達		
どんな活動を見ましたか？	被災した我が家を、元の姿に戻したい一心で、大人に混じって何かを手伝おうとする子供達。泥の中に埋もれてしまった、水に浸かった本や服を、なんとか使えないかと物を救いだそうとした子供。土砂出しの休憩の合間をみては、飲み物を持って来てくれたりしてくれました。「ありがとう」の言葉も、たくさん頂きました。		
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	1件の家屋を救うのには、長い時間がかかりますが、「あと何日かかる？」「明日も来てくれる？」の言葉の返事に詰まりました。避難所でも、夜中に泣き出す子や、雨が降ると不安になる子もいて、話し相手になってなだめることしか出来ませんでした。		
子どもたちへの期待やメッセージ	何があっても、まっすぐに進むことをあきらめないで欲しいと願っています。これからの未来は、その子達が作っていくので。		

大人7	子供に出来る、心のボランティア		
年齢	30代	いつ頃	2018.7月頃
どこで	安芸区矢野南	矢野南小学校（避難所）	
だれが	中2.高1.女子		
どんな活動を見ましたか？	・避難所へ入り、被災地でのボランティア活動。 ・女子でも出来るボランティア、被災者へのお声がけや、話し相手。 ・いやしのブースにて、アロママッサージのボランティア。		
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	手と肌がふれることで、被災地の方々が、安心感が出て大人のボランティアの方より意味のあるボランティアになりました。子供が被災者と一生懸命話し相手をしているところを見ていると、大人はどうしてもザワザワした中でのボランティアをしていたので、話し相手をしてくれることは、すごく助かりました。		
子どもたちへの期待やメッセージ	子どもだからダメということではなく子どもでしか出来ないこともあるので、させてみることは大事だと思いました。(女子だからという理由で出来ないこともたくさんあることも知りました。)		

愛媛県からの投稿

【投稿数】

小学生	中高生世代	大人	計
2	4	2	8

愛媛県は、特に南予の宇和島市、西予市、大洲市で大きな被害となり、30人以上の方が命を落としました。
大洲市内の公立中学校から取りまとめて提出があったほか、児童館からの投稿もありました。

【手書きの投稿の一部をご紹介】

①どんな活動をしましたか？　（実際に行ったことを教えてください。うまくいかなかったことでもいいです。）

とにかく部屋からどろ水を外にブラシではきだした。
だが、はいてもはいてもどろ水はでてくるから、服がどろまみれになった。

②なぜ、それをやろうと思いましたか？　（きっかけや、理由、どんな気持ちで始めたか教えてください。）

それをからないと家に帰れないし、一生に一度の体験だと思ったから。

13才（中学1年生）

①いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？

水がいのあときたじどうかんで友だちとしえんぶっしを分けました。（えんぴつやけしゴムをならべたりしました。）

②なぜ、それをやろうと思いましたか？（きっかけや、理由、どんな気持ちで始めたか教えてください。）

先生が大へんそうだったから。

8才（小学3年生）

②子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？（あなたや周りの大人に与えた影響など。）

びっくりしました。私は自分のことばかりで全く余裕がなく自分がやらなくてはと思っていた。助けてもらえると思ってなかった。すごく心があたたかくなって、家の片付けで助かっただけでなく、私の気持ちも軽くしてもらえた。助けてもらっていいんだと心が脱力できた。

40代

※手書きのものも含め、投稿用紙はすべてデータ化して次ページより掲載しています。

小学生からの投稿

小学生 1	僕の水汲み
年　齢	11 才（小学 6 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	毎朝、道の駅の給水所でじいちゃんと水をもらいに行った。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	水がなかったから。じいちゃんがどうやって水をもらうのか知りたかった。
やってどう思いましたか？	ネクスコ西日本の給水車が来ていない頃は、500L のタンクに水をバケツで入れないといけなかったので大変だった。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	皆同じ環境なのでほとんど何も言われなかった。水を汲んでいるとよく新聞社に写真を撮られた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	断水になると言われていたが、どのくらいの期間断水になるのか全く分からなかった。嘘の情報が流れたりするので、正しい情報を見極めてほしい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	避難所には行っていない。
どんな応援があったらよかったか	ポリタンクが少なくて困った。ホームセンターもすぐに売り切れてしまった。

小学生 2	
年　齢	8 才（小学 3 年生）
いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？	水がいのあときたじどうかんで友だちとしえんぶっしを分けました。(えんぴつやけしゴムをならべたりしました。)
なぜ、それをやろうと思いましたか？	先生が大へんそうだったから。
やってどう思いましたか？	力しごとになってよかった。
まわりの人はどんな反応をしましたか？	「ありがとう。」と反のうした。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	人にありがとうといわれるだけで力になるからみんなのえがおを大切にしたい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	エアコン、タオル
どんな応援があったらよかったか	水がいにまけるな！！

中高生世代からの投稿

中高生世代 1	助け合いの中で生きる		
年　齢	16 才（高校 1 年生）	い つ 頃	7 月頃
どこで	愛媛県大洲市	ラ・ムー	
だれと	友人と、数人で		
どんな活動をしましたか？	汚水に浸かった店内の商品を分類しながら店外に出した。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	災害後すぐの時に、友達と、ちょっとした好奇心で災害にあった場所付近にジョギングへ行きました。現場につくと、今まで見たことないような、酷い光景でした。自然の恐ろしさを感じた瞬間でもありました。今思うとなんて不謹慎なことをしたのだろうと自分が愚かに思えました。それから「なんかやらんといけん。なにか行動を起こさんといけん。」と、思うようになり、少しでも力になれればと行動に移しました。		
やってどう思いましたか？	家が浸水したり、断水していたり、避難所生活の人もいて、たしかにその困っている人たち皆を助けることは僕一人にはできなかったと思います。でも、色んな場所から色んな助けがあり、困っている人を助けたいという気持ちはどこにいても同じで、そういう人が 1 人 2 人と集まったことで、約 1 年経った今、ほぼ元通りになりつつあると思います。率直に、少しでも力になれていたなら本当に良かったと思います。誰かは知らないけれど、人のためになっているのかと思ったら、少し存在価値(生きがい)を感じました。		
周囲の反応はどうでしたか？	被災地の方からは感謝されました。 親からは誇らしく思われました。 友達からは「凄いね」等と言われたけれど、何も凄いことではないと思いました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	普通が普通でなくなる、これは本当に怖いことだと思う。人は助け合う生き物だ。こういう時に改めて「人は 1 人では生きれない」と身にしみて感じる。人は自然の中で生きているから、簡単に自然によって生命を奪われる。いつもは穏やかな自然も、どうしてか怒り出す時がある。その時にいかに対処できるのか。現在、高齢者が増え続けている。災害時、1 番被害に遭いやすいのは高齢者だ。突然の災害の時に、いかに高齢者を安全に避難させることができるかがこれからより重要な課題になってくると思う。こういう時だから、ではないが、人が困っている時に、なにか行動しようとすることは、人として大切なことだと思う。それはいつかきっと逆の立場になった時の自分に返って来るかもしれないから。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	綺麗な水（飲料水も生活用水も）		
どんな応援があったらよかったか	人手、食料物資		

中高生世代 2	かぐなどをはこんで
年　齢	12才（中学１年生）
いつ頃	７月頃
どこで	愛媛県大洲市
	家
だれと	かぞくと５人
どんな活動をしましたか？	水害の時にいろんな物を二階にあげた
なぜ、それをやろうと思いましたか？	水につかって、使えなくなるのはいやだから
やってどう思いましたか？	おもかったけどかぐなどがしずまなくてよかった
周囲の反応はどうでしたか？	えらいね
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	あきらめなければなんとかなる。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	つかったときに、にげるようのボートをふやしてほしい
どんな応援があったらよかったか	がんばれ

中高生世代 3	西日本豪雨後の家そうじ
年　齢	13才（中学１年生）
いつ頃	７月頃
どこで	愛媛県大洲市柚木
	おばあちゃんの家
だれと	お兄ちゃんとお母さん（お父さんは仕事でいなかった。）
どんな活動をしましたか？	災害後の家そうじ
なぜ、それをやろうと思いましたか？	家をきれいにしないと住めないし、きたないから。
やってどう思いましたか？	けっこうしんどかったけど友達などが手伝ってくれて楽しくできたので良かった！
周囲の反応はどうでしたか？	大変やね、頑張って！などと言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	災害の後はどろの匂いなどがくさかった。そうじもけっこう大変で床がどろまみれですべりやすかった。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	※避難はおばあちゃんの家にしたので特にないです。
どんな応援があったらよかったか	頑張って！などが嬉しいですが、言ってもらえたので特にないです。

中高生世代 4	我家
年　齢	13才（中学１年生）
いつ頃	７月頃
どこで	愛媛県大洲市
だれと	家族５人くらい
どんな活動をしましたか？	とにかく部屋からどろ水を外にブラシではきだした。だが、はいてもはいてもどろ水はでてくるから、服がどろまみれになった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	それをやらないと家に帰れないし、一生に一度の体験だと思ったから。
やってどう思いましたか？	とてもつかれたけど、なんだか家がどんどんきれいになっていく実感があった。
周囲の反応はどうでしたか？	周囲も自分の事でせいいっぱいだった。でも、さぼりぐせの自分がとても頑張っていたから、「えらいねぇ」などと家族に言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	初めて見る事に、私はなんて無力なのだろうと思った。このような事が目の前で起こっているのに、何もできないなんて。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	避難所には行きませんでした。
どんな応援があったらよかったか	今の応援がすごかったです。うれしかったです。

大人からの投稿

大人 1	～子どもたちへの種まき～　災害で感じたこと
年　齢	40 代
いつ頃	７月７日～
どこで	愛媛県大洲市
	喜多児童館
だれが	利用児たち　０才～12 才の子どもたち
どんな活動を見ましたか？	暑い中、子どもたちのいる場所がなく、児童館を開放し、受け入れ子どもたちが遊べるようにした。（幼児の親子も対象） 子どもたちの日用品や学校用品をうけ入れ、その仕分けを「手伝おうか」と自発的にしてくれる姿や、年長者と年少者が自然とかかわり声をかけあって手伝ったり、あそんでいた。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	子どもたちなりに現状を理解し、いつもなら見てみぬふりをすることかもしれないが、声を上げて手伝ってくれたり年少者のことを見守りあそぶ姿に“思いあう、助けあう”ことの姿をみたように思う。そして日常であることのすべてがありがたいと思った。まずは日頃から大人がその姿をみせておくことで子どもの中に種まきができると感じた。
子どもたちへの期待やメッセージ	災害がおこった時、どうしようもない不安ややりきれない思い、つかれなどあるが、子どもたちが元気で笑顔でいてくれるだけで、周りの大人は心が晴れてくる。子どもたちの笑顔や元気がなによりの宝です。

大人 2	助けてもらった。
年　齢	40 代
いつ頃	７月
どこで	愛媛県大洲市
だれが	親族　小３、高１、高３
どんな活動を見ましたか？	家の片付けを手伝ってくれた。小学生の子供さんを含めて、家族みんなで助けに来てくれた。とにかく一生懸命できることをしてくれた。
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	びっくりしました。私は自分のことばかりで全く余裕がなく、自分がやらなくてはと思っていた。助けてもらえると思ってなかった。すごく心があたたかくなって、家の片付けで助かっただけでなく、私の気持ちも軽くしてもらえた。助けてもらっていいんだと心が脱力できた。
子どもたちへの期待やメッセージ	一階がほとんど水に浸かった我が家を見て、ショックだったのでは？と心配になったが、できることをがんばってくれた。水害のことを忘れないでいてほしい。自分も関わって、小さい体でも役に立っていたことを自信につなげてほしい。感謝しています。本当にありがとう。

兵庫県・宮城県からの投稿



【投稿数】

中高生世代		大人	計
兵庫県	宮城県		
88	4	1	93

兵庫県立舞子高等学校（神戸市垂水区）では、阪神・淡路大震災の教訓を活かし、防災教育の推進を目指して 2002 年に全国で初めて防災専門の学科「環境防災科」が設置されました。また、東日本大震災後、防災教育の充実を復興の重点として掲げた宮城県震災復興計画を踏まえて、宮城県多賀城高等学校（多賀城市）でも 2013 年に「災害科学科」が設置されました。両校ならびに、兵庫県内の多くの高校で被災地支援のボランティア活動への取り組みがあり、投稿を呼びかけたところ、90 件を超える投稿が寄せられました。

【手書きの投稿の一部をご紹介】

②なぜ、それをやろうと思いましたか？　（きっかけや、理由、どんな気持ちで始めたか教えてください。）

私の住む神戸の町も震災の時にたくさんの方のボランティアや支えがあって、助けていただいたので少しでも困っている町の役に立ちたいと思う気持ちで始めました。

③やってどう思いましたか？　（やってみてどんなことを感じたのか、気持ちや思ったことなどを教えてください。）

私がボランティアに行った家の方が喜んでいたり、災害時の状況を話してくださったりして、ボランティアは町の復興のためだけで行くのではなく、現地の方の体調面に気がついたり、精神面の支えになったりすることもできると知ることができました。

17 才（高校 3 年生）

⑤今回の経験をふまえて、気づいたことや他の人に伝えたいこと、これから大切にしたいことがあれば教えてください。

中途な状態で被災地に行くことの危険さを伝えたいです。災害にあってしまった所には危険な場所が多くあります。服は長袖で、ヘルメットは絶対かぶって、マスクもして、などと、万全な状態で行かなければ、自分の命を犠牲にしてしまう可能性があります。だからこそ、伝えたいです。

16 才（高校 2 年生）

③子どもたちへの期待やメッセージを書いてください。

被災地や被災者の方はもちろん、自分の身近な人についても自分自身のことも大切に思えるようになることに、ボランティアの意義はあると思います。

そういう気持ちを持った若者がこれからの日本（世界）を支えるようになってもらいたいです。

40 代

※ 手書きのものも含め、投稿用紙はすべてデータ化して次ページより掲載しています。

岡山県
広島県
愛媛県
兵庫県
宮城県

中高生世代からの投稿

中高生世代 1	初めての被災地のボランティア活動で感じたこと。		
年　齢	現在 16 才（高校 2 年生）	い つ 頃	2018 年 8 月頃
どこで	岡山県倉敷市		
だれと	学校の募集で集まったボランティアの人達と 40 人くらいで。		
どんな活動をしましたか？	民家の中の泥で汚れてしまった家具や家電などを家の外に出す手伝いと、流木やゴミなどの撤去作業をしました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	前から、何か困っている人の役に立ちたいと思っていました。それに、学校に貼り出された募集の紙を見て、力仕事なら自分にも出来るかもしれない、少しでも役に立てたらいいなと思い、ボランティアに参加することを決めました。		
やってどう思いましたか？	初めて災害の被災地に行きました。想像していたよりも、被害が大きく、家が半壊していたり大量のゴミが、道路の脇に集められている状況を見て、正直に言うとショックが大きかったです。どこの家も住めるようではなく、砂ぼこりがまっていて、あたり前ではない景色が広がっていて、少し怖くなりました。現地について、すぐにボランティア活動が始まりました。始めてみると、力仕事が主ですごく疲れました。一生懸命取り組みましたが、まだまだ外に出さなければいけない物が多くて、なのに、次の場所に行く時間になってしまって、これはすごく時間のかかる作業だなと思いました。現地の人は毎日、こんなに大変な思いをしているのかと思うと、自分ではできないなと感じるほど、しんどかったです。		
周囲の反応はどうでしたか？	作業をした家の人から、「ありがとう」と一言、いただきました。その言葉だけでも人の役に立てて良かったなと思いましたが、さらに、ジュースまでいただきました。現地の人は毎日自分の生活を立てなおすことで大変なのに、ボランティアの僕達にまで気を遣っていただいて、とても心の温かい方々だなと感動しました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	このボランティア活動で、実際に現地に行って感じたことは、人と人との支え合いがすごい大切だと思いました。毎日力仕事で大変で心も体もしんどい状況でも、被災地の方々は、近隣の人と笑顔で話していたり、汚れがひどいお宅の掃除の手伝いをしたりしていました。そういうことが、みんなで復興させようという気持ちを作って毎日の大変な作業を頑張れるのかなと思いました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代 2	西日本豪雨ボランティア活動を通して。		
年　齢	17才（高校３年生）	いつ頃	2018年８月
どこで	岡山県倉敷市		
だれと	同じ学校の生徒・先生と30人くらいで		
どんな活動をしましたか？	グループに別れて、１グループ、１つの家に訪れ、それぞれ指示されたことを行いました。私のグループは、家の中にたまった土砂の処理を行いました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	募金活動以外での支援活動に参加したいと思い、災害に遭った現地に行き、被災者の方々の役に立ちたいと思ったからです。		
やってどう思いましたか？	ニュースを通して見ていた光景を実際現地に行って見て、自然災害の恐ろしさを体感しました。大雨により、天井まで砂が残っていて、住めない状態であり、復旧作業がいかに大変なことなのかを目の当たりにしました。		
周囲の反応はどうでしたか？	生徒と笑顔で楽しく話しているところを見て、元気を取り戻している様子でした。「遠い所からボランティアで来てくれてありがとう」と言ってくださったことが、１番心に残りました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	復旧作業は地道で、時間がかかり、体力が必要です。高齢者の方もいる中で、１人でも多く、早く、もとの暮らしに戻るためには、募金活動はもちろん、被災地に行って、作業を手伝うことで、被災者の方の心のケアにもなるのだと思いました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	停電に備えたり、暗い所でも作業するために、手動のライト。		
どんな応援があったらよかったか	作業中の熱中症防止のために、塩分や水分の調達。		

中高生世代 3	現地に行って分かること		
年　齢	当時17才（高校３年生）	いつ頃	2018年８月頃
どこで	岡山県真備町		
だれと	舞子高校の団体で		
どんな活動をしましたか？	家の壁が豪雨でだめになってしまっていたので、土壁の土を落として木の板をはずしていく作業をしました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	私の住む神戸の町も震災の時にたくさんの方のボランティアや支えがあって、助けていただいたので、少しでも困っている町の役に立ちたいという気持ちで始めました。		
やってどう思いましたか？	私がボランティアに行った家の方が咳をしていたり、災害時の状況を話してくださったりして、ボランティアは町の復興のためだけで行くのではなく、現地の方の体調面に気がついたり、精神面の支えになったりすることもできると知ることができました。		
周囲の反応はどうでしたか？			
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	自分の住む地域以外で災害が起こった時、他人ごとではなく助け合う気持ちを持って少しでも募金をしたり、もし被災地が近かったり時間に余裕があれば現地に行き復興作業のお手伝いをしたり、災害にあわれた方の話しを聞いたり、自分にできる精一杯の事をするべきだと思いました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代 4	被災地の高校生		
年　齢	当時16才（高校２年生）	いつ頃	2018年11月下旬
どこで	岡山県倉敷市真備町		
だれと	環境防災科、普通科有志10名程度		
どんな活動をしましたか？	真備陵南高校との交流・花植え、ワークショップ、募金で集まったお金の贈呈、真備陵南高校周辺の町歩き		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	災害発生直後の８月にもボランティア活動があったが、部活のため参加できなかった。被災地で活動したいと考えていたので、ぜひこの機会に参加しようと思った。		
やってどう思いましたか？	・校舎が一部使えない、自宅が浸水してしまった生徒の方もいたが、皆明るく接してくださった。また、浸水の経験を弁論大会で発表している方もいて、災害について語り継いでいこうという意志を感じられた。 ・防災を勉強しているものの、災害に遭遇したことはないので、同世代の方から話を聞くことができ、災害の怖さをあらためて感じられた。 ・いまだに放置されている家、泥の汚れが残っていて人が住んでいない家もあり、被災したからといってすぐに補修したり、解体できないという状況がある。		
周囲の反応はどうでしたか？	ワークショップや休息の時間も楽しそうに接してくださった。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・被災すると、元に戻るまで長い時間がかかってしまう。住宅の解体だけでもすぐにはできない。 ・被災地でも高校生は頑張っている。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	ホワイトボード、メモ帳		
どんな応援があったらよかったか	活動している事を知ってもらうだけでも必要		

中高生世代 5	体験からの学び		
年　齢	当時16才（高校２年生）	いつ頃	2018年 ①11月頃　交流 ②8月頃　募金
どこで	①岡山県真備町 ②垂水駅前		
だれと	環境防災科		
どんな活動をしましたか？	岡山県の高校生との交流、現地のまちあるき、花植え		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	現地の状況をテレビでしか分からなかったため、今まで災害に対しての被害が少ないと言われていた岡山がどのように被災したのか自分の目で見たかった。		
やってどう思いましたか？	被災をしてそんなに長い月日は経っていなかったが、みんなとても明るかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	自分たちのことを心良く迎えてくれて、「失ったものもあるが今は前しか見てない」と強く言っていた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	辛いことがあっても周りの人がいるから、自分の気持ちが強いからこそ乗り越えられるものである。人と人との助け合いが人を強くするのだと改めて感じた。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代 6	笑顔と元気を届けるボランティア		
年　齢	当時16才（高校２年生）	いつ頃	2018年８月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町		
だれと	環境防災科・普通科の人と		
どんな活動をしましたか？	真備町に住んでいる方のお家の土壁をはがす作業や、家具の片付けのお手伝いをさせて頂きました。土壁をはがすのは初めての経験で、最初は上手くできませんでした。土けむりがすごくて、普通のマスクでは防ぎきれなかったです。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	被害状況を連日テレビで放送しているのを見て、何か力になりたいと思っていたところ、学校で、岡山県に行くという話を聞き参加しました。		
やってどう思いましたか？	作業が終わり周りを見ると、本当に被災者の方のお役に立つことができたのかと不安になった。しかし、被災者の方が帰りがけに笑顔で「ありがとう」と言ってくださり、この場にきてよかったと少し安心しました。「笑顔と元気を被災地に届ける」を目標に現地へ向かいました。私は被災者の方と話すとき、笑顔を意識して話しました。少しでも明るい気分になっていただけるとうれしいです。		
周囲の反応はどうでしたか？	真備町を歩いている時に、町の方から「ありがとう」などのうれしいお声かけを頂きました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	準備が少し足りなかったと感じています。現地で作業をしていると、「これがあった方がよかった」と思うことがあったので、準備の時点から、活動をイメージするのが大事だと思いました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	ウェットシート、ティッシュなど、衛生的なものは多くある方がよいと思います。		
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代 7	明るい交流		
年　齢	当時17才（高校２年生）	いつ頃	2018年11月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町	真備陵南高校	
だれと	同じ高校の生徒12人ぐらい		
どんな活動をしましたか？	真備陵南高校の生徒と交流、プランターや花壇への花うえ。もっと相手校の生徒と言葉を多く交わせばよかった。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	泥かきなどのボランティアには参加できなかったため。高校生どうしの交流であったため。		
やってどう思いましたか？	真備陵南生がとても明るく接してくれて、変に気づかいをしようとしていた自分がばかばかしく思えた。		
周囲の反応はどうでしたか？			
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	自分達が暗い思い・雰囲気でいすぎないこと。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代 8	被災地支援		
年　齢	当時16才（高校２年生）	いつ頃	2018年８月頃
どこで	岡山県	一般家庭	
だれと	舞子高校		
どんな活動をしましたか？	被災した岡山県の方まで足を運んで、浸水した家の土壁の土の撤去作業を行いました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	隣の県で、小さいころから何回か行ったことのある所が被害にあわれて、何かできないかなと考えているときに、学校で募集がかかったので、参加することに決めました。		
やってどう思いましたか？	思っていた以上の肉体労働でした。休けい時以外は基本的に立ちっぱなしで、楽ではなかったです。また、作業中に上から土のかたまりが落ちていたり、そもそも床が無い部分があったりの危険が多く、二次災害が起こってもおかしくない状態でした。だから、常に気を張っておかないといけないと感じました。		
周囲の反応はどうでしたか？	「来てくれてありがとう」という言葉をいただきました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	中途な状態で被災地に行くことの危険さを伝えたいです。災害にあってしまった所には危険な場所が多くあります。服は長袖で、ヘルメットは絶対かぶって、マスクもして、などと、万全な状態で行かなければ、自分の命を犠牲にしてしまう可能性があります。だからこそ、伝えたいです。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	復興作業で使えるマスク、軍手、等の保管がもっとあれば、支援側の負担が小さくなると思いました。		
どんな応援があったらよかったか	カッター、はさみ、スコップなどの器具類が現地にもっとあれば作業がもっとスムーズに進むのではないかと思いました。		

中高生世代 9	少しでも力になれたら…		
年　齢	現在16才（高校２年生）	いつ頃	2018年11月
どこで	岡山県真備町	真備陵南高校	
だれと	舞子高校生有志		
どんな活動をしましたか？	・真備陵南高校生徒会の方と交流（クロスロード等） ・花だんの整備 ・募金活動 ・花贈呈		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	私たちは、被災地から離れているので、できることが限られているが、募金活動などで、少しでも力になりたいと思って募金活動を行った。頑張って活動しているときに、現地に行けるということで、話を聞いたりしたいと思って参加した。		
やってどう思いましたか？	1 人の力では無理でも、まわりの人と協力すると大きな力になるということが募金活動で改めて分かった。また、現地に行って、被災された方の話を聞いたりするだけでも力になれるということが分かった。		
周囲の反応はどうでしたか？	募金活動をしていると「ありがとう」「がんばってね」など言われてすごくうれしかったし、「もっと頑張ろう」と思えた。現地に行って「わざわざありがとうございます。」と言われて、やっていてよかったとも思った。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	実際に被災地に行けなくても被災者の方々の力になる方法はたくさんあるということをたくさんの人に伝えたい。これから、多くの場所で災害は起こると思うが、少しでも力になるように頑張りたい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	モバイルバッテリー		
どんな応援があったらよかったか	避難を呼びかける人、物		

中高生世代10	段階		
年齢	現在16才(高校2年生)	いつ頃	2018年11月頃
どこで	真備町	真備陵南高校	
だれと	十数人		
どんな活動をしましたか？	校内と駅で募金活動をした。その後に、高校に行って募金を届けた。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	被害が大きかったから、少しでも役に立てることがしたかった。それと、話を共有し合いたかったから。		
やってどう思いましたか？	やってみて、下で書いたように、応援していただけて嬉しかったし、実際に被災地に行ったから、知ったことが多くて、行って良かったと思った。募金を届けたとき、「ありがとう」と言っていただけて嬉しかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	募金活動のときに、「お疲れ様」「頑張ってね」と地域の方たちから応援していただけた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	実際に行かないと聞けないお話が多かったので、ボランティア活動に参加するか迷っている人がいたら、参加すれば自分のためにもなるので良いと思う。これからも、被災地との付き合いを継続することを大切にしたい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代11	離れた地で出来ること		
年齢	当時14才(中学3年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	岡山県倉敷市、広島県	自宅、最寄り駅	
だれと	家族、友達		
どんな活動をしましたか？	自宅のテレビや SNS で被災地の被害状況や被災者の数を数時間ごとに確認していました。また、発災から少したったときに自宅の最寄り駅付近で募金活動をしていたので、友達と一緒に募金をしに行きました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	当時の私は中学3年生で、受験のために様々な災害について調べ学習をしていました。そのときにとなりの県でとても大きな被害が出たため、興味がありました。被害状況を確認していくうちに思っていたより被害が大きく、自分にできることは何かを考え、募金をしました。		
やってどう思いましたか？	募金活動については自分のしていることがちっぽけに感じました。被災地の状況を知っていくことは調べていくうちに被災者の方々がどんどん心配になっていきました。		
周囲の反応はどうでしたか？	自宅で家族とテレビや SNS を見ていると、両親が「雨でこんな大きな被害が出るなんて数年前まではなかったのにな。」と言っていました。募金をしたときは「ありがとう!!」と言われてとてもあたたかい気持ちになりました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	被害状況を学ぶことはとても大切だと思いました。また、遠く離れた地からできることはかぎられているため、自分ができることを自分で見つけていくことが大切だと思いました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代12	募金		
年齢	現在16才(高校2年生)	いつ頃	2018年11月頃
どこで	神戸市	コンビニ	
だれと	友人と		
どんな活動をしましたか？	帰り道にあるコンビニで募金をした。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	部活動が忙しくてボランティアにあまり行けなかったので、募金にしました。		
やってどう思いましたか？	少しでも役に立てばと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	僕が募金すると友人も募金をしていた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	より多くの人に募金活動に参加してもらいたい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代13	募金		
年齢	現在高校2年生	いつ頃	2018年8月頃
どこで		ノエビアスタジアム神戸	
だれと	部活40人		
どんな活動をしましたか？	ヴィッセル神戸の選手と一緒に大声で募金活動をし、集計した。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	部活でやろうということになったから。		
やってどう思いましたか？	多くの方々に「頑張ってね」と言われて嬉しかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	がんばってと言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	大声で呼びかけることに抵抗があったが、募金に協力して下さった方々に「頑張ってね」と言われ自信がついた。また、周りの友達も一緒に大声を出して頑張っている姿を見ると心強かった。この経験を今後の夏休みのボランティアにいかせるようにする。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代14	新潟・山形地震の校内募金		
年齢	現在17才(高校2年生)	いつ頃	7月
どこで		学校	
だれと	7人くらい		
どんな活動をしましたか？	新潟・山形地震の校内募金（2019年）		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	テレビで、地震があったと見て、何か力になりたいと思いましたが、自分からは何も動けませんでした。でも、同じクラスの子が、自ら動いて校内募金をすると聞き、参加しようと思いました。		
やってどう思いましたか？	募金活動をしているとき、募金してくれる人が“おつかれさま”って言ってくれるのが嬉しかったです。声かけがずっと同じになってしまったので、被害状況をもっと詳しく言えたらよかったと思います。		
周囲の反応はどうでしたか？	たくさんの人が募金してくれました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	今はあまり報道されてないけど、辛い思いをした人がたくさんいるから、どの災害も忘れないでほしいです。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食料		
どんな応援があったらよかったか	がんばれと勇気づけてくれるかんじ		

中高生世代15	募金		
年齢	現在16才(高校2年生)	いつ頃	7月（2018年）
どこで			
だれと			
どんな活動をしましたか？	活動はできなかったから自分で募金した。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	参加できなかったから、被災地に少しでも協力したかったから。		
やってどう思いましたか？	自分がいれたら周りもいれてくれた。		
周囲の反応はどうでしたか？	特になし		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	次は自分が活動に参加したいと思いました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	水、非常食、3L×3日間の水		
どんな応援があったらよかったか	たくさんの人がいれてくれるような服		

中高生世代16	遠くにいてもできる支援		
年齢	現在16才(高校2年生)	いつ頃	2018年7月
どこで	兵庫県	舞子高校、垂水駅	
だれと	舞子高校生		
どんな活動をしましたか？	募金活動		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	校内や地域の人にもっとこの災害について知ってもらいたかったし、自分たちの少しの努力で助かる人がいるなら嬉しいと思ったから。		
やってどう思いましたか？			
周囲の反応はどうでしたか？	募金をしていると地域の人が「がんばって」とあったかい言葉をかけてくれて本当にうれしかった。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	地震ではないこの災害について周りの人は全然よく分かっていなかったから、私達が、もっと募金をする前に被害についてなどはなしておけばよかった。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代17	（神戸市）篠原台どろかきボランティア		
年齢	当時16才(高校2年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	兵庫県神戸市灘区篠原台		
だれと	1人		
どんな活動をしましたか？	土砂崩れにより、土砂が家の中に流入した方のどろかきを行った。また、どろはバケツリレーで道路へ排出した。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	土砂災害が発生したことを知り、ツイッターを見るとボランティアの呼び掛けを自主的に行っていて、人手が不足しているという事実を知り行くことに決めた。また、自分が住んでいる灘区で災害が起こったため、動くしかないという強い決意を持った。		
やってどう思いましたか？	人手が不足しており、若い力が必要だと感じた。特に私が作業を行った場所は、特に若い力が必要で、まだまだ人が必要だと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	「本当に来てくれてありがとう」と言われ、とても行ったかいがあったなと思った。また、作業終わりにはスポーツドリンク一本を支給してくださり、こちら側が逆に元気をもらいました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ツイッターなどの SNS は悪用されることが多く、使い方には注意しないといけないが、現状をリアルタイムで知ることができるという面では、とても便利なツールだから、正しい使い方をすればもっと活用できると思った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	・長ぐつ　・スコップ　・ヘッドライト ・防じんマスク　・塩あめ（夏季）		
どんな応援があったらよかったか	篠原台ではボランティアセンターの設置はせずに自主的にボランティアの募集を行っていたから、おおやけに募集をかけていれば、もっと若い人たちが集まって作業がしやすかったのではと感じた。		

中高生世代 18	遠くからの支援
年　齢	現在 17 才(高校 3 年生)
いつ頃	2018 年
どこで	兵庫県神戸市垂水区　垂水駅
だれと	舞子高校生徒、数十人。他学校生徒、数十人。
どんな活動をしましたか？	募金活動を舞子高校主体で行いました。現地に行くボランティアにも参加してみたかったですが、日程などが合わず、行くことはできませんでした。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	被災地を支援する方法として、募金活動が一番、身近なものでした。災害が発生した時、これほどまで被害が大きくなるとは思ってもみなかったから、衝撃的でした。何もせずにいるのは耐えられなかったです。
やってどう思いましたか？	募金活動は被災地との直接的な関わりはありませんが、お互いの絆があって成り立っているものだと思っているので、活動を苦に思うことは全然ありませんでした。むしろ、ボランティアをさせてくれてありがとうと感謝しています。
周囲の反応はどうでしたか？	募金活動をしていると、年配の方に「頑張ってね。」などの応援の声をもらうことがありました。このようなお声掛けは素直に嬉しく感じます。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	災害が発生して支援したいけど遠くて無理だと思っている方が多いと思います。しかし、支援の方法は直接行くことだけではありません。自分自身が思う支援を実現する努力が大事だと思います。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	お互いの思いやり
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 19	募金活動
年　齢	当時 17 才(高校 2 年生)
いつ頃	
どこで	兵庫県
だれと	サッカー部
どんな活動をしましたか？	ヴィッセル神戸というサッカーチームとともに協力して、ノエビアスタジアムで募金活動を行いました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	少しでも多く、募金があつまるように、また、災害などの問題が起きて困っている人がいるということをたくさんの人に知ってもらえるよう、声を精一杯だしてやろうという気持ちで始めました。
やってどう思いましたか？	小さい子どもから、大人の方までたくさんの方々が募金をしてくれました。募金をしてくれるほとんどの人が「ありがとう！」とか「頑張ってね！」などの声をかけてくれて、自分が今している活動で、少しでも役に立つんだなと強く感じました。
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	災害などで困っている地域に直接的に支援をしたり、現地に足を運びボランティアをすることは難しいけれど、募金というのは誰でも簡単にすることができると思います。自分じゃ何もできないと思っていたけど、身近に支援できる方法があるから、一人一人が行動することが大切だと思いました。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 20	恩返し
年　齢	当時 17 才(高校 2 年生)
いつ頃	不特定
どこで	兵庫県
だれと	家族
どんな活動をしましたか？	北海道胆振東部地震が起き、北海道に住んでいたこともあり、北海道に対する愛や感謝の気持ち、実際に現地へ行くことは難しいため、買い物するときは、なるべく北海道産の物を買った。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	北海道に住んでいたから。
やってどう思いましたか？	ほんの少ししか貢献できていないかもしれないけど、1%でも誰かの役に立てたのであれば幸い。
周囲の反応はどうでしたか？	僕がまず、これはしよう（北海道の物を買おう！）と言ったので、家族に「さすが、環境防災科やな」って言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	実際に現地に行って何かすることができない人でも、何かしらの支援はできる。それがたったの 1%でもいい。逆の立場になった時にはみんなから助けられているという感謝の気持ちを忘れずにいたい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	北海道のものをもっと店に置く。

中高生世代 21	平成 30 年北海道胆振東部地震
年　齢	当時 17 才(高校 2 年生)
いつ頃	2018 年 9～10 月頃
どこで	兵庫県神戸市
だれと	環境防災科 2 年生、3・1 年生
どんな活動をしましたか？	地震発生後、2 年生が主体で校内・校外（垂水駅前）で募金を行った。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	復旧は進んでいると二ュースはあったが、まだ支援がいき届いていない場もあるし、直接自分達が行けなかったので、すぐにできて自分達でもできる募金活動を行った。
やってどう思いましたか？	自分たちが計画を立てて準備したが、欠陥があり、自分の視野のせまさや、人間としてのダメなところに気づかされた。また、個人ではなく、舞子高校の名前を借りて行ったため、地域の人も信頼してお金を入れてくれているのだと改めて感じた。
周囲の反応はどうでしたか？	応援をしていただけた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	役に立ちたいという気持ちはとても大切だけど、その気持ちを原点にどう動くべきなのかを自分で考えて周りからも声をもらうことが大切だと思った。助けたという自己満足にならないようにする。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	できれば現地に行って交流できるようなきかいをつくれたらなと思った。

中高生世代 22	
年　齢	当時 16 才(高校 2 年生)
いつ頃	大阪北部　7 月頃 北海道　10 月頃
どこで	兵庫県神戸市垂水区　垂水駅前
だれと	舞子高校の生徒 10 人ぐらいで
どんな活動をしましたか？	7 月頃は大阪北部地震の募金活動を 2 時間ほどしました。10 月頃は北海道胆振東部地震の募金活動を 2 時間ほどしました。どちらも駅前の人通りが多い所で、通る方達に声が届くように「ご協力よろしくお願いします」と声をかけながら募金活動をしました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	当時は部活動に所属していたので、丸一日のボランティアに参加するのは難しかったことと、少しでも被災地の支援や復興に役に立つことができたらと思い、直接関わることができなくても募金活動なら今すぐできると思ったからです。
やってどう思いましたか？	とてもやりがいがあったし、これで少しでも支援につながると思うと、とても頑張れました。
周囲の反応はどうでしたか？	「ありがとう」「頑張ってね」など声をかけて下さったり、とても親切にして下さる方が多く、うれしく、次も参加したいなと思うきっかけになりました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	募金をすることは強制ではないのにもかかわらず、「ありがとう」など感謝の気持ちをも言って下さる方も多く、私自身とてもやりがいがあるし、その分しっかり取り組まないといけないという責任も感じました。募金して下さる方への感謝の気持ちを忘れずにしていきたいと思いました。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 23	思いばかりの支援
年　齢	当時 17 才(高校 2 年生)
いつ頃	2018 年 9 月～10 月頃
どこで	兵庫県　学校
だれと	環境防災科の友人達と
どんな活動をしましたか？	県内の駅前で北海道胆振東部地震の募金活動を行いました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	環境防災科の友人が主体となって募金活動を行うと聞き、実際に現地へ足を運ぶことは難しいと考えていたため、少しでも力になりたいと思ったからです。まずは自分に出来ることから始めないと思いました。
やってどう思いましたか？	距離が離れている分、思いも離れてしまっていたらどうしようと思いましたが、そんなことはなく、地域の皆様の温かい支援をたくさん頂きました。私と同じように、実際に行くことはできなくても、力になりたいと思っている方がこんなにもいるんだと気付かされました。人の思いの温かさを感じました。
周囲の反応はどうでしたか？	「テレビで見たよ。大変だと思うけど、頑張ってほしい。」と被災者の方を励ます言葉や、「えらいね。気持ちだけだけど。」とわざわざ募金しに来て下さる方もいて、多くの人が関心を持って下さっているんだと思うと嬉しくなりました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	私は何か力になりたいという気持ちばかりで何も出来ていなかったんだと思いました。実際に足を運べないなら今自分に出来ることをすればいい、行動を起こせばいいと気付かされました。だからどんな人でも自分にできることから始めたらいいと思います。小さなことからでいいと思うから、1 歩ずつすすんでいけたらと思います。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 24	
年　齢	当時 17 才(高校 2 年生)
いつ頃	2018 年 12 月頃
どこで	兵庫県神戸市垂水区
だれと	舞子の環境防災科の仲間と一緒に
どんな活動をしましたか？	募金活動
なぜ、それをやろうと思いましたか？	西日本豪雨で被災された方々のニュースを見て、何かしたいと思ったことと、私が以前住んでいた地域にも被害があったからです。何か行動しなくてはという気持ちで募金活動をしました。
やってどう思いましたか？	少しでも被災地の役に立ちたいと思いました。
周囲の反応はどうでしたか？	募金をしてくださった方からは、「頑張ってね」、「私たちは、募金箱にお金を入れることしか出来ないから。」と言われました。それでも私は、お金を入れることによって少しでも被災地の復興に貢献していると思います。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ニュースや新聞を見て、何かしたいけど何をしたらいいのか分からないと思った人や、被災地に直接行けなくても募金をしたり、被災地産の食べ物を買うことによって少しでも貢献することができます。被災地に行けなくても支援することはできるので、これからも続けたいと思います。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 25	ひとつでも行動する勇気
年　齢	当時 17 才(高校 2 年生)
いつ頃	2018 年 7 月中旬 (大阪北部地震への)
どこで	兵庫県神戸市垂水区　JR 垂水駅前の広場
だれと	環境防災科の生徒＋他校の生徒数人
どんな活動をしましたか？	垂水駅前の広場で募金活動を行いました。3 つのグループに分けて各場所でしました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	大阪北部地震が発生した当日、私は体育館で朝練をしていました。すごく怖くて動けなかった。そんな時、学校で募集がかかり、部活との両立でなかなか行けていなかった募金活動に予定もあったので参加しました。どの災害でも募金活動は行きましたが、この地震はより身近に感じたからこそ、心配と焦りからはじめました。
やってどう思いましたか？	募金活動は直接現地に行ったわけではないけど、舞子高校の募金はどこへ届けるというのが明確にわかるものだったので、「何もできていない」という気持ちはなかった。あとは 2 年間、環境防災科で活動してきて、支援する側の私たちが暗くなりすぎてはダメだなと考えられるようになったことも大きい。
周囲の反応はどうでしたか？	地域の方々に「頑張ってね」や「やっぱ舞子（高校）さすがやな」と声をかけて頂くことも多く、あたたかい気持ちで募金してくれる方々も多くいらっしゃいました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・現地に行くことが全てではない。 ・できることはある（募金活動をする、募金するなど） ・「何もできていない」と暗くなりすぎない、行動だけでなく態度や表情からも支援をする。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 26	誰でも支援者になれる!!
年　齢	当時17才(高校2年生)
いつ頃	2018年6月頃
どこで	兵庫県 / 学校や店舗など
だれと	個人
どんな活動をしましたか？	募金活動をしている団体にお金を寄付した。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	部活動が忙しく、現地に行ってボランティアをすることや自ら募金活動を行うこと（参加すること）ができないかわりに何かできることはないかと考えたときに自分にできることはお金を寄付することだと思ったから。
やってどう思いましたか？	直接、被災者の方に支援やボランティアで手伝うことはできなかったけど、少しでも役に立つことができたらいいなと思いました。
周囲の反応はどうでしたか？	募金活動をしている方に「ありがとうございます」と言ってもらった。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ボランティアに行くことや募金活動を行っていた人だけが支援しているのではなく、募金する人も支援者として、役に立っているんだということを知った。自分は被災しているから関係がないと考えるのではなく、被災した人の立場になってみて、行動することが大切だと思います。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 27	西日本豪雨災害募金活動
年　齢	当時17才(高校2年生)
いつ頃	豪雨災害の約 2,3 週間後
どこで	兵庫県 / ノエビアスタジアム神戸
だれと	サッカー部
どんな活動をしましたか？	環境防災科ではなく、サッカー部の仲間たちと募金活動をした。ヴィッセル神戸の選手の方々も協力して下さった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	監督が環境防災科の先生で、サッカー部の中にも環境防災科の生徒がいたこともあり、「募金をやろう」となった。今の自分たちができることは、募金活動しかないと思い、その1つの活動に全力で取り組もうと思った。
やってどう思いましたか？	以前にも、部活動で募金活動をしたことがあったので、「舞子高校？」「頑張って！」と言って下さる方など、支えて下さる方が、とてもたくさんいたので、募金活動が、とてもやりやすかった。少し遠い兵庫県ではあるが、少しは力になれたと思った。
周囲の反応はどうでしたか？	「頑張って!!」や、「これだけしかないけどゴメンね」など言われた。大人の方だけではなく、小さい子どもも募金をしてくれた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	募金活動をした側から思ったことは、「これだけしかないけど」などの言葉があったけれども、ほんの少しの協力が大きな助けになると思った。自分は、実際にやってみて気がつくことが多かったから、色々な人に募金活動に協力してみて欲しいと思った。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	・自分たちのような世代の方々からの協力。 ・スポーツ選手のような有名な方が協力して下さることで、より多くの方が募金して下さると思う。

中高生世代 28	できたこと・できなかったこと
年　齢	当時17才(高校2年生)
いつ頃	夏・秋頃
どこで	兵庫県神戸市
だれと	家族
どんな活動をしましたか？	募金活動（お金を入れる側）ができた。 現地にはいけなかった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	部活動で現地には行けないから、代わりに募金をして役立ててもらおうと思った。
やってどう思いましたか？	少しでも良くなればいいなと思った。
周囲の反応はどうでしたか？	「ありがとうございます」と言われた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ボランティア活動を「やらされてる」と感じたら、それはボランティアじゃないと思う。だから、自発的に「役に立ちたい」や「やりたい」と思ってやるのがボランティア活動だと思うから、そういう思いを大切にしたい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 29	被災地に行けなくてもできる事
年　齢	当時16才(高校2年生)
いつ頃	2018年6月頃～
どこで	兵庫県
だれと	
どんな活動をしましたか？	・部活動と被ってボランティアに参加できなかった。 ・若くて動けて、重労働ができる人間がもっと必要なはずだったのに、何もできなかった。 ・ただ見て応援してるだけで行動に移せなかった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・大量の土砂が家・学校などに流れ込んでいて、それの撤去をしないといけないというニュースを見たから。 ・災害後のお金の面は厳しいものがあると思ったので募金活動が1番最初に頭に浮かんだ。
やってどう思いましたか？	・学校で行っていた募金活動にお金を入れた時に、少しでも被災者の方の支援になればいいなという気持ちとたくさんのお金が、被災者の手元に届くようにと願った。
周囲の反応はどうでしたか？	・環境防災科のみならず、普通科の生徒も協力してくれていて、皆が少しでも被災者の暮らしが良くなれば、という願いがあった。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・被災者の事を皆が思って行動していて、本当に日本はいい国だなと思った。 ・色々な人に頼る事も時には大切で、協力してもらえているから、自分達は支援活動をさせてもらえているという事。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	・支援者が被災者にならないようにする。(熱中症)

中高生世代 30	後悔（大阪北部地震ボランティア）
年　齢	当時16才(高校2年生)
いつ頃	2018年6月頃
どこで	兵庫県神戸市 / 学校
だれと	自分と
どんな活動をしましたか？	部活動などが被りボランティアに参加できなかった。募金箱にお金を入れることしかできなかった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	自分が被災したという立場に置かれたと想定すると、一番必要だと思うのは周りの人からの支援だと感じたから。
やってどう思いましたか？	学校の校門前に立って募金しているクラスメイトや先輩を見て、私の分まで頑張って欲しいと思った。しかし、その場に立てていない自分への恥ずかしさと悔しさもあった。
周囲の反応はどうでしたか？	同じように通学する部活のメンバーも、環境防災科は迅速に行動していて、すごいと思ったと言っていた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	人の役に立てなかった後悔というのはとても大きな存在として、心に残るので、後悔しないような行動をとれるように、また適切な判断を下せるように、過去の教訓も活かしつつ、成長することが必要だと思う。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食料品、男女別のトイレ、生理用品、飲料水、床に敷けるマット
どんな応援があったらよかったか	一緒に困難に立ち向かえるようなメッセージ。「しあわせ運べるように」のような老若男女が歌えるような復興支援ソングなど。

中高生世代 31	周りの子が頑張ってる
年　齢	当時16才(高校2年生)
いつ頃	2018年6月頃
どこで	兵庫県
だれと	
どんな活動をしましたか？	学校でボランティアの募集がかかっていて、行くかどうかまよったけど、部活動を優先したいという意志があったので行くことができなかった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	現地に行くことは高校生にとっては難しいし、自分自身、多くの気付きや学びがあると思うから。また、苦しんでいる人の助けになりたいと思いました。
やってどう思いましたか？	これまで環境防災科として、地域の人たちからほめていただくことも多くあったけど、自分は環境防災科に在籍しているだけでボランティアなどになかなか参加できていなくて歯がゆい気持ちがあった。
周囲の反応はどうでしたか？	実際に行った人が、そこの状況を教えてくれたり、写真を見せてくれたりした。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	これまで、周りにいる自分の仲間たちが頑張ってくれていたので、これからは自分もたくさん学んで仲間においつきたい。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	女性のためのスペース（女性に対する犯罪被害をなくす）
どんな応援があったらよかったか	支援者に対するケア（給水関係など）

中高生世代 32	北海道胆振東部地震の募金をして
年　齢	当時17才(高校2年生)
いつ頃	2018年10月頃
どこで	舞子高校内
だれと	環境防災科の同級生、後輩と行った
どんな活動をしましたか？	朝、昇降口と正面玄関の前に分かれて校内で募金を行った。その後、駅前での一般の方に向けての募金も行ったが、校外の方は部活動とのかねあいが合わず、参加することができなかった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	北海道で大きな地震があった後、東日本大震災が起こった時よりも被災地の今の状況や被害に関する報道が少なく、被災地に十分な支援が届いているのか不安になったため、この募金が少しでも被災地の役に立てば、と思い校内募金に参加した。
やってどう思いましたか？	募金は箱と人々に呼びかける声、やろうとする意欲があれば、誰でもできる支援ですが、自分の思いを相手にきちんと伝わるように呼びかける、今の被災地の状況を知って頂くなど、事前の準備と相手の心を動かす言葉を的確に伝えることが本当の意味で募金をするということなのだと感じた。
周囲の反応はどうでしたか？	沢山の人が募金活動に共感し、支援をしてくれた。また、頑張ってねという私達に対する応援の言葉も頂いた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	報道だけではなく、自分達から知っている情報を発信し、被災地から遠い場所の一般の人でも正しい情報を共有できるようになりたいと思う。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	被災地に関する情報をもっと全国に広めてほしい。

中高生世代 33	何かの誰かのために
年　齢	当時16才(高校2年生)
いつ頃	2018年7月頃～9月頃
どこで	兵庫県
だれと	環境防災科の仲間
どんな活動をしましたか？	・募金活動（北海道胆振東部地震） ・SNSで西日本豪雨の状況が投稿されているのをリツイートした。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	日本でこんな災害がおきているという現状で自分がなにかしないといけないと思ったから。被災者の方に少しでも力になりたいと思ったから。
やってどう思いましたか？	垂水駅周辺で募金活動をさせて頂いて、地域の方々のあたたかさを感じた。自分達だけではできないし、なりたたない。SNSに関してはリツイートして、共有することがいいのか分からなかったけど、リツイートすることで、色々な人の目にそのおきていることを分かってもらって、何かしようとか自分にもおこるかもしれないと思ってほしいと感じた。
周囲の反応はどうでしたか？	募金をして頂いた方には、「がんばれ」とか「ありがとう」、「おねがいね」など言って頂きました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	募金活動をするにしても自分達だけではなにもできなくて、地域の人がいてできること。他人ごとではなく、自分事だと思って考えてほしいし、行動してほしい。（家族や友達に）
避難するとき/避難所にあるとよいもの	懐中電灯
どんな応援があったらよかったか	被災地に行くことができるボランティアバス

中高生世代34	有益で正しい情報の拡散		
年齢	当時17才(高校2年生)	いつ頃	7月（西日本豪雨発生）～8月下旬にかけて
どこで	兵庫県内で	（主に自宅）	
だれと	個人的に		
どんな活動をしましたか？	西日本豪雨発生時からその後１ヶ月くらいにかけて、Twitterで専用のアカウントを作成し、避難情報や支援に関する情報を拡散する活動を個人的に行いました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	広島県から岡山県にかけて大雨・洪水警報や避難指示等が発表された頃にTwitterを何気なく閲覧していると、気象庁の公式の情報や政府から発信された正確な情報とは真逆の間違った情報やでたらめな情報が多く出回っていたから。		
やってどう思いましたか？	主に公式アカウントが発信している情報を拡散していましたが、匿名で何人かの人から「このリツイートがきっかけで有益な情報を知ることができました。ありがとうございました。」とメッセージをいただいて、こんな自分でも力になれることはあるんだなと自信を持つことができました。		
周囲の反応はどうでしたか？	メッセージはなくても、リツイート機能を使ってさらに情報を拡散してくれた人が数多くいた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	正確で有益な情報を拡散することは正しい行いだと強く感じましたが、悪意はなくても間違った情報を拡散することは正しい行いとはいえないと思うので、情報を拡散する場合は、その情報が本当に正確なのか、必要なのかを吟味して拡散してほしいなと思います。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	恐らく、携帯電話会社の通信は混み合うか、完全にストップするので、Wi-Fiがあったほうが良いと思います。		
どんな応援があったらよかったか	より早い通信整備の回復		

中高生世代35	被災地との関わり方		
年齢	当時16才(高校2年生)	いつ頃	6月
どこで	舞子高校		
だれと	全校生		
どんな活動をしましたか？	募金を集める側ではなく、する側で募金をした。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	テレビのニュースや新聞等で、日々増えていく被害を見て、何か自分が動きたいと思った時に募金があったから。		
やってどう思いましたか？	少しでも被災地の役に立ってほしい。		
周囲の反応はどうでしたか？	周囲の人も積極的に募金をしていた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	もっとボランティアとして被災地支援のバス等を出してほしい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか	現地へ行きやすい環境作り		

中高生世代36	募金活動		
年齢	当時16才(高校2年生)	いつ頃	10月頃
どこで	ノエビアスタジアム		
だれと	サッカー部で30人くらいで		
どんな活動をしましたか？	・募金活動 ・集めたお金を数えた		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	サッカー部で行くことになったから		
やってどう思いましたか？	たとえ少ない金額でも何枚も集まることで、とても大きなお金になり、被災者の助けになるんだということを感じました。		
周囲の反応はどうでしたか？	「舞子高校の募金は信用できるから入れても安心や」と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	少しの金額でも大きな支えになるということを伝えたいです。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか	やはり、お金の応援がもっと多ければよかったと思います。		

中高生世代37	西日本豪雨		
年齢	当時16才(高校2年生)	いつ頃	けいぞく的に
どこで	兵庫県		
だれと	個人		
どんな活動をしましたか？	募金する方。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	集める側には部活動があって参加できなかったけれど、ふるさと納税のサイト等で見て、コンビニ等で参加ならできるから、少しでも被災地の役に立ちたいと思ったから。		
やってどう思いましたか？	間接的にでもボランティアに参加できて、少しは社会の役に立てたと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？			
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	周りは集める側に立っていたから、部活動が無い日には募金やボランティアに参加したいと思うし、少しのお金でもつもれば量になるし、気持ちが一番大切だと思う。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代38	北海道にエールを!!		
年齢	当時17才(高校2年生)	いつ頃	10月頃
どこで	兵庫県神戸市垂水区	JR垂水駅周辺	
だれと	環境防災科の友人と		
どんな活動をしましたか？	募金活動及び被災状況の発信		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	テレビで北海道の被災を報道していたのを見て、自分に何か少しでも力になれることがあればと思っていたところ、友人から募金活動参加に誘われたから。		
やってどう思いましたか？	・やはり神戸の人々は優しく「あのとき（阪神・淡路大震災）の恩返しのつもりやから頼むで」と言ってくれる人が多くいて、地域の温かさを知ることができた。 ・「自分も力になりたいが、どうすればいいのか分からない」と思っている人は多くいるのだと感じた。		
周囲の反応はどうでしたか？	地域の駄菓子屋のおばちゃんに「うちらの代わりに（募金を）してくれてありがとう」と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	上でも同じことを書いたが、「自分も力になりたいが、その思いを行動に移せない」と思っている人は多くいると思うし、その人達の思いを受けとめ、その人たちの代わりに行動できると知った。また、自分達はただ募金活動をするのでなく、被災状況を多くの人に伝達、発信することもできると感じた。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか	北海道という本州と離れている土地だったため、飛行機が利用できずに困った人も多くいると思うので、そのための臨時の交通手段の整備が必要だと思った。		

中高生世代39	誰にだってできることはある		
年齢	当時17才(高校2年生)	いつ頃	6月頃
どこで	舞子高校の校門		
だれと	1人		
どんな活動をしましたか？	・ボランティアの募集があったが、部活動とかぶっており行けなかった。 ・募金にお金を入れた。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	被災地でのボランティアの経験がなく、現地での支援も行いたいと思ったから。		
やってどう思いましたか？	少しでもこのお金を被災地で役立ててほしいと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	周囲の人々も積極的に募金をしていた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	直接被災地に支援をすることはできなくても、募金などを通して間接的に支援することはできる。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか	被災地に送迎してくれるボランティアバス		

中高生世代40	自分のできる事		
年齢	現在16才(高校2年生)	いつ頃	2018年11月頃
どこで	神戸市	駅前、学校	
だれと	学校		
どんな活動をしましたか？	募金、学校交流		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	少しでも何かしたかったから。		
やってどう思いましたか？	やりがいがあったが、どのように募金が送られているか気になった。		
周囲の反応はどうでしたか？	がんばってと応援された。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	周りの人々があたたかかった。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代41			
年齢	現在16才(高校2年生)	いつ頃	2018年10月頃
どこで	兵庫県神戸市		
だれと	舞子高校生		
どんな活動をしましたか？	募金→北海道胆振東部地震		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	なにか力になりたいと思い、募金活動に参加しました。直接現地へ行くことは難しいので募金で支援しようと考えました。		
やってどう思いましたか？	募金活動は3回目ですが、やはり難しいと感じました。相手に何をどのように伝えるかを工夫しました。		
周囲の反応はどうでしたか？	「がんばってね」など温かい言葉を頂きました。また、多くの方に募金をしていただけたことが嬉しかったです。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	知識を外国の方に伝えられなかったことをふまえ、今後募金活動を行う際には外国の方にも対応できるようにしたいと思います。また、立ち位置なども工夫を行い、より多くの方が参加しやすいようにしたいです。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代42	私たちにできること		
年齢	現在17才(高校2年生)	いつ頃	2018年7月
どこで	兵庫県神戸市	高校&駅	
だれと	同じ科や学校の子		
どんな活動をしましたか？	募金活動		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	私たちは現地に行くことができないが、少しでも被災された方々の手助けをしたいと思ったから。		
やってどう思いましたか？	私たちの気持ちや、協力してくださった方々の思いなどをむだにしないで、届いてすこしでもはげみになれたらいいなと思いました。		
周囲の反応はどうでしたか？	地震などについてくわしくしっている人が少なかった。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	地域で行うときは、その場所をかりて、地域の方々のおかげでなりたっているという感謝の気持ちを忘れないこと。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代43	神戸から被災地の支援を		
年齢	現在17才(高校2年生)	いつ頃	
どこで	兵庫県神戸市		
だれと	剣道部員、環境防災科の生徒		
どんな活動をしましたか？	西日本豪雨、大阪北部地震、北海道胆振東部地震で校内の募金活動と、全県一斉募金に参加しました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	部活もあってなかなか現地に直接出向くのは難しいので、神戸から支援をしたいと思いました。		
やってどう思いましたか？	校内募金では「被災地の役に立ちたい」という気持ちを持った仲間と協力して活動できてよかったです。全県一斉募金では、垂水の方々の温かい心を感じることができました。集まったお金の重さが被災地への「想い」だと思い、募金活動をすることで被災者の方々の役に立てた気がしました。		
周囲の反応はどうでしたか？	「ありがとう」、「いつもがんばってるね」、「舞子高校さんだから募金するよ」など、励ましのお声をかけていただいてとてもうれしかったです。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	被災地に直接行けなくても支援の仕方はたくさんあるし、自分の身近なところから参加することが大切だと思いました。また、周りの協力があるから私たちはボランティアができると思っているので、謙虚な姿勢を忘れずにいたいです。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代44	ボランティアを経験して		
年齢	現在16才(高校2年生)	いつ頃	2018年7月～
どこで	兵庫県神戸市	舞子高校	
だれと	舞子高校生		
どんな活動をしましたか？	・西日本豪雨で被災した真備陵南高校との交流・募金活動 ・大阪北部地震の募金活動 ・平成30年北海道胆振東部地震募金活動		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	少しでも被災地の力になりたいと強く思ったのがきっかけでした。募金活動や交流会を経験する上で、被災された方々の思いや気持ちをどう受け止めるべきなのか、募金する側の方々にどう言葉かけをしたらいいのか考えました。		
やってどう思いましたか？	難しいけれど、これからを考えさせられる経験になりました。募金活動では、道通る方に「募金は小遣いかせぎやろ!!」と言われました。はじめは驚きしかありませんでしたが、この思いを変えるためにはどうすればいいのだろうとボランティアに対して自分も思ってたことと違うことに気づけました。言葉かけ、思いの伝え方をもっと学びたいと思いました。		
周囲の反応はどうでしたか？	「ありがとう」「頑張ってね!」と応援していただいた反対で「募金はあかん!!」という言葉もいただきました。募金に対して悪い印象がある方もいるのだと知りました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	人と交流するさいに、どういう言葉かけをすればいいのかをもっと勉強していきたいと強く思いました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	非常持ち出し袋、自分の大切にしているモノ		
どんな応援があったらよかったか	募金（支援）、交流会（難しいけれど…）		

中高生世代45	募金活動		
年齢	現在16才(高校2年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	神戸市		
だれと	環防の友達		
どんな活動をしましたか？	大きな声で呼びかけたりした		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	少しでも力になろうと思ったから		
やってどう思いましたか？	その集めたお金がどんなふうに使われているか、くわしく知りたいと感じた		
周囲の反応はどうでしたか？	特になし		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	小さな事でも力になれているから、もっと積極的に活動しようと思いました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	夏の季節だったので、それを和らげる物		
どんな応援があったらよかったか	同じような災害にあった地域からのメッセージなど		

中高生世代46			
年齢	現在16才(高校2年生)	いつ頃	
どこで	兵庫県		
だれと	環境防災科の先輩、同級生、先生方		
どんな活動をしましたか？	・西日本豪雨　現地でのボランティア（真備町2018年8月）、募金、真備陵南高校との交流（2018年11月） ・大阪北部地震の募金		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	募金を通して、被災地から離れた神戸からでも支援することができると思ったから。被災地の支援や、少しでも支えられることがあればしたかったから。		
やってどう思いましたか？	・1日でできることは限られている。 ・現地へ行ったときに、現地の人ともう少し話せたらよかったなぁと思った。 ・もう少し周りを見て動くべきだった。		
周囲の反応はどうでしたか？			
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと			
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代47	新潟山形地震被災地支援募金活動		
年齢	現在16才(高校2年生)	いつ頃	2019年7月
どこで	兵庫県	学校内	
だれと	10人前後		
どんな活動をしましたか？	プリントを見るだけで、アナウンスをしていなかったから、何の募金活動かなど分かっていない人がたくさんいた。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	自分たちにできることは何かと考えたときに募金活動だと思った。		
やってどう思いましたか？	今後も自分にできることを考えてやろうと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？			
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	阪神淡路大震災でたくさん支援をうけたので、困っている者同士助けていきたい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか	がんばろう		

中高生世代48	募金		
年齢	現在16才(高校2年生)	いつ頃	6月
どこで	兵庫県		
だれと			
どんな活動をしましたか？	募金をしました。大きな声で呼びかけた。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	支援したかったから。		
やってどう思いましたか？	みんなが募金してくれてうれしかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	ありがとう、頑張れと言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	困っている人を助けたい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	個人のスペース		
どんな応援があったらよかったか	頑張って		

中高生世代49	被災地の方々のためにできること		
年齢	現在17才(高校2年生)	いつ頃	1年時（2018年）
どこで	兵庫県	舞子高校など	
だれと	環境防災科の人と5～6人程度		
どんな活動をしましたか？	グループで募金の声かけをしたが、みんなより、声が小さくなってしまった。呼びかけをして募金活動をした。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	被害の大きさを知り、少しでも力になりたいと思ったから。		
やってどう思いましたか？	参加できなかった募金活動もあったので、次の募金活動に積極的に参加していきたいと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	通る人に「えらいね、がんばってね」といわれた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	他の県などに目を向けることが大事だと思った。これからは、自分が災害の状況を知ったときは、積極的に自分から行うことが大切だと思った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	避難時…スニーカー、懐中電灯、カッパ 避難所…ナプキン、うちわ、等		
どんな応援があったらよかったか	もう少し、自分から行いたかった。 支援メッセージなど。		

中高生世代50	遠くてもできる		
年齢	現在16才(高校1年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	兵庫県神戸市垂水区		
だれと	舞子生 10～20 人		
どんな活動をしましたか？	募金活動		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	現地に行くことができなかったので、被災者が少しでも楽になるようにと思ったからです。		
やってどう思いましたか？	これで少しは楽になるかなー、と思い少し心配でした。		
周囲の反応はどうでしたか？	なし		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	現地に行って、直接話して、なぐさめるだけがボランティアではなく、遠いところでも募金をしたらボランティアになる。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	飲料水、食糧、うちわ		
どんな応援があったらよかったか	安心するような優しい応援		

中高生世代51	自分たちにできること		
年齢	現在17才(高校2年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	兵庫県		
だれと	環境防災科の人と 10～20 人		
どんな活動をしましたか？	募金活動を行っていたのですが、自分は、クラスではこのことが共有されていたが、他クラスの人に共有しきれてなかった。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	テレビであれだけの被害があったことを知ったので、少しでも力になりたいと思ったから。		
やってどう思いましたか？	募金活動やボランティアも、被災地のためにという思いを持って行うことが大切だと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	個人としては特になかった。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	他の県や国の災害に目を傾けることはとても大切だと思ったので、これから自分が災害の状況を知ったときには、自発的に行うことが大切だと思いました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	避難するとき…スニーカーなどの履き物 避難所…涼しくできるもの		
どんな応援があったらよかったか	募金活動を行い、被災地にメッセージと一緒に送ること		

中高生世代52	適切な情報の拡散		
年齢	現在16才(高校2年生)	いつ頃	2018年6月頃
どこで	自宅		
だれと	1人で		
どんな活動をしましたか？	「Twitter」を使用して西日本豪雨に関する適切な情報を拡散した		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	現地の人に少しでも状況を知ってもらおうと思ったから		
やってどう思いましたか？	誤った情報を流してしまっていないか不安になった		
周囲の反応はどうでしたか？	「その情報はあっているのか？」ときかれた		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	適切な情報だけを伝えられるようにしたい		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代53	募金活動		
年齢	現在16才(高校2年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	神戸市		
だれと	環防の友達		
どんな活動をしましたか？	大きな声を出して呼びかけたりした。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	困っている人を助けたかったから。		
やってどう思いましたか？	色々な方が募金してくれてうれしかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	がんばってと言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	人の役、誰かの役に立つことはとても良いことなんだと改めて実感した。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代54	募金		
年齢	現在16才(高校2年生)	いつ頃	2018年8月頃
どこで	兵庫県神戸市	ノエビアスタジアム神戸	
だれと	部活（30 人くらい）		
どんな活動をしましたか？	大声で、募金をスタジアムの入口付近で行いました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	部活で、募金活動をしようということになりました。		
やってどう思いましたか？	スタジアムの中は人が多く声が通りにくかったです。		
周囲の反応はどうでしたか？	「がんばって」などと声をかけていただきました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	今回の経験をふまえて、人ごみが多いときの大変さをしりました。ただ大きな声で呼びかけるのではなく、全員で声を合わせて言うと、前にいる人の心にとまることに気づきました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか	「がんばっている」人に「がんばって」など声をかけていきたいです。		

中高生世代55	小さな活動		
年齢	当時15才(中学3年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	兵庫県神戸市	なし	
だれと	一人で		
どんな活動をしましたか？	強い風により飛んでいってしまったものをもとの場所に戻す。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	あまりにもちらばっていたので、きれいにしたいと思ったからです。		
やってどう思いましたか？	いいことをしたなと思いました。		
周囲の反応はどうでしたか？	あまり反応はなかった。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	気づいた人が行動していきましょう。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	食料。		
どんな応援があったらよかったか	手伝いますなど。		

中高生世代56	私がしたことできなかったこと～西日本豪雨～		
年齢	当時15才(中学3年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	・兵庫県南あわじ市 ・大阪府	・家の近くのスーパー ・難波グラウンド	
だれと	・家族（家の近くのスーパー） ・自分（大阪府）		
どんな活動をしましたか？	したこと ・チャリティー活動を行っている所に 1000 円募金できたこと（大阪府） ・家族で貯めた貯金を 24 時間テレビの募金に入れた（スーパー） できなかったこと ・募集年齢に達していたが、保護者同伴で親の仕事が忙しく、行けなかった。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	学校の行事で、防災について学ぶ合宿があり、そこで募金、ボランティア活動の大切さを知ったから。		
やってどう思いましたか？	少しでも被災者の足しになってくれたと思うと、少し心が安心した。		
周囲の反応はどうでしたか？	・「そんなに払わなくてもいいじゃない」と友人も言われた。 ・担任の先生（当時）「すごい」と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	募金で少しでも復興になるのであれば、遠方やボランティア活動に参加できなくても募金なら近くにあるので、その利便さを伝えたい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代57	募金		
年齢	当時15才(中学3年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	神戸市		
だれと	友人		
どんな活動をしましたか？	募金をした。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	少しでも被災地の力になれたらいいなと思ったから。		
やってどう思いましたか？	これだけで良かったのかなぁと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	募金箱を持っていた人から「ありがとうございます」と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	少しでも被災された方々の力になれることはしていく。たくさんの方がそうすることで、たくさんの方が元気になれるということ。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	避難してないんで分からないですが、最低限となりの方としきりをつくれるようにダンボールなどあればいいのではと思います。		
どんな応援があったらよかったか	物資支援や、小さい子のお世話をしてくれるなどがあればいいと思います。		

中高生世代58	準備の大切さ		
年齢	当時14才(中学3年生)	いつ頃	2018年6月頃
どこで	兵庫県神戸市	自宅	
だれと	家族4人		
どんな活動をしましたか？	大阪北部地震でもしも余震等でこちらまで被害が来たときのために家族で避難経路の確認や防災バッグ等の準備をした。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	いつ自分に地震がくるか分からないし、もしもの時のために。		
やってどう思いましたか？	地震で避難が必要なほどのゆれはこちらには来なかったが、準備をしていて安心できた。		
周囲の反応はどうでしたか？	言いだしたのが自分で、家族から「えらいな」と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	今回、自分は地震が起きてから準備をしたが、いつどこで災害が起こるか分からないので、普段から準備をしていた方がいい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代59	離れた場所でできることは？		
年齢	当時14才(中学3年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	兵庫県		
だれと	1人で		
どんな活動をしましたか？	募金活動。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	遠くの場所から少しでも協力したいと思ったから。		
やってどう思いましたか？	実際、役に立ったのかがわからない。		
周囲の反応はどうでしたか？			
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	一人がした所で意味がないので、まわりに呼びかけたりしようと思った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか	はげましの言葉が書いてある防災フラッグなど。		

中高生世代60	地域のボランティア		
年齢	当時14才(中学3年生)	いつ頃	2018年8月頃
どこで	兵庫県神戸市塩屋北町	公園	
だれと	地域の人と（20人）くらい		
どんな活動をしましたか？	西日本豪雨で公園が荒れてしまったので、そうじをした。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	地域からの呼びかけがあったから。		
やってどう思いましたか？	みんなでやるとすぐきれいになるし、つかれないなと思った。台風でこんなに荒れてしまうんだと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	ご苦労様でしたと言って笑顔で帰った。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	1人でやるんじゃなくてみんなで協力することが大事だと思った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	スリッパ、ダンボール、新聞		
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代61	元気づけるポスター作り		
年齢	当時15才(中学3年生)	いつ頃	2018年8月
どこで	兵庫県		
だれと	中学三年生のクラス		
どんな活動をしましたか？	元気づけるようなポスターを作った。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	災害のことに興味があり、少しでも元気づけたかった。		
やってどう思いましたか？	とても勉強になった。		
周囲の反応はどうでしたか？	クラス全員が真剣にがんばっていた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	このような活動はとても得るものが多く、勉強になるなと感じました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	元気づけれるようなもの。		
どんな応援があったらよかったか	クラス全員でがんばりました。		

中高生世代62	高齢者独り暮らしの方への訪問		
年齢	当時14才(中学3年生)	いつ頃	7月頃
どこで	兵庫県神戸市	自宅近辺	
だれと	両親		
どんな活動をしましたか？	高齢者の独り暮らしの見守り活動の一環として豪雨の翌日に、安否確認やケガの有無、ベランダの片づけが必要かどうかなどを聞きに家へ伺った。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	両親が、普段から見守り活動をしていて、母にその活動の仕事を手伝ってほしいといわれたのがきっかけになった。		
やってどう思いましたか？	私がさせてもらった仕事は、家に伺ってお話を聞くだけなので、最初は「する意味あるのかな」と思っていたが、実際にしてみると、多くの方々から「安心した」と言われ、してよかったなと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	「来てくれてありがとう」や「安心した」などと、笑顔で言っていただいた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	今回、見守り活動のボランティアをして、地域コミュニティがとても大切だと感じた。これから地域の方々と積極的に交流していきたいと思った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	今回は、避難しなかったので分からないが、懐中電灯はあったほうがいいんじゃないかなと思う。		
どんな応援があったらよかったか	復旧時の作業の応援（例：看板の取り付け、飛んできたものの撤去）など…		

中高生世代63	募金活動		
年齢	現在15才(高校1年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	兵庫県神戸市	自宅	
だれと	家族と4人で		
どんな活動をしましたか？	募金活動で毎日500円を入れていました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	何かしたいと思ったから。		
やってどう思いましたか？	ためになっているのか不安だった。		
周囲の反応はどうでしたか？	入れた時、「いつもありがとう。」といわれた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	やはり、実際にいって手伝うほうがためになると思った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	犬の設置場所		
どんな応援があったらよかったか	行っていろんな人たちとふれ合って活動する応援		

中高生世代64	何もできなかった西日本豪雨		
年齢	現在15才(高校1年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	兵庫県神戸市	自宅	
だれと	家族（父をのぞく）		
どんな活動をしましたか？	支援物資を地域でまとめて送るのを手伝った。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	最初はそんなに被害が出ないと思っていたけど、川の氾濫を見て行おうと思った。		
やってどう思いましたか？	誰か1人の役に立てばと思ってやった。		
周囲の反応はどうでしたか？	親や祖父母にほめられた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	支援することで1人でも2人でも笑顔になる人が増えることを知った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代65	備え		
年齢	現在15才(高校1年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	兵庫県神戸市	避難していない	
だれと	家族		
どんな活動をしましたか？	停電になった時の為に枕の近くに懐中電灯をおいた。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	停電した時に困るから。		
やってどう思いましたか？	停電にはならなかったけど用意できてよかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	特に言われていない。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	普段から備えておくべきだとおもった。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	タオル		
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代66	募金活動		
年齢	現在15才(高校1年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	兵庫県		
だれと	学校の友達		
どんな活動をしましたか？	豪雨があったのはテレビでも知って募金活動した。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	阪神・淡路大震災の時、募金していただいたから。		
やってどう思いましたか？	みんな結構募金してくれると感じました。		
周囲の反応はどうでしたか？	特になし		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	募金活動がとても大事ということが分かった。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	毛布など		
どんな応援があったらよかったか	日本各地から応援		

中高生世代67	地震へのそなえ		
年齢	現在16才(高校1年生)	いつ頃	2018年6月頃
どこで	神戸市		
だれと	親と		
どんな活動をしましたか？	大阪北部地震の様子を見て、自分の家でも非常用持ち出し袋を準備した。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	地震が発生したときに快適に過ごせるようにと親と話したから。		
やってどう思いましたか？	非常用持ち出し袋は用意できたが、他の地震対策もしないとなと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	親に「考えてくれてありがとう」と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	思っていたよりかは楽にそろえられたので、もっといろんな人も備えるべきだと思った。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代68	協力		
年齢	現在15才(高校1年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	兵庫県神戸市垂水区		
だれと	1人で。		
どんな活動をしましたか？	募金活動		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	少しでも力になりたかったから。		
やってどう思いましたか？	被災地が元気になればいいなと。		
周囲の反応はどうでしたか？	「え～、募金するのえらいなぁ」といわれた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	少しでも力になろうとすることは大切。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代69	体調管理		
年齢	現在15才(高校1年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	兵庫県神戸市	避難していない	
だれと	家族3人		
どんな活動をしましたか？	豪雨で家が停電したので、懐中電灯を3台ほど使用した。氷枕も利用した。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	夜中に停電して暗かったから。電気が停止して家の中が暑かったので、ミニ扇風機（充電式）を探したかったから。		
やってどう思いましたか？	暑さから体を守れた。熱中症にならなくてよかった。		
周囲の反応はどうでしたか？	「充電式の道具っていいね」と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	西日本豪雨は夏場に発生したものなので、停電して、エアコン・扇風機が切れても熱中症にはならないようにした。モバイルバッテリーや充電式の道具は持つべき。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	タオル		
どんな応援があったらよかったか	・着替えの服 ・うちわ		

中高生世代70	復興募金		
年齢	現在15才(高校1年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	兵庫県神戸市		
だれと	いろいろな中学生と約6人		
どんな活動をしましたか？	募金活動しました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	西日本豪雨で被災した方々のことを思ったから。		
やってどう思いましたか？	やりがいがあった。		
周囲の反応はどうでしたか？	おねがいします。がんばってね。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	人の助けがないと復興できない。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代71	募金		
年齢	現在15才(高校1年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	兵庫県神戸市長田区		
だれと	1人で		
どんな活動をしましたか？	募金活動		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	1番身近にできることだと思ったから		
やってどう思いましたか？	実際やってみてあまり役に立った感じはしなかった		
周囲の反応はどうでしたか？	とくになかった		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	これからも募金はし続けていきたい		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代72	準備の大切さ		
年齢	現在16才(高校1年生)	いつ頃	2018年7月
どこで	兵庫県神戸市		
だれと	家族3人		
どんな活動をしましたか？	募金をしました。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	たくさんの人が困っており、自分が現地にいくことができないので、お金でもと思ったからです。		
やってどう思いましたか？	早くふっこうしてほしいと思いました。		
周囲の反応はどうでしたか？	ありがとうございます。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	人の役にたつことの大切さを改めて感じました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	水3L×3、非常食		
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代73	地域の安全確認		
年齢	現在15才(高校1年生)	いつ頃	6月28日～7月8日、7月頃（昨年）
どこで	兵庫県神戸市		
だれと	1人		
どんな活動をしましたか？	地域の安全を確認するために、地域で危険な場所や危ない場所になりうるかを見回った。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	いつも、地域活性化に努めてくれている人たちに恩返しがしたかったから。		
やってどう思いましたか？	やらなくても良いのではなく、やったからこそ安全に済んだんだと理解したいです。		
周囲の反応はどうでしたか？	裏での活動なので、地域の人たちは自分が確認したとは思っていませんが、家族からは「ありがとう」など言ってくれました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	今後の災害に対しては、その時に呼びかけたり、判断力を見極めていきたいと思いました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代74	募金		
年齢	現在15才(高校1年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	兵庫県		
だれと	一人で		
どんな活動をしましたか？	西日本豪雨の募金をした。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	被災地が1日でも早く復興してほしいと思ったから。		
やってどう思いましたか？	このお金が被災地に行って役に立つんだと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	「ありがとうございます」と言った。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと			
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代75	遊歩道復旧作業		
年齢	現在16才(高校1年生)	いつ頃	2018年7月頃
どこで	神戸市内	家の近くの遊歩道	
だれと	友達3人		
どんな活動をしましたか？	高潮により、家近くの遊歩道が浸水し、海とつながったため、水がひくと流木などのごみがたくさんおちていた。だから、金銭面的にかいしゅうはできなかったが、通れるようにゴミをよせた。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	普段はランニングに使っている人やサイクリングに使っている人など様々な人がいて、普通に歩くことでさえ困難な状況で、他の使い方はできない。いちはやくそれいぜんの状況に戻したいと考えたため。		
やってどう思いましたか？	やっているときは上下運動がはげしく、重いものもあったため苦となることもあったが、終えたときにはキレイになったという喜びと達成感があり、人のためにすることはとても良いことだと改めて思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	通りかかったおじさんに「えらいねーありがとう」と言われた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	今回の経験から何かできることを見つけることが必要だと改めて感じた。どんな小さなことでもできることは必ずあるため、探して欲しい。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	避難時ではないが、今回は軍手やかんたんに木を切れる物があったほうがもっと作業効率があがったと思う。		
どんな応援があったらよかったか	金銭的応援、なければ人員		

中高生世代76	電車内で地震体験		
年齢	当時16才（高校2年生）	いつ頃	6月18日大阪北部地震
どこで	兵庫県神戸市	ＪＲ神戸線須磨海浜公園駅の電車の中	
だれと	同じ高校の人（市民の方々）		
どんな活動をしましたか？	・地震速報がスマホに鳴った時に、とっさに「地震だ」と車内でさけんだ。車内アナウンスで、手伝える人がいたら、手伝って下さい。(何か忘れた）といわれたが、行動にうつせなくて後悔した。 ・実際に家まで歩いてみて、もっと大地震が起きていたら、と考えながら、3時間かけて帰宅した。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・やろうと思ったという理由はないが、皆が速報音でパニックになっていると感じ、とっさに「地震」という言葉で何が起きているのかを周囲に知らせて、冷静に行動しようという気持ちだったと思う。自分のために「地震」といったのかもしれない。 ・大地震が起きた時に、「歩く」ということが必要になるために、訓練として、やってみた。		
やってどう思いましたか？	・変に思われなかったか心配になった。 ・奥の人まで声が聞こえていたのか心配だった。 ・その時どう行動したらもっと良かったか考えた。 ・「頭を守れ」となぜ言わなかったのか。 ・電車のありがたみが分かった。 ・3時間以上かかると思った。（震災時）		
周囲の反応はどうでしたか？	・私が「地震だ」とさけんだ時、周りの何人かの方が、「地震!」と発言していた。 ・その後落ち着いていて、皆、連絡を取り合っていた。 ・歩いていると、「大変だね」と言われた。 ・いい経験だと言われたかもしれない。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・誰かの発言で、パニックになったり、落ち着いたりすることが分かった。 ・また、とっさに何でもいいから発言することによって、空気がかわったり、自分にも落ち着かせようとしているのだと感じた。 ・地震があったら、「歩いて帰ってみる」という大切（シミュレーションする大切さ）が分かった。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代77	私たちにできる小さいボランティア		
年齢	現在16才(高校1年生)	いつ頃	
どこで			
だれと	1人で		
どんな活動をしましたか？	募金		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	被災者の方々の力になりたかったから。		
やってどう思いましたか？	私たちの少しずつのお金で、少しでも多くの方々の力になれると思うと、うれしい。		
周囲の反応はどうでしたか？	周りも、少しずつではあったものの、募金をしていた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	募金だけでなく、少しのボランティア心をもち、活動することで、私たちは力になれるということに気づかされた。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか	募金活動をする側にも立ち、しっかり復旧を応援したい。		

中高生世代78	もっと出来たな…。		
年齢	当時15才(高校1年生)	いつ頃	
どこで			
だれと			
どんな活動をしましたか？	募金活動（生徒会による）		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	少しでもためになればいいなと思ったから。		
やってどう思いましたか？	みんな思ったより募金活動に積極的だった。		
周囲の反応はどうでしたか？	あまり興味がなさそうな人もたくさんいた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	募金（その他活動）をやる意味をみんながわかるように伝えること。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか			

中高生世代79	“私には何が出来る？”		
年齢	当時15才(中学3年生)	いつ頃	
どこで			
だれと			
どんな活動をしましたか？	私は復旧・復興支援活動に対して、少し遠い存在のものだと感じていました。自ら参加することが出来ず、街中で行っている募金活動にお金を入れることしか思い浮かばず、無力さを痛感していました。もう少し、身近に出来るボランティアを知る必要があったのかもしれません。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	（活動に参加したいと思う理由） 私と同じ年代の人たちがボランティア活動などを行っている様子をみて、自分自身も何か役に立てることはないか、という思いを抱いていました。		
やってどう思いましたか？	（参加できなかった理由） 私には何が出来るのか分からず、参加の方法や手段が分からず、勇気がでませんでした。		
周囲の反応はどうでしたか？	一緒にいるひとりが募金すると、もうひとりも募金するというような光景がみられました。募金活動に関しては「ありがとう」と言って頂く機会が多く、少しでも力になれたかなという気持ちになりました。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ある防災教育を受けた際に、とても印象に残っていることがあります。「過去の災害の記憶を絶対に風化してはならない」この言葉の意味をよく考えた上で、私自身が守っていきたい、大切にしていきたい、という思いになりました。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの			
どんな応援があったらよかったか	学校でボランティアについて知る機会やきっかけを作る場があれば、もっと身近に考えることができると思いました。		

中高生世代80	自分が「今」できること		
年齢	当時16才(高校2年生)	いつ頃	
どこで			
だれと			
どんな活動をしましたか？	・被災地には直接行くことができず、テレビのニュースなどで、状況を知ることしかできなかった。 ・Twitterなどの SNS で、状況を伝えている人、困っている人の投こうを広めようとすることはできたと思う。		
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・被災地に直接行くことができないので、状況を知って、自分にも同じ事が起きたら、どのように行動したらいいかを考えることが、その時の自分にできることだったから。 ・SNS は、一番広めて伝えることができると思うし、これが一番私が力になれることかなと思ったから。		
やってどう思いましたか？	・災害について、考えたり、家族と話し合う機会ができたので、よかったと思う。 ・私の力で、少しでも、もっと多くの人に知られたとしたらいいなと思った。		
周囲の反応はどうでしたか？	・家族や周りの友達と普段は話すことのない災害について考えることができた。 ・友達が、私がリツイートして広めようとしていた投こうを見て、私も広めたよ、とか、見たよ、とかを言ってくれた。		
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・直接、支援することができなくても、その災害について知って、これから起きるかもしれない災害に活かすことはできると思うし、今だからこそできる SNS での拡散を上手に使うことが大事だと思う。		
避難するとき/避難所にあるとよいもの	その場所に行くまでの、無料のボランティアバスは、たくさん必要かなと思う。		
どんな応援があったらよかったか	ボランティアをもっと呼びかけること。		

中高生世代 81	
年齢	当時 16 才（高校 2 年生）
いつ頃	2018 年
どこで	
だれと	
どんな活動をしましたか？	ニュースの状況をニュースで見て、F さんを初めとする周りの友達に「現地でボランティアしたい」というふうに言って、仲間に声かけをした。西日本豪雨のボランティアが行けるように、日付も決まったけれど、その数日後、骨折してしまい、現地でのボランティアをすることができなかった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	ニュースを見て、気がついたら友達に LINE を送っていた。体が勝手に、現地で何かしたいと思ったから、やろうと思った。
やってどう思いましたか？	結局、現地で何かしたいと思っていたけれど、骨折してしまい、同じ日に脱水症状でたおれたりもして、ボランティアでも同じようなことが起こって周りに迷惑かけてもだめなので、行くことをあきらめた。すごくくやしい思いをした。
周囲の反応はどうでしたか？	舞子の普通科で私より一つ上の学年に私のいとこがいた。そのいとこが、私が行きたいと言っているのを見て、自分も現地で一つでも何かできることがあれば…と思い、ボランティアに行っていた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	私は、現地に行ったりすることはあきらめて、くやしい思いをしたけれど、私が何かしたいと表現する事で周りも、そう思ってくれてた。また私は、骨折でなかなか動くことはできなかったけれど、毎日ニュースを見て、調べて、現地の事を考えるようにした。何もできなくても、無興味でいるのではなく、現地の事を考える事が大切だと思った。
避難するとき／避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 82	災害は人間の力に勝ることを知った 真備町ボランティア
年齢	16 才（高校 2 年生）
いつ頃	3 月頃
どこで	岡山県真備町　道路
だれと	兵庫県内の高校生
どんな活動をしましたか？	・がれきやガラスを拾った。 ・拾った物をゴミとして分別してゴミ袋に入れた。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・岡山県や、その付近で災害が起こった際にテレビで見て「自分でもできることはないか」と考え、学校で災害ボランティアをする機会があったので、「人を助けるチャンスだ」と思ったから。 ・将来、福祉関係の仕事に就こうと考えているので、『人を助ける』という体験をしたかったから。
やってどう思いましたか？	・とても地道で、終わりのない作業だった。 ・少しでも手を抜いたらケガにつながる恐れがあるので大変だった。 ・災害はいつ、どこで起こるかわからず、防ごうと思っても防げないのが現状なので、人間の力よりも強い災害は恐ろしいと感じた。
周囲の反応はどうでしたか？	・「かなり周辺がちらかっていたので助かりました」といわれた。 ・屋内のプールが災害にあい、ボコボコになっていた。「これは本当にひどい」と言っていた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	・人を助ける大変さと、助けた後の達成感。この達成感があるから、また人を助けたいと思うのだと感じた。 ・災害ボランティアは一生忘れられない物となり、将来につながるような活動になった。
避難するとき／避難所にあるとよいもの	・救急箱（自分の身だけではなく、他人を助けることができるから。） ・ラジオ（テレビも電気もつかないし、少しでも近況を知りたいと思うから。）
どんな応援があったらよかったか	・素直に「がんばれ」や「落ちついて」などの応援がほしいかなと思う。

中高生世代 83	ボランティアとは
年齢	15 才（高校 1 年生）
いつ頃	8 月頃
どこで	岡山県真備
だれと	高校生と大人の方　約 30 人ぐらい
どんな活動をしましたか？	河川敷で石と草を抜いたりした。細々とした石を取り除くのが大変だった。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	少しでも災害にあった人々の力になりたかったから。元々ボランティアに興味があったから。
やってどう思いましたか？	意外と簡単だった。ですが、地道だった。
周囲の反応はどうでしたか？	周囲ももくもくと作業していてすごいなぁと思った。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ボランティアは人を幸せにすると思う。とても達成感のあふれる時間となりました。ボランティアを大切にしていきたいです。
避難するとき／避難所にあるとよいもの	たべもの
どんな応援があったらよかったか	元気がでる応援

中高生世代 84	
年齢	15 才
いつ頃	8 月頃
どこで	岡山県　真備
だれと	高校生（他校の人も含め）と大人の方と 30 人
どんな活動をしましたか？	草をぬいたり、うまっている石をほってひろったりした。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	ほんの少しでも早いふっこうを手伝いたかったから。
やってどう思いましたか？	ボランティアとして行くのはすごく楽しかったけど、地元の人はいつもやっているんだなと思って、すごく大変だなと感じた。
周囲の反応はどうでしたか？	地元の方も楽しそうだった。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ボランティアも誰かがやってくれる、と思って人事にするのではなく、1 回自分で見て、やって、たくさんのことを学んだり感じたりすればいいと思う。
避難するとき／避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 85	小さな活動から。
年齢	16 才（高校 2 年生）
いつ頃	
どこで	岡山県真備町
だれと	他校の生徒・先生方・コープさん等、70 人程。外国人の方も。
どんな活動をしましたか？	・破片やゴミをひたすら拾い分別する作業 ・被害の様子が残る福祉館の見学 ・コープさんから声をかけてもらい、「平和のつどい」でボランティアについての発表 ・「おせっかフェ」でボランティアについて参加者と交流会・意見の共有
なぜ、それをやろうと思いましたか？	元々報道をみて気にはなっていたのですが、自分にできることはないと思っていたので、ボランティアに参加させてもらえると聞き、すぐに申込みました。しかしそのときはもう報道もほとんどされなくなっていて、私の気持ちも「なんとなく」という感じでした。
やってどう思いましたか？	ボランティアを終えて、「頑張れた」という気持ちと、多くの人数で一日かけてやっても規模でみるとほんの一部にすぎないという現実とで複雑な気持ちでした。
周囲の反応はどうでしたか？	地域の方は「ありがとう」と声をかけてくれました。高校生が遊べる時間を収入もないボランティアにあてることに疑問も持たれました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	外見だけでは分からないことだらけなのに、外見だけで判断してしまいがちでした。だからこれからは、「報道されなくなったから」「なんとなく大丈夫そう」だけで済ませないよう、意識して生活していきたいです。しかし、実際は以前の私みたいな方はたくさんいると思います。だから私は、今回のボランティアでのことについて少しでも多くの人に発信していき、またそれを発信したいと思ってもらえるように積極的に活動したいです。
避難するとき／避難所にあるとよいもの	警戒心
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 86	小さなことでも役に立つ
年齢	17 才（高校 3 年生）
いつ頃	3 月頃
どこで	岡山県倉敷市真備町
だれと	県内の高校の人
どんな活動をしましたか？	細かいガラスやゴミ拾い、分別。建物内見学。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	ボランティアに興味があり、災害が起こったことは知っていたけど、どのような状態で、どこまで復興が進んでいるのか何も知らなかったので見てみたかったからです。
やってどう思いましたか？	細かいガラスやゴミなどを拾うちょっとしたことで役に立っていると思うとすごくやりがいを感じた。建物内を見る機会があり、見たことのない景色に驚き、水害の恐ろしさと、まだまだ復興しきれていないことを知った。まだ、私にできることはあると思うから、機会があったらまたボランティアに参加したい。
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	復興しきれていない所がまだまだあるので、まずたくさんの人にそのことを知ってもらい、ボランティア活動に積極的に参加してほしい。そのために私も呼びかけていこうと思います。
避難するとき／避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 87	ボランティアで得たもの
年齢	16 才（高校 2 年生）
いつ頃	12 月 15 日
どこで	岡山県真備町　被害にあった家屋
だれと	神戸や西宮の高校生や大人　約 60 人
どんな活動をしましたか？	泥落としを中心に被害にあった家屋の清掃作業を行ったです。壁や床をはがしていたので、2 階の泥落としのとき、高所恐怖症の私はとても怖くて、最初は動けなかったです。泥落としは大変だったけど、初めての経験で楽しかったです。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	最初、先生がこのボランティアを紹介してくれました。災害ボランティアは行ったことがないので聞いたときは「ハードルが高いな」と思いましたが、友達が誘ってくれたため参加しました。
やってどう思いましたか？	昼に、ご飯休憩があり、早く食べ終わったため、決壊した川の所に行きました。自然のおそろしさを知りました。そのときに「神戸から来てくれたの？ありがとう」と言われて、とても嬉しかったです。自分は何もできないと思っていたけど、誰かの助けになっているのだなと、感じることができました。
周囲の反応はどうでしたか？	ボランティアが終わって、ボランティアセンターに戻ると、現地の方が、温かいお茶やお菓子をくれました。一人のおじいちゃんに話しかけられて、西日本豪雨の時の真備町の様子について話をしてくれました。最初は険しい顔をしていたけど、少し笑顔になってもらえたのでよかったです。「話す」というだけでもボランティアになるんだなと思いました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	私は将来医療の現場で働きたいと思っています。そのときに、このボランティアで学んだ、「話を聞くこと」の大切さ、「人の為に働く」ということの素晴らしさを忘れずに仕事をしたいと思いました。ボランティアで得たり、学んだりしたことを忘れずに日々過ごしていきたいです。
避難するとき／避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 88	街の復興とこころの復興
年　齢	17才（高校３年生）
い つ 頃	2018年12月　2019年３月、６月
どこで	岡山県倉敷市真備町
	３回目は真備町岡田小学校
だれと	県内の高校生
どんな活動をしましたか？	1、2 回目は、がれきを集めて分別する作業をしました。がれきの中からは、免許証や写真なども出てきてとても心が痛みました。３回目は真備町にある岡田小学校で防災について考える授業を５、６年生の児童を対象に行いました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	私なんかにもできることがあるなら行こうと思って行ったのが 1 番最初でした。初めに行った時は、災害から 5 ヶ月が経過していたけど、災害の大きさがうかがえる状態の吹き抜けの家やブルーシートで覆われている山が多く見られました。それ以降は、私は行かなければならないという使命感を感じました。少しでも復興の手助けをできたらと思ったからです。
やってどう思いましたか？	３回目は小学生に「非常用持ち出し袋をつくろう」というテーマで授業をしました。実際に災害を経験した子どもたちが、とても真剣に考えている姿が印象的でした。“これは物資でもらえるから避難所には持って行かない”などと言ったリアルな声を聞いた時、この子たちは本当に大変な思いをしたのだと思いました。中には、“災害はいつ起こるかわかんないんだから”と言って考えたくないという子もいました。子どもたちの『こころの復興』には、まだ多くの時間がかかるのだと感じました。
周囲の反応はどうでしたか？	
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	新聞やテレビでは、現地の様子はほとんど報道されてないけど実際現地の復興にはボランティアの力がまだまだ必要です。少しでも早く、元の姿に戻ることのできるよう、私はこれからも足を運び続けていきたいと思います。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 89	岡山県倉敷市訪問
年　齢	18才（高校３年生）
い つ 頃	2018.9.29～10.1
どこで	岡山県倉敷市
	岡山県青陵高校 ボランティアセンター
だれと	同学年の友人（女子）１人と、自分を含め２人で
どんな活動をしましたか？	・ボランティアセンターに行って、積み上げられた物資を仕分けする活動を行った。タオルをたたむ、服を仕分ける、食器を種類ごとに分ける。 ・岡山県青陵高校の生徒さんへ義援金を渡し、生徒間交流を行った。お互いに質問をしあったりしながら深く話すことができた。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	学校の方からお話があったから。はじめは、自分には何ができるかとか、失敗しないかとか心配していた。
やってどう思いましたか？	自分にでもできることがあるということが分かり、自信がついた。ただ、ボランティアということでさせてもらっているのに、お茶をもらったり休む場所をいただいたりして申し訳ないような気持ちにもなった。
周囲の反応はどうでしたか？	ボランティアに来た私をすぐに受け入れてくれて、やり方だったり、コツだったりを教えてくれた。忙しい中でもあいさつや感謝を伝えていただけて私の気持ちの方が励まされるような気がした。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	ボランティアに行くときは当たり前に、自分のことは準備していくべきだ。ボランティアに来てもらったと相手に思わせるのではなく、ボランティアに来させてもらったという気持ちで向かうべきだと思った。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	ライト、仕切り
どんな応援があったらよかったか	若い人の力（重い物などを運ぶ）

中高生世代 90	西日本豪雨募金活動
年　齢	18才（高校３年生）
い つ 頃	７月
どこで	宮城県多賀城市
	多賀城駅前
だれと	8～10 人程度
どんな活動をしましたか？	募金活動
なぜ、それをやろうと思いましたか？	・東日本大震災時、世界中からボランティアが来て困っている私たちを助けてくれた。 ・直接手助けすることは難しいが、間接的にでも何か助けをしたいと考えていたから。
やってどう思いましたか？	多くの人に募金していただき、被災地の復興に協力的でうれしかった。
周囲の反応はどうでしたか？	「頑張ってね」と言われることもあり、もっと頑張ろうと思えた。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	東日本大震災で大きな被害にあったこともあり、災害をより身近に感じ、被災地の復興に協力的な人が増えていると思った。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	水を使わないシャンプー、ボディシート、着替え
どんな応援があったらよかったか	頑張って

中高生世代 91	現地でのボランティア活動
年　齢	18才（高校３年生）
い つ 頃	2018年９月頃
どこで	岡山県倉敷市
	倉敷市真備支所
だれと	高校の同級生１人と先生１人の３人で
どんな活動をしましたか？	真備支所でタオルをたたむ活動と届いたダンボールの中身を仕分けし運ぶ活動をしました。タオルは決められたたたみ方に合わせてたたみました。ダンボールの中身を仕分けする活動では中身を確認し食器や衣服などを種類やサイズごとに仕分けました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	高校で災害を学ぶ学科に所属していて、もともとボランティア活動などに興味がありました。その時学校の先生からの誘いで参加することになりました。実際に宮城県で体験した 2011 年の東日本大震災の時は助けてもらう側だったので自分が岡山県に出向くことで何か少しでも力になれたらという気持ちで始めました。
やってどう思いましたか？	募金を集めるボランティアはやったことがあったのですが、実際に現地で体をうごかすボランティアは初めてだったので被害の大きさに驚きました。私が訪問させていただいた頃は発災から１ヶ月・２ヶ月くらい経過していて、報道が少なくなっていたのに、状況は全く変わっていないのだと感じました。また、実際に活動した場所で、被災された方がボランティアの活動をしている場面を見て、実際に辛い思いをしている人達が他の人のために頑張って働く姿がすごくかっこいいと思ったのと同時に地元の人の頑張りをもっと手助けしたいと思いました。しかし届いたダンボールの中に絶対に着れないような衣服が入っていることがあり、仕分けをしながら送れば良い、と軽い気持ちで送られた荷物があることを感じました。地元の人をがっかりさせるような行動は絶対に良くないことだし、そういう気持ちで何かするなら何もしない方が良いのに、と少しがっかりしました。
周囲の反応はどうでしたか？	帰ってきてから学校で成果発表をした時、現地にブルーシートがまだたくさんはられている写真を見て「まだこんなに被害が残っているとは思わなかった。」ということを言われました。報道で見れなくなるともう大丈夫なのだと思ってしまう人は多いと感じました。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	今回の経験で現地の様子は実際に行ってみないと分からないとより強く感じました。テレビや新聞などで取り上げられなくなっても実際はまだ発災直後から状況が変化していなかったり、人手を求めてたりすることがあると思いました。また、被災した人のために何かするのであれば本当に被災した人のためになるようなことをするべきだと思いました。自分の自己満足や生半可な気持ちでやるならやらない方がいいと思います。地元の人達は自分自身も被災をしているけど周りの人のためにと辛い思いをしながら働いているのに、ダンボールの中を見てがっかりさせるのはとても酷いことだと今回感じました。もし送る物がないなら募金でも良いと思います。遠くにいる相手のことを考えることの大切さを強く感じました。これから生きていく中でもまた災害にあう機会は多々あると思います。その時に自分が被災した時は岡山の方々のように他の人のためを想い働けるような人になりたいです。また、自分がボランティア等をまたする際には受け取った人があたたかい気持ちになれるような送り物をしたり、募金をしたり、現地に足を運びたいと思いました。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

中高生世代 92	募金活動
年　齢	18才（高校３年生）
い つ 頃	2018年７月頃
どこで	宮城県多賀城市
	多賀城駅前中心に
だれと	生徒会執行部のメンバーと（11 人くらい？）
どんな活動をしましたか？	多賀城駅前でパネルを持ち、募金箱を持って呼びかけました。他にも、塩釜駅や下馬駅で行っていました。
なぜ、それをやろうと思いましたか？	これまでにも災害が起きるたびに学校で募金活動を行っていたので、西日本豪雨の際にもやろうとなったからです。
やってどう思いましたか？	暑い中での募金活動は大変でしたが、地域の方々が寄付してくださるととても嬉しい気持ちになりました。
周囲の反応はどうでしたか？	「頑張ってね」と言われたり、「暑いから気をつけてね」と労っていただいたりしました。細やかな気づかいがとても嬉しかったことを覚えています。
気づいたこと、伝えたいこと、大切にしたいこと	直接ボランティアに行くことはできなくても、募金という形でできることもあるのだと思いました。卒業してからもこの心を忘れずに生活していきたいです。
避難するとき/避難所にあるとよいもの	
どんな応援があったらよかったか	

岡山県
広島県
愛媛県
兵庫県
宮城県

大人からの投稿

大 人 1	輝きを増す生徒たちに		
年　齢	50 代	い つ 頃	平成 30 年 12 月 平成 31 年 3 月 令和元年 6 月
どこで	岡山県倉敷市真備		
だれが			
どんな活動を見ましたか？	がれきの撤去作業、12 月、3 月。真備の岡田小学校への防災授業（高校生の引率） 被災地の復興のため、人のために考え、弱音を吐かないように作業する生徒の姿を見て、頼もしいと思いました。		
子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？	ボランティアの経験を積むごとに、社会性を身につけ、体験から得た自分の意見を述べられるようになっていく生徒の成長ぶりに感動します。		
子どもたちへの期待やメッセージ	被災地や被災者の方はもちろん、自分の身近な人ひいては自分自身のことも大切に思えるようになることに、ボランティアの意義はあると思います。そういう気持ちを持った若者がこれからの日本・世界を支えるようになってもらいたいです。		

インタビュー

岡山県 …… 92
広島県 …… 95
愛媛県 …… 100
兵庫県 …… 106
宮城県 …… 114

※インタビュー参加者のお名前は、個人が特定できないように、仮名やイニシャルなどご本人の希望の表記としています。
※インタビューの中には、子どもの安全確保の観点から配慮が必要な事例も含まれますが、ありのままの体験を記録するという趣旨から、
　できるだけ忠実に掲載しました。
※インタビュー参加者の発言を正確に伝えられるよう、話し言葉や多少意味が伝わりにくい部分に関してもそのまま掲載しました。
　ただし、一連の会話の中で明確ではあるものの抜粋すると不明瞭な部分に関しては、括弧で補ったり、発言の趣旨がかわらない形で編集したりしています。

【子どもでもできることがある】



インタビュー実施場所：岡山県倉敷市
インタビュー実施日：2020 年 1 月 15 日
Saki さん（小学 6 年生）、お母さん

小さい子たちと一緒に遊ぶ

―西日本豪雨のとき、どんなことをしましたか？
Saki さん：避難所にいる小さい子たちと遊んだり、ボランティアの人が仲良くしてくれたから、お手伝いをしました。
―なぜ、それをしようと思いましたか？
Saki さん：ひまだったから。ボランティアのピースボートの人に「手伝って」って言われるから、それで。
お母さん：宿題もなかったので。
―小さい子たちとは、どんな遊びをしましたか？
Saki さん：遊んだ子は 5 ～ 7 人。保育園くらいの子。同級生と遊んでたら来て一緒に遊ぼって言われたから、トランプとかしました。ほかにはブロックとか、漫画、ボールがありました。
―ボランティアの人とは、どんなことをして遊びましたか？
Saki さん：バトミントンとか。遊ぼって言ったら遊んでくれた。近くの神社に散歩にも連れてってくれた。
お母さん：夏休み前倒しで学校が休みだったから、朝から夜までずっと遊んでました。大人も大人で、片付けや仕事で子どもをほったらかしじゃないですけど。たくさん子どもがいて一緒に遊んでくれてよかったと思います。ボランティアの人が一緒に遊んでくださって、夜遅くでも安心でした。（避難所が）小学校だったので遊具もあったし、遅くまで明かりもついていたので外で遊んでました。暑かったから外の方がまだ涼しかった。よく外にも連れて行ってくれてました。ダメなことはちゃんとダメと言ってくれるし、大きい子と小さい子の仲を取り持ってくれるし。お手紙のやりとりもしてもらってます。
―そういう人がいなかったらどうだった？
Saki さん：それでも遊んどったと思います。
―大人にどんなことをしてほしかったですか？
Saki さん：普通に接してくれたからよかった。（「遊ぼう」とか、「おはよう」とかあいさつしたり？）そう。

楽しかった避難所での思い出

―避難所で、いやなことはなかったですか？
Saki さん：ほかの避難所を見に行ったとき、二万小学校（の避難所）のほうがコミュニケーションが多かった。別のところはしきりも高くて暗かった。子どもはいたけど、遊んでる姿がなかった。二万の方が楽しかった。
―体験談のタイトル「子供でもできることはある！！」に込めた思いは？
Saki さん：避難所っていったら、大人ばっかりがやってる感じだけど、子どもでも手伝えることがある。ボランティアの人の手伝いや、小さい子と遊ぶこと。
―校内放送もしたそうですが、どんなことをしましたか？
Saki さん：お姉ちゃんの友だちが校内放送をやってて、「やってみる？」って言われた。トマトが届いたから、「新鮮なトマトがもらえたから、ありますよ。」みたいな放送をしました。
―どうして体験談を投稿してくれたの？
Saki さん：学校で、書ける人は書いてと言われたから、普通に書けるかなと思った。（負担にならなかった？）はい。
―インタビューで話してみてどうでしたか？
Saki さん：そのときの楽しい思い出を思い出せたからよかった。

【災害とSNS】



※イメージ写真

インタビュー実施場所：岡山県総社市
インタビュー実施日：2020 年 1 月 15 日
AH さん（大学 1 年生）、AS さん（お母さん）

SNS を見て、自分も動こうと思った

―西日本豪雨のとき、どんなことをしましたか？
AH さん：夕方から夜にかけて、スマホに避難勧告の通知が来ていたので、避難したほうがいいのかなと考えていて、夜いろいろテレビを見てるうちに、祖母と話し合って危機感を覚えたので、寝ていた母に声をかけました。ちょうど近所の人が私の家を訪ねてきて、避難したほうがいいかなという話をしていて、どこが高いかなという話になって、近くにまど記念病院があったので、近所のみんなで避難することにしました。
AS さん：22 時くらい。避難というか、雨宿りさせてもらおうかという感じ。電話して聞いたら、警備員さんがいいですよと。
―アラームが鳴っているとき、いつ避難したらいいか難しくなかったですか？
AH さん：SNS を見ていて、友人が避難とか動いている投稿が多く見られたので、自分も動こうと思いました。
―避難した後はどんなことをしましたか？
AH さん：しばらく SNS を見たり、友人と連絡を取り合って、今どんな状況かとか、避難しているかとか。河川事務所のライブカメラで高梁川の水位を頻繁に確認しました。
―ライブ映像が見られることはどうやって知ったんですか？
AH さん：SNS で、友人が見ていて、これくらいの水位みたいなのを載せていたので、自分でも確認しようと思いました。
―SNS を確認していた人はまど記念病院でほかにいましたか？
AS さん：当初、病院に用意された部屋では、娘が唯一の若者でした。ほかはおじいちゃん・おばあちゃん。みんながスマホを見てアラームが鳴っているなと思うだけだったところ、娘はちゃちゃっと確認して、逐一周りの人にどうなっているか伝えてくれました。普段そういう子じゃないんですけど。
AH さん：自分が特に SNS を使ってタイムリーな情報がわかったけど、みんなはわからないと思うので、水位の高さとか、しっかり伝えるべきかなと思いました。
―周りの人の様子はいかがでしたか？
AS さん：情報は、デマが流れるというのがあってか、半信半疑でしたね。自分のいた地域って、40 年前の浸水のとき、唯一あまり浸からなかったんですね。それを経験された方は、あまり実感が湧いている感じでなかった。
―半信半疑から正しい情報だと感じたのはいつでしたか？
AS さん：地域の委員をたまたましていて、お年寄りにも声をかけなければと思って夜中も何回も往復していたんです。そうしたら、だんだん水位があがっているのを見て。それと、私が知っている（娘の）同級生が「水が来てる」とか発信しているのを見て、嘘をつく子ではないと思うので、それからだんだん娘の情報を信じられるようになってきた。見知らぬ誰かではなく、娘の友だちということで、信じることができたと思います。
―投稿用紙に、「信じたくなかった」と書いてありますね。
AS さん：信じたくなかったのもありました。まさか自分が住んでいるところが、って。雨宿りのつもりで行ったのがこんなことになるなんて。情報がないのが、不安で怖かった。（当時の自分に声をかけるなら何と伝えたいですか？）「雨宿りでなく、本当の避難やで」と言いたいです。
―SNS を使って災害のときに中高生や若者ができることを、実際にやってみてどう思いますか？
AH さん：確かにデマも多かったけど、SNS、特に Instagram のストーリーを使う人が多くて、文字だけでなく写真や動画を載せることができるので、より被害状況や自分たちの置かれている地域の状況をみんなに発信することができると思います。
―デマや間違った情報と正しい情報を区別するときに気を付けたことはありますか？
AH さん：信憑性がないものは、拡散しないようにしました。（自分で情報を判断していたんですね？）はい。

―「避難するときにあったほうがよかったもの」で「wifi」と書いているのはどうしてですか？

AH さん：発生直後から電波が届かなくて、携帯電話もつながらず、学校や友だちに何の連絡もできなくて。何日も電話もかけられないくらいでした。周りの状況を知る唯一の手段が SNS だったので、全然把握できなくて、友人も大丈夫かなってすごく心配になりました。ニュースでは真備の様子が見れたけど、友人の家の近くがすごく浸かってたりしたので、まだ家に残ってたら大丈夫かなと不安でした。連絡がつながったのは、結構経ってからでした。

災害を経験し、災害看護の道へ進む

―当時は受験生でしたが、どんな支援や応援があるとよかったですか？

AH さん：真備に、グッドネイバーズさんの勉強部屋があって、高校生や中学生も無料で気軽に行けました。被災して、仮設住宅とかで勉強するスペースがない人がいると思うので、そういうスペースがあるといいなと思いました。

AS さん：これがきっかけで災害看護に目覚めて、びっくりしたけど、行くからと自分から言い出したので、すごいやる気になったんだと思います。場所が確保できなくて勉強が大変とか、悪いこともあったけど、本当にやりたいことを見つけるきっかけになったと思います。

AH さん：もともと看護に進もうと思っていて、でも被災したことによって、例えば DMAT さんやボランティアに来ていたナースの方を見て、被災後の心のケアとして看護師とか保健師の方が傾聴に力を入れているのがあって、そういうことができたらいいなと思いました。志望校に入れなかったので災害医療は授業では学べていないけど、災害医療サークルに入ったり、DMAT の学生版の進学先の DMAS（災害医療学生支援チーム）に入って、災害についてより学ぼうと積極的に参加しています。

―投稿用紙を応募して、インタビューを引き受けてくれたのはなぜですか？

AH さん：災害大国になってきているので、これから災害が起きたときに私とかの経験が役に立ったらいいなというのと、もっと多くの人に災害時の SNS を有意義に活用してもらえたらなと思って、受けました。

―記録に残すことについてどう思いますか？

AH さん：災害のサークルや DMAS の中で、経験をもっと発信できたらなと考えています。

―災害を経験したことがない子に、何かメッセージをお願いします。

AH さん：多くの人は、自分には災害が来ないと思っていると思う。私も被災するまではそうだった。海も近くないから何も来ないと思っていた。ハザードマップを見るとか、防災意識が全然なかった。最近、去年の台風とかもあるように、これから温暖化とかの影響で災害が増えてくると思うので、身近なものと考えて、災害に備えたり、災害に向けて自分が今できることは何かをしっかり考えてほしいと思います。例えば、SNS を活用してもいいと思うし、いろんな手段があると思うので、防災意識をこれからはより重視していく必要があるなと思います。高齢者も避難所に多いと思うので、若者が動くべきだと思います。

過去の歴史を知ることは、未来につながること

―最後に一言ずつお願いします。

AS さん：災害が起こって、SNS はガセネタもあるけど、大切さに気付きました。限られた人にしか情報が行かないのは今でもどうかなと思います。今まで近所づきあいがない方も、これをきっかけにお付き合いができたり絆が深まったりしたので、高齢者の方も昔の災害の記憶とかあるので、そういった知恵を、若者の情報とあわせてうまく活用できる時代になっていくといいと思います。

AH さん：過去の歴史を知るのは重要だと思います。東日本の災害ボランティアにも行って、そこでも同じようなことを言われたんです。過去の歴史を知ることは未来にもつながることなので、しっかり自分たちが住んでいる地域の過去の災害記録を知って、これからの将来に SNS を活用したりして発信していくことって大事だと思います。

【「ありがとう」って言われてうれしかった】





インタビュー実施場所：広島県広島市立矢野小学校
インタビュー実施日：2020 年 1 月 14 日
KD さん・りょうさん（小学 5 年生）

めんどくさいけどしょうがない

―西日本豪雨のこと覚えてる？どんなことをしましたか？

りょうさん：家の下の道があふれて川になっとった。近所の家の土を片付けました。スコップを借りて、土砂を袋に入れて、結んで、ほかのところに置く。重かった。お母さんと妹が行っていて、習い事のあと来てって言われたので行ったり、休みの日は一日中ずっと。思った以上に大変だったけど、近所の人がお茶とか出してくれたから、それが応援になった。最後にだいたい片付け終わったときに、「ほんとにありがとね」って言われて、うれしかった。一番大変だったのは、シャベルを入れて、すくい上げるところ。

KD さん：矢野小学校の避難所にお母さんと一緒に行って、いるものをみんなに渡した。服とか T シャツとかタオルとか。学校に行く前だったからお母さんと一緒に行こうと思った。（受け取った人は？）うれしそうだった。「ありがとう」って言われて、やってよかったと思った。3 人でやりました。もともと知り合いではなかった。同じ学校の 3 年生と 1 年生。自分が声をかけてあげたら「いいよ」って手伝ってくれた。（ほかに何かやったことはある？）公民館で、被害にあった人たちに余ったものを分けたりした。ぬいぐるみとかおもちゃとか。子どももいた。小学生やもっと小さい子も。（受け取った子は？）うれしそうだった。

―やったことをお友だちに話した？

りょうさん：幼馴染に言ったら「おれ全然やってないよ」って。みんなやったと思ったけどそうじゃなかったからびっくりした。

KD さん：友だちに話したら、一緒にやろうって言って来てくれた。

―作業のときに気を付けたことはありますか？

りょうさん：暑くても、言われたことだけやって、無我夢中だった。（水分補給は？）した。お母さんがポカリスウェットをいっぱい持ってきとって、それを飲んだ。軍手はした。マスクはしなかったけど、帽子はかぶった。

―普段はお手伝いする？

りょうさん：やれって言われたらやる。（このときは？）普段と同じように、来いって言われたけぇ、めんどくさいけどしょうがないなって。でも、みんなが「ありがとね」とか、めっちゃ言ってくれたけぇ、うれしかった。

次に災害が起こったとき、自分もやろうと思ってくれたら

―体験談を書くのは大変じゃなかった？

KD さん：大変じゃなかった。（思い出して嫌な気分にならなかった？）ならなかった。

―「避難するときや避難所にあったほうがよかったもの」で「ひなん用トロッコ」って書いてくれたのはどうして？

りょうさん：避難所で、そこも被害にあったりしたら、みんなを乗せて次のところに行けるように。

―「ライト、服、薬、歯みがき、スリッパ、食べ物など」って書いてくれたのはどうして？

KD さん：スリッパは、物を置くところがなくて床にいろいろ落ちてたから。歯みがきは、歯ブラシを持ってない人が多かった。

―子どもにとって、あったらよかったものはありますか？

りょうさん：ゲームだったり、お菓子とか。

―西日本豪雨があったとき、一番困ったことは？

りょうさん：友だちと会えない。ほんとの夏休みだったら、前日とかに約束して遊べたのに。

―みんなが経験したことを記録にして残すことって、どう思う？

りょうさん：そのことによって、日本の人みんながそれを見てくれて、あ、じゃぁ今度いつ災害が起こるかわからないから、起こったときに自分も手伝おう、と思ってくれたらいい。

KD さん：みんなが思ったことがわかって、災害が起きたときも、ほかの人がやったことを自分もやろうと思ったら、いいなと思う。

【災害後に、子どもを支える大人ができること】



インタビュー実施場所：広島県広島市
インタビュー実施日：2020 年 1 月 14 日
M.S さん・くまさん
（「災害で生活が変わった子供を支援する会」スタッフ）

阪神・淡路、熊本の経験を広島へ

―活動をはじめたきっかけを教えてください。

くまさん：災害ボランティアとして活動しています。最初は、神戸の震災（阪神・淡路大震災）で間接的に被災して。後輩の家に寝泊まりして仕事に行こうとしたときに被災したのが始まりです。被災してすぐ友だちや知人が神戸にいたので、救出したりしました。ボランティアっていうのにこだわってはいなかったけど、とにかく探そうって。

M.S さん：母方の実家が 2016 年の熊本地震で被災しました。そのときに駆けつけて、半年、一年（熊本に）帰り、できる限りのことをやっていたんですけど、やっぱり風化していく。気持ちとの温度差を感じる。と思っていたとき、目の前の矢野が被災してしまって、何かできることがないかと思って「動こう」という気持ちが強くなりました。避難所でできることはないかということで行って、話をしたりお掃除をしたりを、避難所をたたむときまで続けました。まだハイな状態で、まだ始まってないんだな、っていう思いが強くて、これが時間が経つにつれて昔の生活に戻っていく中で、熊本地震と同じように、心の問題は 3 年、5 年、10 年後のほうがのしかかってくるのではないかと思います。心の二次災害がこれから起こってくると思うので、今からできる何かがあればと思っています。人と人をつなげる、新しい縁をつなげることをやらないといけないなという、今は下準備かなという感じです。

―子ども支援や、子どもたちがしたことについて教えてください。

くまさん：もともと子どもたちとかかわるつもりではなかったんですが、2018 年 10 月に、たまたま知り合った人に手伝ってほしいことがあると言われたんです。（子どもと）遊んであげてということで、イベントに行って、幼稚園くらいの小さい子から小学校高学年くらいの子とおにごっこしたり話し相手になったり、そういったことからかかわり始めました。

M.S さん：娘たちと、避難所でアロマの全身マッサージのボランティアをしました。中高生が声をかけに行くようになって、「あんたがするなら行くわ」となって、利用者が増えていきました。孫に接してくれるような感じでおじいちゃん・おばあちゃんが接してくれたので、子どもたちも行きやすかったみたいです。高校生の男の子は、学校が休みだったので、自転車でリュック背負っておにぎりを持って、率先して仲間たちと土砂かきに行っていました。娘も参加したいというけど、大人側がセーブしていた。何かできないかと思ったとき、避難所に行ってみて、女の子にできることもたくさんあると気づきました。アロママッサージ以外に、運動場に出て子どもたちとシャボン玉したり、水遊びしたり。花火大会、バーベキュー大会、子どもどうしでできる支援をしていました。避難所によって中身も雰囲気もまったく違って、うち（の避難所）は、最後の日まで「楽しかった」と言っていました。かかわる人たちもいろんな人が入ってくれて、「修学旅行みたいじゃった」と。ほかの場所では、いざこざがあったりとか、子どもがいると「ちょっとおとなしくして」と言われた方もいたので、うちは恵まれていたし子どもにとってもいい環境で、いまだに交流もあったりします。

子どもを待つことが難しい

―「72 時間サバイバル」をしたということですが、どのようなものでしょうか？

M.S さん：72 時間サバイバル教育協会のプログラムで、被災したときに命を守るために必要なことを学びました。子どもたちが避難所を開設したりしました。

くまさん：火を起こすとか、水がなかったときどうやって調達するか。ろ過をする方法。助けを求める方法とか。小中学生対象でした。最初はきょとんとしていた。マッチを使ったことがないとか。水道の水やミネラルウォーターがなかったらどうするの。濁った水をろ過して、どんな味がするかなとか、体験してもらって。本当に起こったときに自分がどう動くかというきっかけを学んでもらう。最終的に判断するのはそれぞれなので、一番いい方法を選んで選択してもらうための学びです。子どもたちに考えてもらうのが本来なんですが、なかなか伝わらないのがもどかしいです。

M.S さん：私たちもプロではないので、四苦八苦でした。こうしなさいああしなさいと言っちゃいけない、考えてやらせるところが難しい。答えを言っちゃいけない。見て、どうするか考えるまで待たないといけない。待つのが難しい。でも待つ。さじを投げる子もいます。火を起こせないで「もうやめる」となって一人行動する子も。「なんで入らないの？」「やってみたら？」ということを言い続けることで、何かのきっかけで楽しくなって、立ち直っていける。そこがやっぱり大事なんだなと実感しました。

くまさん：できたって思うと、周りを見始めて、できてない子に教えにいったりするんです。知らない子だけど、こうしたらいいんじゃないかな、こうなんだよというのをどんどん教える。

M.S さん：子どもって、何を考えてるかわからないところもあるけど、大人以上に考えているんだなということを学びました。

SNS で仲間を呼び込む

―災害後も子どもたちを見て感じたことはありますか？

M.S さん：避難所では、大きい子が小さい子の面倒を見る。大学生くらいの子が勉強を教えにくる。大人ではない子どもが子どもに教えるというところが、言わなくてもできていました。子ども自身も何かやらなきゃという気持ちが強いんではないかなと思います。土砂かきのときも、子どもは学校が休みだったので大人と同じようにやっていたり、三輪車に土砂をくんで運んでいた中高生もいたり。

―子どもたちの成長を感じたエピソードはありますか？

M.S さん：「男の子も女の子も矢野地区は危ないから入ってはいけない」と言われていたけど、娘が、土砂かきに行く人はいないかと SNS で発信したんです。一人でも理解してくれる人がいると子どもたち自身が思っていたら、行動に出るんだなと思いました。仲間を呼び込める力が、今の子はすごいなと。SNS の拡散は、子どもにできる一つの行動なのではないかと思います。賛同してくれない人もいるけど、賛同してくれる子が 3 人でも 4 人でも自転車で行こうという気持ちがすごい大事。今後なにかあったときに、やろうってなる子が増えたらと思います。たった一人でいいから、やろうと言って何か行動を起こしてくれるっていうことがすごく大事。子どもだからこそできる、ネットを使って拡散して有志を募るっていうことが、すごく大事なことだと思いました。

―SNS の活用について、どう思いますか？

M.S さん：おじいちゃん・おばあちゃんは（SNS が）ないので、情報が最後までいきわたらなかった。おじいちゃん・おばあちゃんたちも、情報を得ることが必要だと思います。テレビだけでなく、SNS を活用する世の中ができれば。子どもが教えてあげて、もっと隅から隅まで情報が行くようにしたいです。使い方がわからない人に教えてあげる誰かが出てきたり、本人が使い方を知らなくても、知ってる人と仲良くなって、つながっていくのがいい。情報って、いいように使えば武器になる。お年寄りと子どもたちがつながれることがあればいいと思っています。（子どもたちは）災害でゲームができなくなる。昔遊びを教えたいお年寄りと、教えてもらいたい子どもたち、楽しく生活できるのではないかと思います。お手玉を作ったり。

くまさん：（SNS は）助かりますね。被災当時はどこまで入れるかわからなかったけど、（情報を）拡散してくれた子がいます。道路、JR、天気などを、毎朝（Twitter で）つぶやいてくれました。どこかの高いマンションから、写真つきで「矢野ゲートがまだ通れない」とか。

子ども支援をする大人のみなさんへ

―今後同じような災害があったときのために、子どもを支援する大人の方へのメッセージをお願いします。

M.S さん：「躊躇せずにやってみよ」って言えること。大人になればなるほど頭で考えて、できないよねってなってしまう。大人が前に出ていくことで、説明はしなくても、子どもはきっと感じる。あのとき、この人が、こうやっていたということを、きっと覚えてると思うんです。その瞬間に大人がいるのであれば、一人の人間として、前に出ることで、気づかないかもしれないけど、それで大きくなる子どもたちが育っていくんじゃないかなと思います。

【「やっていい、大笑いしていい、騒いでいい」災害後の子どもの居場所づくり】

インタビュー実施場所：広島県広島市
インタビュー実施日：2020 年 1 月 14 日
Ikue さん（「マールこども食堂&寺子屋」スタッフ）



災害後、荒れる子どもたち

―災害後に「こども食堂」を開いたそうですが、いつからですか？

Ikue さん：もともと 2018 年最初くらいから準備しているとき、災害が起きました。自分が仕事に行けなくなって、災害から 1 週間くらいしたときに小学 2 年生の娘がじんましんが出てしまい、会社の上司にどうしたらいいかと思って相談したら、子どものストレスだろう、「炊き出しならできるから、何とかするから行くね」と。そこから具体的に始まりました。7 月 23 日から、毎日はできなかったんですけど、週に 3 ～ 4 回。8 月からは安芸郡坂町でも開始して、合計 20 回以上。時間は 10 時から 16 時。避難所に呼びに行ったり、自分で来れる子も来てくれました。こども食堂&寺子屋で、ご飯のあとは習い事みたいに、手形アートとか、パステルアート、お習字、プログラミングや、ヨガの先生がボランティアで来てくれました。（西日本豪雨のせいで）夏のイベントがなくなってしまったので、少しでも楽しいことができればと思って。

―子どもたちの様子で気づいたことはありますか？

Ikue さん：最初、もうほんとに大荒れ。理由もよくわからなくてやっていました。後から聞いたら、避難所で子どもがにぎやかにすると大人に怒られて、イライラがたまっていた子もいれば、学校とか遊びに行けていなくて、発散するところがなくて、子どもどうしがぶつかっていたり。こども食堂はお昼でした。食べるものは、資金がないので物資をいただかないと。呼びかけたときに、広島なので「オタフクソース」の会社がお好み焼きを作るセットを 200 食分くらい提供してくれたんです。初日は、お好み焼き。ほかには地域の方からいただくもので、夏野菜でカレーとか、管理栄養士がいるので、グラタンにしたり、生姜焼きにしたりしていました。避難所に迎えに行ったりしたので、来てくれた子たちは（普段は）お弁当とかコンビニのものが多くて、子どもから「あったかいものが食べられるのがうれしかった」という声を聞きました。来ていた子は、幼稚園児から小学校 6 年生くらい。最初は 15 人とか。だんだん口コミで増えていきました。期間は 1 ヶ月くらいでした。矢野は小学校が早く始まったので、最後が 8 月 25 日。坂町は 9 月から学校だったので、学校が始まる前の 31 日まで。坂町が最大 100 人くらい、矢野は 60 人くらい来ました。

―子どもたちの様子は、1 ヶ月後は違いましたか？

Ikue さん：全然違いました。最初はびくびくしながら来る子もいたし、いいよって言われて来たけど、不安があった子も。ケンカしたり、暴言を言う子もいました。1 ヶ月後には、上下関係もいい具合にできてたり、友だち関係も。大人の手伝いもしてくれるようになって。すごいやんちゃだった子が、餃子を包んでたり、野菜を切ってたり、大人が大変そうなのを見て水を配ってくれたりしました。4 年生の男の子が、荷物を「重いんじゃろ」とかって持ってくれたり。（その子は）一番手がかかって、最初は怒ったりもしたんですけど、頭ごなしに言ってるんじゃないのが伝わったんだろうなと思います。みんながやりたい空間ができなくなるのが困るから協力してというのが伝わったんじゃないかな。びくびくしてた女の子も、ここは自分の居場所なんだっていうのがだんだん出てきて、静かにしてるけど自分のことをしたり、小さい子の面倒を見てくれたり。質問や、こういうことがしたいという声が自分たちから出てきたんです。「私たちも手伝いたい」「あっちの部屋行っていい？」とか。そういう言葉さえ最初は出てこなかったので、全部こっちから聞いて、でもあまり話してくれない。意見が出てきたのもうれしかったです。

―ボランティアはどんな方でしたか？

Ikue さん：女性で活動ができるところがほかになくて、（できることを）探していて来てくれた人もいます。炎天下で土砂かきは無理。でも何かしたいのに動けないと悩んでいる方が、子どもと遊ぶならできる、ご飯を作るならできると。やりがいを見いだせたみたいな感じで、（機会を）作ってくれてありがとうと言われて、こっちは、手伝ってくれてありがとう。8、9 割が女性でした。男性は、家庭教師とか、勉強を教えたいとか。

―なぜ、こども食堂を始めたのですか？

Ikue さん：自分の子に災害のストレスでじんましんが出て、ほかの子どもたちはすごい元気でエネルギーありあまっていて、このままでは親が倒れるよね、どこか遊ばせるところないかな。となって、居場所を作りたいなと。自分が倒れないように、必死でした。体力と気力が必要。でも、それがなかったら、抜け殻のようになっていたと思います。何もできない 1 週間がつらかった。子どもたち小さいし何もできないというのが、苦しかったです。大変だったけど、目の前にやるべきことがあるのは、すごく救われました。大変でしたけど。

「まぁ来んさい、遊ぼうや」

―災害後の子どもたちの遊びについて教えてください。

Ikue さん：子どもメインのことをやってあげるだけで、うれしそうでした。大人の手伝いもいいけど、思いっきり笑っていい遊んでいい。ただウノとか。やっていい、大笑いしていい、騒いでいい、の場所を作ってあげるのは、表情を見てよかったと思います。災害直後は、大人が必死で、みんな暗いじゃないですか。犠牲になった方を探していたりすると、危ないし、連れて歩けない。（こども食堂に来た子たちを）公園に連れていくことがあって、道中からめっちゃ楽しそうでした。普段ならなんでもない公園に 15 人くらいで行ったんですけど、竹とんぼ 3 つくらいとブランコだけでも、すごい楽しんでいました。熱中症が危ないから、最初は行かせられなかったんですけど、屋内も暑くて。助けてくれるボランティアさんがそろったときに行きました。これだけでこんなに喜んで、いきいきして、表情が違うんだなと。安全な道のりと安全な公園を探してあげて、短時間でも今日はそこに行けるというだけで、その時間までいい子に待ってくれたり。

―災害によって子どもの遊び場がなくなったのですね。

Ikue さん：大きな公園は、ほぼ土砂が置いてあったり。児童館も被災しました。遊戯室に土砂が入って、半月くらいたって再開はしたんですけど、学校の教室を借りての再開でした。遊戯室でドッチボールしたりがあるとないとで全然違います。校庭で遊ぶこともできなかったし、学校が被災したのは大きいです。そこに行けば友だちに会えたりとかできてたのがそれもできなくなって。大きい子たちもストレスがたまると思います。

―子どもたちと接するときに気をつけていたことはありますか？

Ikue さん：ただの近所のおばちゃんであろうと思いました。家の状況とかわからないし、名前とか住所も全部書きたくない子もいるかと思って、対応の仕方も知らないし、被災してたらどう声をかけるのか、お母さん無事なのかな、とかわからない。何も知らないけど、「まぁ来んさい、遊ぼうや」と、全員にフラットにしていました。（被災の状況について）「大丈夫だった？」とか聞かなかったです。そうするしかなかった。悪いことしたら怒るし、いいことしたら褒めるし、みんなで遊ぶときは遊ぶ。

―その後、こども食堂に来ていた子たちと小学校で会ったりしますか？

Ikue さん：みんなすごい同級生みたいに声をかけてくれます。「次いつあるん？」「またやらんの？」とか。（楽しかったんですね。）そうでしょうね。

【水害のあと、児童館があってよかった】

インタビュー実施場所：愛媛県大洲市喜多児童館
インタビュー実施日：2019 年 12 月 26 日
TI さん（小学 3 年生）、U さん（児童館館長）



大変そうだった館長先生をお手伝い

―西日本豪雨のときのことを教えてください。
TI さん：児童館のまわりに結構水がたまってた。おうちや、まわりのおうちは大丈夫だったけど、お友だちは被害があったところもある。玄関まで浸かったところがあった。
―どこか水害があったところは見に行きましたか？
TI さん：五郎橋を見に行った。氾濫した。すごかった。
―西日本豪雨のあと、児童館でお手伝いしたことを教えてください。
TI さん：服を並べたり、鉛筆とか消しゴムを仕分けました。お友だちと 4 ～ 5 人で。
U さん：HB と 2B と B とか混ざってたのを、分けてもらいました。70 本くらい。
―なんでやろうと思いましたか？
TI さん：館長先生が大変そうだったから。
―どのくらいお手伝いをしましたか？ほかに何かお手伝いしたことは？
TI さん：5 回くらい。ほかには本並べや、乗り物をきれいにした。
U さん：乗り物をしまっている部屋があって、ミニカーとか。それを並べてもらいました。



―大変だった？どんな気持ちでしたか？
TI さん：大変じゃなかった。西日本豪雨で（文房具などが）流された人にどうぞと配られた。お勉強できなくなった子たちができるようになったから、いい気持ち。
―たくさんの子が取りに来ましたか？
U さん：早かったです。中学生も取りに来たし。特に、鉛筆削り。鉛筆をもらっても鉛筆削りがないと困る。あっという間でした。
―ほかにあったらよかったものはありますか？
TI さん：ものさし。
U さん：ものさしがない人もいたので。
―全部なくなってしまいますものね。文房具いろいろあると役に立ちそうですね。

水害にあった人の大変さを伝えたい

―投稿用紙に「ありがとう」と言われたとあるけど、言ってくれたのは？
TI さん：「ありがとう」と言ってくれたのは館長先生。
―ほかの人に伝えたいことを教えてください。
TI さん：水害にあった人はこんなに大変だということ。
―小学生が災害にあったときに、何かできることはあるかな？
TI さん：家の手伝いならできると思う。服とかをカバンに入れて避難することとか。

児童館は、自由に遊べる楽しい場所

―児童館はいつも来てる？何をして遊ぶのが好き？
TI さん：結構来てる。お友だちと来て、キッカーとか卓球とかやってます。一人で来ることもある。
―西日本豪雨のあと、児童館で遊べてよかった？
TI さん：よかった。おうちだったらすることがなかった。
―児童館はどんな場所ですか？一番いいところは？
TI さん：あったら楽しい場所。自由に遊べるし先生が優しい。遊ぶところがない人にいいし、いろんなことができる。

【つらかったっていう事実を伝えたい】



インタビュー実施場所：愛媛県大洲市喜多児童館
インタビュー実施日：2019 年 12 月 26 日
YM さん（中学 1 年生）

水は急に来る

―西日本豪雨のときのことを教えてください。
YM さん：（7 月 6 日に）「やばいんじゃない、明日も降る感じやけん」と、お母さんと妹が先に徳森のおばあちゃんちに避難しました。私とお父さんは様子を見てました。洗濯機が流れていたり、駐車場の屋根の上に犬がいた。道に降りたあと 20 分くらいしたら水が来てたので、通れなくて、お父さんにおんぶしてもらって歩いて。しばらくして水が引いてきたときに、お父さんが浸かりかけている家に入って行って、「これはショックを受けるけん入らない方がいいんじゃない」と言われた。おばあちゃんちに帰るときに、水が増えてて帰れなくなりました。しばらく待って、水が引いたので帰りました。友だちは 2 階に残っていて「やばい」言いよったけど、ボートに乗って助けられました。
―　一番驚いたことは何ですか？
YM さん：浸かっている家を見て、うわーっと思いました。家のガラスが割れてぼろぼろになってたり、ソファーが違う位置にいっていたり。おばあちゃんちから車で学校に通ったので、お友だちにも心配されました。
―そのときのことを振り返ると、どうですか？
YMさん：よくあの（雨の）中、遊び半分で見に行こうと思ったな。今だったら、おばあちゃんちでゆっくりしておこうと思う。行かないなぁ。
―水は急に来るから？
YM さん：はい。かなり。

きれいにならないけど、泥水が少しでもなくなればいいな

―西日本豪雨のあと、どんなことをしましたか？
YM さん：家のお掃除を手伝いました。泥水をブラシでガシャガシャ出していきました。大変でした。かなりかかりました。今年の 1 月くらいにやっとおうちに帰りました。（当時は）暑かった。たまにアイスを買いに行って、休憩しながら。ぞうきんで床を拭いたり、ブラシでやってもずーっと泥水が出てくる。きれいにならないけど、泥水が少しでもなくなればいいなと思いました。階段とか拭きよっても、「汚いけん、もういいんじゃない？業者さんが来たら直してもらうからもういいわい」と（親に）言われた。でも「きれいにしておいた方がいいんじゃないか」と思ってお手伝いしました。
―なんでお手伝いしようと思いましたか？
YM さん：妹が小さくてあまり手伝わなくて、お父さんとお母さんのほかに人がいなかったから手伝いました。
―お父さん、お母さんの様子を見てどう感じましたか？
YM さん：がんばりよるなぁと。
―おうちの人は何か言ってましたか？
YM さん：「いつもとは全然違うね」と言われました。いつもは寝てるのに、お手伝いしよったけん、珍しいって。「こういう機会は全然ないから人生に一度の経験なんじゃない？」ってお父さんに言われて、やりました。今だったらもうやらないかも。自然ってすごいなと思いました。

子どもにもわかりやすい情報を

―災害のときに準備しておいたほうがよかったものはありますか？
YM さん：「できるだけ上にあげとってー」って言われた。ソファーの上では意味がなかったから、とりあえず 2 階に全部上げとったらよかった。エアコンのちょっと下くらいまで水が来ていたので。
―大きな災害のあと子どもたちは心が傷つくと心配している大人もいますが、どうですか？
YM さん：小さい子が見たら、（傷つくというより）湖みたいで「うわーおもしろい」ってなると思う。先生から「心、大丈夫？」と聞かれたけど、別にそんな大丈夫なのになと。災害にあった人一人ひとりに聞きよったけん。「なんて言われた？」って友だちに聞いたら、「心、大丈夫？って聞かれて、別になんもないですって答えた」って。

―そういうときに、先生からはなんて声を掛けてほしかった？

YM さん：「ほしいものはある？」って聞いてほしかった。嵐の袋に入った掃除道具をもらって、「掃除道具かぁ（残念）」って思いました。お菓子とかだったらよかった。袋はかっこよかったので、今でも使ってます。友だちは、現金がほしいって言っていた。いろいろ買えるのになって。アニメのフィギュアが浸かって、洗ってました。

―大事なものが浸かるとつらいね。

YM さん：はい。

―避難に関する情報で知りたかったことはありますか？

YM さん：ダムの放流が、いつどのタイミングで来るのかわかってたらよかった。

―子どもにわかりやすい情報ではなかった？

YM さん：あんまりわかりませんでした。

―知りたいって思う？

YM さん：はい。

―災害のことや子どもたちのしたことを記録に残すことについて、どう思いますか？

YM さん：みんなの意見とか見れるのですごくいいと思います。災害を受けてない人も、うわぁこんな感じやったんやなぁってわかる。

― 一番伝えたいことは何ですか？

YM さん：つらかったっていう事実です。

―災害にあったことがない人に伝えたいことはありますか？

YM さん：とにかく準備をしとったら一番大事なものは守れるんじゃないかなと。一番大事な物は手に持って逃げて、ほかのものはなるべく高いところにあげとったら助かるんじゃないかなと。（自分は避難するとき）あんまり持って行かなかったから、そう思う。もし災害にあったら、とにかく早めに避難したほうがいい。大事なものを持って。

【災害時に子どもが遊べる場の大切さ】



インタビュー実施場所：愛媛県大洲市喜多児童館
インタビュー実施日：2019 年 12 月 26 日
U さん（児童館館長）、M さん（児童館職員）

ここに来れば「普通」に遊べる

―西日本豪雨のときのことを教えてください。

U さん：7 月 5 日（木）は雨の降りが強いので、（乳幼児と母親の）クラブに早めの帰宅を促しました。小学校も集団下校。7 月 6 日（金）も警報が出て、終日休館。クラブも休止でした。7 月 7 日（土）、朝から避難指示が出ていて、放送もすごかった。でも、市役所からの指示はないし、（児童館に勤務はしていたけど）どうすればいいかわからなかった。

M さん：朝の段階で、家のまわりは氾濫手前。出てしまうと帰れないかもしれない状況でした。

U さん：市役所から連絡があって、喜多児童館は避難場所になっていないので、自宅待機の指示があったのですが、その前からこれはちょっとおかしい、ひどいことになりそうと思って、残っていた職員と一緒におにぎりを作り、（児童館近くの）消防団に差し入れしました。みんな何も食べてないし、買えない、家にも帰れないという状況でした。結局その日に市内が浸水して、夕方には児童館の前の駐車場が湖状態。国道も浸かっている状態でした。児童館は少し上にあがっていたので浸かりませんでした。7 月 8 日（日）、この日も警報のため休館。大変なことになっているのが、ニュースや SNS でわかりました。徳森児童センターが浸水し、断水もしているということだったので、館内で備蓄していた飲料水と職員が家から持ってきたものを、夫のトラックで持参しました。喜多児童館は何の被害もなく、ライフラインも大丈夫だったので、できることをまずしようと。7 月 9 日（月）、クラブもあったけど休止。炊き出しをして近所の方の安否確認。ほかの地区の公民館もライフラインが不十分だったので、炊き出しを民生委員つながりで持って行きました。7 月 10 日（火）は通常は閉館日なんですけど、（大人が）家を片付ける、周りを片付けるとしても、エアコンも使えない、水もないっていう状況で、子どもたちの行き場がないんじゃないかということで、市の子育て支援課と協議して、いいことだということで開館しました。大洲児童館とうち（喜多児童館）は臨時開館しますと市内に防災無線で呼びかけを行い、10 日（火）は 46 名、11 日（水）は 36 名、喜多小学校も休校していて、12 日（木）が 113 名、小学生が中心に来ました。13 日（金）が 130 名、14（土）が 87 名、それから少しずつ減っていくんですが、かなりの人数が来ていました。市内の学校の再開状況は地域によってそれぞれでした。

―子どもたちの様子はいかがでしたか。

U さん：中学校のサブバッグが流された子がおって、ランドセルなどもない子がいっぱいで、学校で使う制服や体操服などに限って、児童館に集めて配布すると LINE で拡散してもらったんです。ランドセルは必要以上に集まったのですぐストップをかけて、その後、制服、体操服はよく取りに来た。また、学用品を持って来てくださったボランティアの方もいらっしゃって、そういうものを配布しました。配布は 7 月 11 日から始めました。洗濯して使ってくださいと言っても、家でできないだろうから、ここで洗濯して、サイズを書いて袋に入れて、持って帰ってもらえるように対応した。行き場がない子が多くて、130 名来た日は、遊ぶものが足りない、場所がないくらいでした。食べてないんやろな、飲んでないんやろなという子もいて、お水を配布したり、いろんな方が差し入れをしてくださったので、それを食べたり、友だちと遊んだりおやつを食べたりして、普通の生活をしてもらう、そういう場を作るようにしていました。

―なぜそういったことをしようと思いましたか？

U さん：自分も、家は大丈夫だったけど、いろんな方の声を聞いとったし、子どもたちを見ていて、いつもと変わらないように見えるけど、なぜか今日はおおちゃく言わないな、とか、構えていたりとか、こっちの様子を伺ってるなということもあったり、何か子どもたちなりに感じてることがあるんやろうなと思ったし、普段来ないような子たちが大勢来たので、どう受け入れるか考えたときに、家に帰ったら被害にあったり普段と違ってくるけど、ここに来とるときには、普通に友だちと遊んで騒いでができるような、当たり前の普通の環境を作りたかったのが一番ですね。みんなで食べたらおいしいねー、とか、そういうところから助け合う心とか、みんなでがんばれる力も生まれてくると思うので。

―子どもたちの様子を見て気づいたことはありますか？

M さん：児童館にいる間は、落ち込んでいるような感じもないんですけど、子どもたちというより、お母さんたちがすごく感謝している姿が印象的でした。お迎えのとき、ジャージ姿でボロボロなんですけど、「ありがとうございましたー」って。子どもたちは、おにぎりも喜んで食べてたし、普段遊びに来たときにあげても「いらん」っていう子とかおったけど、そのときはみなさん食べていました。

U さん：保護者の方には、「涼しくて、安全に友だちと過ごせる場所があってよかった」と言ってもらえました。（水害で片付けが大変ななか）子どもが家におるとおらんで全然違うと。

M さん：しかも暑かったし、外はホコリがすごかった。マスクをして出ましょうと言われてた。

―児童館に来た子が何かお手伝いをしてくれましたか？

U さん：集めた学用品を分別してくれました。「分けてくれん？」って言ったら「いいよー」と言って手伝ってくれた子がいたり、「これ運んで」とかって言ったら運んでくれるし、子どもたちも何かしたいけど何をしていいのかがわからないような感じでした。トラブルが人数の割に少なかった。

M さん：物資を広げて置いていても、「なに～？」って開けちゃう子もいない。ちゃんと状況をわかってるのかな。

普段のつながりが、災害時に活きる

―近くで児童館が被災したとき、被災していない児童館の動きは大事だと思いますが、ほかの児童館の方に伝えたいことはありますか？

U さん：普段どれだけお互いかかわりをもっているか。児童館どうしもだし、スムーズに動くには、ほかの関係機関とも普段から連携とっていないと。遠慮するところもあるじゃないですか。でもそれが、気兼ねなく言える関係が大事だと思うんです。私たちも、徳森児童センターの状況が大変だと思ったし、大洲児童館も保育所の受け入れが始まって、その大変さもあって、喜多児童館だけ通常に動ける。じゃぁ私たちにできることはなんだろうって考えたときに、「そっちはどう？」「何が必要？」とかって聞きやすい関係作りが一番かなと思います。

―子どもたちが日常を取り戻すことの大切さをどういうところから感じましたか？

U さん：普段は、1 人 2 人と少人数で来てる子が多い。そのときは、グループの人数が大きかったような気がします。いつもは 2 人で遊ばないとトラブルになったり。でも、グループで一緒に遊んで、子どもたちなりに誰かとつながる心地よさ、

安心感とか、みんなと一緒にいるのがいいなと感じ取ったんやないかなと思います。水害が落ち着いてきたら、それが元に戻る。子どもたちなりにいろんなことを感じて。会話が多かったような気がします。普段だったら無言でゲームしているところ、言葉のやりとりが多かった気がします。

―日常に戻ったのはいつごろでしたか？

Uさん：人数は、水害が落ち着いて３ヶ月くらいしてから。寒い時期、がくっと減りました。家が落ち着いたのかなと感じました。今年の春になって、（来る子の人数は）落ち込んでいる。少ないです。引っ越しした方もいるやろうし。

―児童館に来た子の年齢はどれくらいですか？

Uさん：親子連れはあまりいなかった。小さい子を連れて来るのは大変だったというのもあると思う。家が浸かってしまった方は子どもを実家に連れて行っていたり。（児童館に）来るのは、小学校低学年から中学年くらいまで。年齢の高い子は来なかった。家で手伝いか。中学生は、必要な物資を取りに来る子はいた。持ってきてくれたりとか。あと、中学生は町で災害ボランティアをしていた。体操服を着てグループで活動していたのを見かけました。

支援を人につなげるために、どう記録するか

Uさん：あとになって気付くこととか、ああすればよかったということがすごくあるので、それを振り返ったときに、記録に残すことは大事だし、書きやすい様式があればいいと思いますね。例えば、物資を渡すときに「こういうものがほしい」と言われたときに、それを書き留めておいて、次に来るときに、どこかから取り寄せられるのであれば、取りに来てもらったらあるからねと知らせてあげられる。「何に困っているか」を、自分のところで対処できないのであれば、どこにつなげればいいかわかるもの。私たちができることは限りがある。立場も、機能も。一人ひとりニーズも違う。この人に必要なもの、人はどこなのか、適切につなげてあげないと問題は解決しないと思う。むこうから言ってくれないと、こっちにも踏み込む余裕がなかったなと。何ヵ月かしてから、ランドセルを取りに来た方が何人かいました。水害直後は取りに来れなかった。制服も、衣替えの時期に余ってないかって。SNS の LINE で拡散していたのを見て、残ってるかなって取りに来た。SNS は有効だったが、書き方をしっかりしないと大変。

Mさん：「ランドセルいります」って発信して、「もういりません」っていうことまでまわしてもらわないと、集まりすぎた。

児童館だからできたこと

―災害直後から児童館を開けたことで、何か気づいたことはありますか？

Uさん：小さい子を抱えたお母さんたちも、しばらくしたら遊び場がないと困っていました。公園も浸かってダメになって。（子どもたちの遊び場は）ないと絶対だめだと思う。児童館は、親子で安心できる場所になるし、ちょっとでもここで発散して帰ってくれたら、家できっと出さなくていい。「何も考えられなかったけど、子どもがここへ来てお友だちとおやつを食べて楽しかったと聞いて、涙が出ました」っていうお母さんもいた。子どもが元気で笑顔でおるっていうことが、災害時でもやっぱり周りの大人にとって一番の力になるんかなと思いますね。

―最後に一言ずつお願いします。

Mさん：何かしたいと思っている人はたくさんいるけど、何をしたらいいかわからないと思う。つながりを大事にできることが児童館かな。災害のときにも役に立つと思います。

Uさん：児童館に勤めるまで、児童館は子どもが好きな時間に遊んで帰る、難しい仕事でないと思っていたけど、働かせてもらって、まして災害が起こったときに、すごく動きやすい機能を持ったことろだと感じました。保育所とか決まった施設だとここまで動けてない。児童館だからできたことだと思っている。もっと児童館のよさとか、機能をアピールしていきたい。私たち職員は、いろいろな資格を持っている。保育士、社会福祉士、教員の資格を持っていたり。各々の専門の分野でつながりがあると思うし、そういうことを活かして、児童館の認知を高めたいと思うし、災害で価値観が変わった人が多いと思う。農家、商店、いろんな方々も、ものの見方がかわった。そこから、いろんなことを考えるようになった。災害は、何もかも一瞬で持って行ってしまったひどさもあるんですけど、それがあったからこそ、わかったこともあるし、考えんといけんのじゃないのと思わされることでもあったと思うんです。子どもだって、これだけいろんなことを感じたりとか、子どもなりに考えているのに、大人がこんなんでいいのかとか。大人も災害を体験して、いろんなことを考えた方が多くて、動き出した方もいらっしゃったと思うので、災いだけではなかったのかな。そこから芽吹いてきたものもあるので、それがいいように育つように、児童館もその役割をしっかり果たしていかなければいけないかなと考えています。

―子どもの見方がかわったと気づいたきっかけは何ですか？

Uさん：洗濯一つにしても不自由があったと思うんです。子どもたちなりに考えて、水をあまり使うなと言ったり、うちは水害に遭って大変だから貧乏になると言っていた子もいたけど、でも明るい。動くなとかじゃなくて、子どもはおとなしいだけじゃだめだし、せっかく子どもたちの中に芽生えた気持ちを何かの形にしてあげられるのは大人だと思う。手助けしてあげられるのが大人。やれることでもいいし、ちょっとした時間、30 分でも 15 分でも何かを手伝ってくれて、「ありがとう」といったときに、子どもたちも達成感があるだろうし、自分たちも必要とされていると思うと思う。余裕がない中でも、「ありがとう」「助かった」「うれしかった」とか、そういう言葉があれば、子どもたちは大人が少しくらい邪険にしても、もしかしたらこうなんじゃないかなと子どもたちなりに察する力は持っていると思うので、いつもじゃなくても、余裕ができたときでもいいけど、「あのときはありがとうね」と言ってもらえたら違うんじゃないかなと思います。

Mさん：（お手伝いをしてくれた）TI 君、人のためになろうと意気込んでいたわけじゃないけど、（インタビューを受けるのを）すごく誇らしいと思います。（お手伝いを）したから今日があるし、人にも伝えると思うし、周りの大人が彼の経験を華やかにしていくことができると思う。声かけとか、そのあとのことも大切。これがきっかけで、これからも動こうってなるかもしれない。

■近隣で被害のあった徳森児童センターでも、子どもたちの様子や児童館どうしの連携についてお話を伺いました。

迫られた現場の判断





―どんな状況でしたか？

ここは、床上 20 ～ 25cm の浸水でした。前日から雨がすごくて、警報が出て休館になりました。避難指示が出て、子育て支援課から連絡が入りました。大洲市のほかの児童館は職員を帰らせるが、児童センターは避難場所になっているから残ってくれと。職員が 3 人残りました。ここは、土砂災害の警戒区域になっているのに避難場所なので、日頃から気にはなっていました。この日は、土砂崩れも心配やし、音に気を付けんといけんよねと。（普段と違う）地鳴りとか。避難してきた人が 2 組、3 組くらいいて、問い合わせもありました。市役所に指示を仰ごうと思って連絡しても、ぜんぜんつながらなくて。座布団やマットなど、あるだけ 2 階の遊戯室に並べて避難して来られてもいいように準備をしました。とにかく水が早かった。

―しばらく休館していたそうですが、どれくらいの期間でしたか？

保育所が浸かったところがあり、子育て支援課はそっちが優先。近所の保護者の方とか、家族が片付けに来てくれて、男手が集まったんです。畳も絨毯もおもちゃもロッカーも全部外に出す。水を含んでいるから重くて、女 3 人ではどうにもできない。本当に助けてもらいました。結局、6 週間休館しました。子育て支援課からは子どもたちの遊び場所がないといけないから開けてくれと言われたけど、水が出ない。遊ばせるだけなら 2 階でできないことはないけど、トイレが使えない。この場所で、今できることをしようと、片付けと並行して支援物資の提供を始めました。友だちや他県に住む家族と連絡を取り合って、たくさん集まりました。

―子どもたちはどんな様子でしたか？

小学生に限っては、休館の間このへんにおらんのですよ。隣の公園も消毒するまでは使えないんで。消毒も民家が先だからなかなか来てもらえない。遊ぶ場所がない。子ども一人通らんくて、みんなどこにおるんかなと職員間で話していました。あとから子どもたちに聞いたら、自分の家の周りでしか遊べなかったと。友だちのおうちが被災してると迷惑がかかるから、保護者は遊びに行かせないようにしていたそうです。洋服が汚れたら洗濯もできないから、出歩かないでと。物資を取りに来るとき、子どもたちが来ることはちょっとありました。8 月の中旬に再開して、行事をしたら、大勢来てくれた。ほかの児童館に遊びに行っていた人もおるけど、ここが一番近くてどこにも行ってなかった、再開を待っていた、という乳幼児の親もいました。子どもたちも、公園に仮設住宅が建ったりして遊べるところがなかったから、児童館が再開して喜んでいました。

―児童館どうしの連携について、どんなことがありましたか？

初日に喜多児童館の館長が、カレーを持って来てくれました。片付けのことで精一杯で昼食のことなんか考えてなかったので、素早い支援がとても有難かった。大洲児童館や市外の児童館からも職員が片付けに来てくれたり、消毒液や軍手・雑巾なども届けてもらった。みなさんに助けていただいてほんとに助かりました。



インタビュー実施場所：兵庫県立舞子高等学校
インタビュー実施日：2019 年 12 月 19 日

高校 2 年生・3 年生・卒業生、
計 16 人（4 グループ）にインタビューを行いました。

【次は自分に起こるかもしれない】



さきさん・さくさん（高校 2 年生環境防災科）
トムヤムクンさん（以下､トムさん）・ようせいさん（高校 3 年生環境防災科）

行ってみてわかったこと

―西日本豪雨のあとしたこと、印象に残ったことを教えてください。
トムさん：11 月に、真備陵南高校と交流させてもらって、その高校の生徒と一緒に花壇に花を植えたり、ワークショップをしました。現地の高校生が､気を落としてしゅんとしているんじゃないかと思ったけど､むしろ活発にずっと動き回っていました。
ようせいさん：バスで見ていて、どういう子がいるのかな、気を落としているのかなと思っていたけど、プレハブの校舎でも元気な声が聞こえたりして、すごいなって思いました。
さきさん：初めて被災地に行ったので、怖いなという印象だったけど、行ってみたら、そんなことは全然なくて、真備陵南高校の人もすごく優しく話してくれたり、たわいもない話をたくさんして、すごく楽しかったです。
さくさん：未だにきれいじゃないところもあったんですけど、すごく明るく話しかけてくれて、今でも SNS でつながってしゃべったりとかしています。

募金で嫌な思いをしたこと

―今まで活動したなかで、嫌な思いをしたことはありますか？
さくさん：1 年生の頃､募金活動をしていて､「お願いします」って言ったら､高齢者の方に「小遣いかせぎでやってるんだろ」と言われたことがあって印象的でした。どうすればいいかわからなくて、募金活動に行きづらいなと思ったんですけど、そういうことも意識して行かないといけないんだなと思いました。募金の見方ってどう変えられるんだろうって、どうすればいいんだろうっていう考え方になりました。今までは、自分には募金っていいイメージしかなくて、ほかの人からしたら悪い印象もあると気付かされて、募金は悪い見方もあると思うんですけど、どうにか募金はいいことだよって伝えていきたいです。環境防災科に入って、こういう人もいるんだなという経験が多くて、自分が嫌だと拒否せずに寄り添うことって大事なのかなと思います。いろんな人がいるんだなという感じです。

SNS でできる支援

―何か活動したいと思ってもすることができなかった子もいました。
トムさん：最近の子だと SNS とか Twitter でも簡単に発信できるので、ハッシュタグとかつけて、ツイートしてあげるとか、こういうことが困ってるそうですとか、あとはコンビニの募金箱とかだったら、おつりを入れたりすることができると思います。
ようせいさん： SNS とかネットを使ったりすることで活動にも参加できると思います。
―SNS で情報を拡散するときに気を付けることは何かありますか？
ようせいさん：誤った情報を送るのは一番だめだと思うんで、他人から聞いたことじゃなくて、ちゃんと自分で調べたりして、確実性を高めていくことが大切だと思います。
さきさん：LINE ポイントとかでも（寄付を）受け付けているので、顔を出さなくてもいけると思うから、気軽に入れてもらえばいいんじゃないかと思います。
―小学生でも何かできることがあると思いますか？
さくさん：私たちだったら､校内募金がしたいって思ったときに､仲間を集めて､先生に伝えた。それで校内募金ができたから､そういうこともしていいんじゃないかと思います。

奪われる子どもの居場所

―こういうものがあったほうがいいとか、こういう支援があったほうがいいということはありますか？
さくさん：水害で制服を流されて、制服が届くのに時間がかかって大変だと聞きました。制服は必要だと思いました。
さきさん：自分が被災したら、居場所が欲しい。ゴミがグラウンドに集められて外で生活することもできないし、体育館も使えなくて、教室の一部しか使えないから。一番いいのは室内だけど居場所がない。そうするとグラウンドで過ごすしかないじゃないですか。でも、水害でゴミがすごかったから、グラウンドも全然使えない。

読んだ人が動くきっかけとしての記録

―災害のことや子どもたちの活動を記録に残すことについてどう思いますか？
さきさん：同じような災害があったときに同じことが起きてしまうかもしれないから、記録に残したほうがいいと思います。次に起きたときに役に立つと思う。こういうときに何が足りなかったから、何が必要か、みたいな感じで。
ようせいさん：記録することで、今までこういう活動をしていない人が、自分も参加していいのかと思ったときに、僕たちのように活動してきた人のことを見て、自分も参加したいと思ってくれて、人が動くことも考えられると思ったら、とてもいいと思います。
さくさん：他人ごとじゃないと気付けることがあると思ったので、いいなと思います。子どもでもできるんだっていう、自信が持てると思う。自分もやっていいんだなと。

子どもから学んで、視野を広げる

―最後に一言ずつお願いします。
ようせいさん：防災は、数学とか国語と違って、生きていくうえで自分の命を守るうえでとても大切なものだと思うので、テレビで被災地の映像とかを見て他人ごとだと思っている人も、生で見たら感じ方も変わることもあるし、思うところもあると思うから、こういう被災の後の活動とか防災に積極的に取り組んでいくべきだと思います。
さくさん：環境防災科に入って一番感じたことは、テレビで見たことと、自分で見たことで差があるっていうこと。自分が動いてやることって大切なんだなと思ったし、人の意見とか、メディアの報道で固定概念ができてしまう。そういうのをできるだけ減らして、自分がもしこの立場だったらどうだろう、っていうのを深く考えるのも大事だと思いました。
さきさん：他人ごとでないのが一番。他人ごとだと思っていた人が災害にあって亡くなってしまうことがあるという話を聞いたので、災害がたくさんあるので、自分のところでは起きないとかではなくて、次は自分に起こるかもしれないって考えて、少しでもみんなに防災意識を持ってもらって、災害とかで大切な命を失くしてしまう人を減らしていければいいなと思うし、自分たちの力で何ができるかっていうのを、どんどん考えていかないといけないんじゃないかと思います。身近な子に災害のことを伝えたりとかして広めていってもらうのもそうだし、SNS を使って広めていくのも手。自分たちにいろんな方法があるから、その方法を使って広めていきたいです。
トムさん：環境防災科の授業で小さい子とかかわって、元気だなとか、自分が忘れかけていたこととか、昔もこんなんだったのかなとか、小さい子から学んだことも多くて、たまには振り返ってみて、周りのことを視野を広げて見てみようと思ったりしたほうが、見えてなかったことも見えてくると思います。

【仲間をつくって一歩踏み出す】



ゆうきさん（高校 2 年生普通科）、KH さん・HM さん（高校 3 年生普通科）、礒田敬大さん（仮名）（以下、敬大さん）・ももかさん（高校 3 年生環境防災科）

被災地を訪れて感じたこと

―西日本豪雨のあとしたこと、印象に残ったことを教えてください。

ゆうきさん：学校でボランティアの募集があったので、何かできることがないかなと思っていたので、参加することにしました。現地に行って、家の中で、がれきや使えなくなった家具とかがいっぱい散乱していたものを外に運び出すという作業を、学校で行ったみんなでやりました。僕自身、大きな災害にあったことがないので、被災地を見るのは初めてでした。テレビ越しに見る被災地だったら、客観的に見てるから「やばいな」とか「ひどいな」というイメージだったんですが、実際行って見て、目の前にそういう光景があると、すごく心が痛むところがありました。

敬大さん：災害直後ではなくて、11 月に真備陵南高校との交流活動に参加しました。バスで行って、花を植える手伝いをして、プランターに花を植えてそれを役所の前に置いたり、先生にどういう感じだったか教えてもらいました。泥かきとは違う、交流がメインの活動でした。半年たってない時期に被災地に行って、（復旧・復興が）遅いということを実感しました。時間がかかることが、すごくよくわかりました。

ももかさん：８月９日に行って、泥かきとか、土壁をはがすお手伝いをしたんですけど、被災地の方の心に寄り添うことがあまりできなかったのかなという心残りがありました。被災した方とお話しする機会があまりなかったです。

KH さん：11 月のボランティアに参加したんですけど、それまで１回もボランティアに参加したことがなくて、初めてでした。自分自身が災害を体験したことがないので、被災地に行って、自分たちが今過ごしている生活が非常にありがたいなと思いました。

HM さん：被災のあとのボランティアに一度も行ったことがなくて、どのような活動をするのかな、というのがあって、参加させていただきました。力仕事だけがボランティアの仕事かなっていう考え方があったんですけど、精神的なメンタルケアなど、いろいろなボランティアの活動があることがわかりました。グループワークをしたんですけど、そのときに、いろんな方からお話を伺ったんです。そのときに、今まで表情が固かったのに、今までため込んでいたものをいろいろ聞かせてもらったときに、だんだん笑顔になって明るくなったという経験がありました。

一歩踏み出すためには

敬大さん：一人で何もないところからスタートするのは僕でもなかなか難しいと思うので、同じ思いを持った人を見つけたり、仲間を作ったり。そうしたら踏み出す勇気も出ると思います。物は結構、災害が起きたら全国から送られてきたりして、災害直後はそれもすごく役立つと思うんですけど、災害からしばらく経ってくると、しんどさとかつらさが来るんで、人と交流したりするような機会があったらいいなと思います。

ゆうきさん：僕たちの世代でそういうボランティアの活動をするのは、同じ世代で（ボランティアに）行こうか迷っている人とか、次の世代の子どもたちでも、ボランティアの活動がしたいけどなかなか踏み出せないっていう人に見てもらったら、記録を読むことでこういうふうに動いてたから自分もやってみようっていう気になったりすると思う。大人だけじゃないよというのを伝えたい。語り継いでいかなきゃいけないと思います。

HM さん：一人で行けないっていう人たちは、仲いい人がいないから行くのが恥ずかしいと思う人が多いと思うから、みんな仲良くしている、っていうのがわかる写真を掲載することも大事だと思います。





※ボランティアで真備町を訪れた様子（左）、花を植えたプランターを運ぶ生徒のみなさん（右）、どちらも舞子高校提供。

KH さん：記録に残すっていうことは大事だと思う。震災とか関係なく、自分よりあとの世代の人に伝えていくことが大事だと思います。ボランティアだったら、ほかの人がやってくれるから、自分はやらなくていいだろうとか思う人もいると思うので、そういう人にも、こういうボランティアを経験した人の体験談を見て、これなら自分でもできるかなみたいなことを見つけてもらって、積極的にボランティアに参加してもらえたらいいなと思います。

ももかさん：こういうもの（記録）がなかったら、また同じ被害を受けて、今後繰り返してしまうことになるし、被災者の方にもう二度とこのような被害を繰り返さないで欲しいと帰りがけに言われて、こういう思いを残していくことで、被害を繰り返しちゃだめということを誰かに伝えていかなければいけないなと思いました。

敬大さん：中高生ってある意味、学校や親に制限されているけど、自由な年代だと思うので、やりたいと思ってるけどやれない人とか、今まで興味なかった人にも、中高生こんなにできるんだ、がんばってるんだ、と知ってもらうことがすごい大切だと思います。

大切な人を守る手段を、被災地から学ぶ

―最後に一言ずつお願いします。

ももかさん：私は看護師になりたくて、看護学科のある大学に進学します。同じような災害があってほしくないけど、災害があったときに、人を助けられる人になりたいと思います。ボランティアで経験したことを、いろんな人に話していけたらいいと思っています。被災者の方に、忘れないでほしいと言われたので、一人一人が経験したことや、言われたことを、忘れないことが一番大切だと思います。

敬大さん：３年間でいろんなところにボランティアに行かせていただいて、現地に行くことは向こうの人の励みにもなると思うし、行くことで自分が今まで縁がなかった場所も、縁のある町になって、思い出深い町になったり、また行きたいなと思うようになった。それが、防災に限らず自分の人生でいいことだと思うので、（ボランティアに）行けない人もたくさんいると思うんですけど、行くことっていうのは、現地の人にも自分にも、いい影響を与えると思います。

ゆうきさん：僕自身は大きな災害を経験していなくて、親が阪神・淡路大震災を経験して、その話を聞いていたんですけど、話を聞くだけでなく、僕自身が被災地に行くことで、目で見て、何が必要なのか、いろんなことを自分で考えて、もし、いざ自分が大人になって、南海トラフとか大きな災害が起こったときに、自分の子どもとか大切な人を守れる手段を、いろんな被災地に行くことで自分も学べると思います。自分の目で見るっていうのは、話を聞くだけでなく、行ったら自分で考えたりすることが多いと思うので、ボランティアを通して、自分のためにもなるし、相手のためにもなるし。いろんなことにつながっていると思って、これからも続けていきたいなと思います。

HM さん：教師になろうと思って。学校全体が、部活があったりしてボランティアに行きにくい雰囲気だと思うので、教師になったら、ボランティアに行きやすいように生徒たちに呼びかけることも重要かなと思います。

岡山県
広島県
愛媛県
兵庫県
宮城県

【部活を1日2日くらい休んでも、被災地の子たちが普通の生活を送る手助けをしたい】



ゆうみさん・みなみさん・TY さん・SS さん（高校 3 年生普通科）

一面茶色の世界

―西日本豪雨のあとしたことや気づいたことを教えてください。

TY さん：8 月に岡山県の真備町に行って、グループに分かれて（被災した）家に行って、家の人の手伝いをしました。私のグループは、家が砂だらけだったり、床が抜けていたりするところの砂をほうきで掃いて、袋に入れて、繰り返しの作業でした。砂が汚くて、服を厚着していて、夏だったので暑かったです。少しずつしか進まないので、一日に出来る作業が限られていて、大変でした。

SS さん：生活面で、当たり前にお風呂に入ったりご飯を食べることが、好きなときにできなくなるということに気づきました。

みなみさん：真備町に行ったときの色が茶色、全部が茶色で、色がないってことが衝撃的でした。それと、ボランティアが来てますと報道はされているけど、ボランティアの数が圧倒的に足りていなかったです。

ゆうみさん：今までは、舞子高校で募金をしているとき、定型文の文章をそのまま言っていたけど、実際現地に行って、自分の言葉で地域の方に伝えようと思いました。

聴くことで、気持ちを共有する

―ボランティアに行くことについて、どう考えますか？

SS さん：高校生だったら、行っても邪魔と言われることもあるかもしれないけど、被災者の方とお話をするだけでもいいと思います。実際にその人が見た光景とかを聴くことで、気持ちを共有できるようになりました。

TY さん：自然災害が多い日本だからこそ、元気で力がある高校生たちが困っている人を助けることは一番大切なことだと思います。（被災地が）遠かったら募金活動を通して支援をして、行ける範囲だったら積極的に行って少しでも力になったら、自分たちも災害が起きたときの想定ができると思います。

みなみさん：陸上部で、部活が忙しかったんですけど、被災地のほうでも、同世代で部活をやりたくてもやれない子もいるので、部活を 1 日 2 日くらい休んでも、むこうの子たちの普通の生活ができる手助けができると思ったら、それは行くべきだと思うし、将来の自分の経験値になると思います。

ゆうみさん：行くことによって、現地の方から話を聞くことで、自分たちが学ぶこともあると思うんですけど、実際、自分たちがボランティアに行って、現地の方々が会話をすることで、普段は復興作業に追われて全然会話をしなかったりすることがあると思うので、会話をしたら少しでも気が楽になったりとかするので、自分たちが学ぶことだけじゃないと思います。

―どんな支援があったらよかったですか？

SS さん：泥とかだと、感染症が心配。小さい子どもにうつって危険な状態になってしまうかもしれないので、衛生を専門としている人たちがいるといいと思います。

同世代の経験を伝えること

―災害のことや子どもたちの活動を記録に残すことについて、どう思いますか？

みなみさん：記録に残すのはとても重要だと思います。起きてからすぐに書いたり伝えたりしていかないと、どんどん自分の記憶も薄れていくし、行ったからそれをしっかり伝えることが自分たちの役目だと思うので、しっかり記録して伝えていくのが大事だと思います。

SS さん：小学校のころから毎年、阪神・淡路大震災のあった 1 月 17 日に炊き出しとかイベントをやってきて、小さいころから授業することで、記憶にも残る。自分は大きな地震を経験したことがないけど、もし起こった場合、何をしたらいいのかというのが頭に残っているので大事だと思います。

TY さん：災害を経験していない世代の人が多いので、一番近い世代の人が見たことを聞くというのは、大事だと思います。記録を読んで知ることで、次の災害に少しでも役立てることができるかなと思います。

ゆうみさん：同世代ということで、素直に聞けると思うし、それを読むことによって、自分もボランティアに行こうと、ほかの人を触発することができると思います。

―インタビューに参加してくれたのはどうしてですか？

TY さん：（ボランティアが）初めての経験だったので、行く前と行った後で自然災害の恐ろしさとかも変わったので、感じたことを少しでも伝えて、同じ世代の人に知ってもらいたいと思ったからです。

ゆうみさん：何も話さなかったら何も変わらないけど、話すことでほかの人に呼び掛けたりできるので。

―真備で一面茶色い世界を見たとき、どんな気持ちでしたか？

みなみさん：結構衝撃だったけど、誰かが動かなくちゃこの現状は変わらないし、こっちは全然被害がないけど、一面茶色の世界で暮らさないといけない人はしんどいと思うので、ショックはあったけど、動いて、行動したことを人に伝えていかないといけないと思います。

―最後に一言ずつお願いします。

SS さん：いつもニュースを見て思うんですけど、災害が起きてから、何週間かは朝から晩までずっと被災地を取材したりしているけど、何週間か経ったら、一つの報道局くらいしか報道されないようになる。そこしか情報源がないので、どうなったのかなといつも感じていました。

TY さん：被害にあって、ああしておけばよかったっていうことは絶対あると思うんですけど、絶対に他人ごとのように考えないで、いつかは起こるから、備えをしたり、災害や準備をすることの知識を増やしていくことが必要だと思います。この前障害者の方と交流したんですけど、そのときに防災に関して話し合ったんですけど、防災のことを考えるにあたって、高齢者の方や障害者の方にも配慮した避難のしかたとかを考えていくことも必要だと思いました。

みなみさん：すぐにできることは募金活動。もし自分が将来仕事について、ってなったら、助けに行きたいし、話を聞くだけでも少しは楽になるんじゃないかなと思うので、足を運んでみたいと思います。

ゆうみさん：テレビとかメディアで豪雨の写真とかの報道が流れているときに、他人ごとだと思わずに、ちょっとでも募金をしてみたりとか、ボランティアに行ってみようと思うことが大切だと思います。あと、自分たち自身の意識を高めようと思います。舞子高校に入る前は、防災とかに関心がなかったけど、環境防災科の人たちが授業をしてくれて、自分たちの避難場所を知るだけでも、防災意識が高まりました。

【前は誰かに助けてもらったから、次は被害が起きたところに、僕が助けに行く】



りったん・タイチャン・SK さん（舞子高校卒業　大学1年生）

災害は物だけでなく、過去や思い出も奪っていく

―西日本豪雨のあとしたこと、印象に残ったことを教えてください。

りったん：垂水駅の前で募金を呼びかけました。夏休み前、7 月の中旬くらい。8 月に入ってから、夏休みに希望者で真備町の現地に行きました。

SK さん：バスの移動中の道に災害ゴミが結構並んでいて、こんなにあるんだと思いました。

タイチャン：授業で床上浸水と床下浸水は全然違うと習ったけど、実際行ってみたら、やっぱり床上と床下で被害の具合が全然違うなということを、実際見て感じました。床上はやっぱり被害が大きいんだなという感じです。

りったん：8 月だから全然手付かずで、遠くからでも災害ゴミの集積するところが山積みになっているのがわかる状態で、住宅街のほうに入って行くと、土がいっぱいあって、道路も土の色になっている状態。茶色でした。災害ボランティアセンターに要請があったお宅に行って、家具の搬出作業と、土壁を取り出す作業を行いました。土煙がすごかったのと、家具が重かったんですけど、畳が一番重かったのが印象的でした。普段持たないし、水を含んでいて、とても重かった。

タイチャン：乾いている状態だと普通 2 ～ 3 人で運べるんですけど、そのときは男 5 ～ 6 人くらいで運んでも重かった。1 枚運ぶごとに休憩して水分補給しました。

りったん：8 ～ 10 枚くらい運びました。冷蔵庫もあったけど、畳がダントツでほんとに重かったです。
SK さん：水分を含んでしまって、めちゃくちゃ重かった。家の思い出の品を運ぶのもあって、思い出の品がトラックでゴミになってしまうっていうのに憤りを感じました。（家の方に）確認を取って運ばせてもらったんですけど、結構きれいな状態のものもあったんですけど、「もういいよ」という感じ。災害はやっぱり、人とか物とかも奪っていくんですけど、過去とか思い出とかも同時に奪っていくのかなと感じました。

現地に行かなくてもできることがある

りったん：現地に行かなくても、いろんなデパートとかで物産展とかあったら、現地の物を買って、現地の経済の復旧・復興に携わることもある。実際に行かなくても、できることもあるんじゃないかなと思います。
SK さん：やっぱり、やりたいなという人も多くいると思うので、そういう人で集まってボランティアで募金活動とか、新品の服とか古着でも使える物とか、日用品とかも集めたらいいと思います。
― 一人でやるより何人かでやったほうがやりやすかったですか？
SK さん：周りの意見も聞けるから、いい案が出てきて、そこでじゃぁこれにしようみたいな感じになると思います。
タイチャン：募金を始めるとか、赤十字に送ってみるとか。行くことだけがボランティアではないと思います。

人手が足りないなか、子どもでもできること

―こういうものがあったほうがいいとか、こういう支援があったほうがいいということはありますか？
りったん：（2019 年の台風 19 号で被害の大きかった）宮城県丸森町に行ってきて、そのときもボランティアが全然足りてなくて。真備に行ったときはボランティアセンターに行ったら、夏休みですごい人だった。それでも足りなかった。今の丸森町は、休みでない普通の日だから、本当に少なくて、全然人手が足りてなくて。人手不足でした、真備も丸森も。
―中高生がボランティアをするときに気を付けた方がいいことは何かありますか？
りったん：体力もあるし、力仕事に行ってもらうのもいいけど、避難所で避難している方の体調を聞いてまわってもらうとか、配給の手伝いとか、小さい子の遊び相手になってあげるのも、中高生なら年も近いし小さい子も懐きやすいかなと思うので、そういうボランティアならできるんじゃないかと思います。小学生でもできると思う。

同年代の記録からヒントをもらう

りったん：今の時代、災害っていつ起きてもおかしくない。特に日本はそうなんで、その都度その都度、いろいろ反省も出てくるかもしれないし、逆に、こういうのがよかったっていうのも出てくるかもしれない。次また同じような災害とか、違う災害が起きても、そのときの経験を活かしてもっとよりよい支援とかができると思うので、（記録に）残すというのは、あとあとにとっていいことだと思います。
SK さん：自分たちも昔、ほかの学校がやってるから俺たちもやらないといけないんじゃないか、誰かがやっていたら自分たちもできるんじゃないかと思った。同年代だし。そういったことでも、残すっていうのは、未来につなげる意味でも大切だと思います。
タイチャン：記録をつけることによって、未来につなぐということは、記録をすることによって進化し続けるし、まったく未知の災害や想定外が起きたときでも、臨機応変に対応できるのではないかと思います。
―高校で学んだことは今活きていますか？
タイチャン：大学に入って防災を学んでいるんですけど、なかには防災に興味なくて大学に入った子もいる。そういう子を一緒にボランティアに誘ったりすると、乗り気になってくれたりします。多少経験はあるので、一緒にボランティアすることによって、まったく興味がなかった子も一緒にボランティアに参加してくれたこともあります。
SK さん：高校生中学生はメンツっていうか、メンバーが大事っていう考えがあるんで、仲いい友だちとやるって言ったらやる気が出るし、それに向けていっぱい準備して成功させようと思うので、お互い誘って行くっていうのは大事だと思います。

中高生の強みと弱み

―中高生だからこその強み・弱みって何だと思いますか？
SK さん：強みは、連携とか SNS。若者って、つながりが強い。弱みは、言葉の重さの弱さだと思います。防災を知ってる僕らは、こういうとき何て声をかけたらいいかわかるけれども、ボランティアしたいと思っても、何も知らない人は、思ったことを悪気はなくても、言ってしまう。そういうところで、言葉の重さが弱さだと思います。
りったん：（中高生が）がんばってる様子を見たり、子どもと遊んでいる様子を見たりして、子どもの笑い声を聞いて、避難所の人も元気になることもあると思うので、相手になってあげることが強みだと思います。弱みは、情報面ではフェイクニュースにだまされること。（情報が）入って来すぎて、どれが本当の情報でどれがウソの情報か、っていうのが、判断しにくいこともあると思うんで、情報が入ってくるのはすごくいいんですけど、そこは弱みになっているんじゃないかと思います。
―どうすればよいと思いますか？
りったん：自分でしっかり情報の発信源を見たり、本当かを自分で一回判断することが、災害時は混乱しているし難しいんですけど、そんな中でも判断力が必要だと思います。
タイチャン：中高生の強みは、発信力が一番あるっていうこと。中高生がやることによって、大人もそれを見て「中高生がやっているなら自分たちもやらなければいけない」と思うし、それを見ている被災者の方も「あんなに頑張っている」と元気をもらうこともあるのが強みだと思います。弱みは、フェイクニュースや、発言。知識や経験がない。最低限の知識や経験が必要だと思います。

大人の立場にもなれるし、子どもの立場にもなれる

―最後に一言ずつお願いします。
タイチャン：中高生こそボランティアしたほうがいい。中高生って、大人でもないし、子どもでもない、ちょうど真ん中だと思うんです。大人の立場にもなれるし、子どもの立場にもなれる、無敵の存在なんです。子どもと一緒に遊べるし、大人とも一緒にできる体力もある。知識と経験はないが、体力はある。中高生こそボランティアに積極的に参加して、知識と経験を得ることが大事だと思います。
SK さん：僕自身が 4 歳のときに、（兵庫県）豊岡市に住んでいて、台風 23 号の被害を受けたので、そのときに環境防災科がボランティアに来ていたことを知って、ここ（舞子高校環境防災科）に入って、人を助けたいと思って。そういう何かの縁で助けてもらって、逆に恩返しっていう感じ。前は誰かに助けてもらったから、次は被害が起きたところに、僕が助けに行こうとか、そういった形で、災害がいっぱいあるけど、その中で助け合いがあると思います。
りったん：今の中高生って SNS とか使ってるから、中高生は（情報が）入ってきやすい環境にある。もし災害が起きたら、中学生高校生が率先して、親とか近所の人に避難しようって言って避難することで助かる命もあると思うので、情報が本当に大事だと思います。中学生高校生は、避難の情報とか、災害関係の情報に敏感になってくれたら、自分より年齢の低い中高生が行こうと言ったら、おじいちゃん・おばあちゃんとかも「じゃぁ逃げよう」ってなることもあるかもしれないので、それで助かるっていうのも、助かったら助かったでいいし、何もなかったら何もなかったで全然オッケーだから、率先して避難を呼びかけたり行動するっていうふうにしてほしいと思います。

【東日本大震災の経験を】





インタビュー実施場所：宮城県多賀城高等学校
インタビュー実施日：2020 年 1 月 31 日
あゆさん・ちなつさん・なおきさん（高校 3 年生災害科学科）

現地だからできること、行かなくてもできること

―西日本豪雨のあとしたことについて教えてください。

あゆさん：学校で募集があって、岡山県に 2018 年 9 月の終わりごろに行きました。真備支所でタオルをたたむ活動と、届いた段ボールの中身を仕分けして運ぶボランティアをしました。タオルは決められたたたみ方でたたんで、段ボールの中身は、衣類だったら服を集めている場所に持って行って、女性もの、男性もの、サイズごとに仕分けをしたり、食器や電化製品もそれぞれ集めている場所に持って行きました。

ちなつさん：災害が起こってすぐの 7 月下旬くらいに、多賀城駅前を中心に生徒会執行部の人と一緒に募金活動をしました。西日本豪雨の写真でポスターサイズのパネルを先生方が作ってくれたのを持って、多賀城高校の旗を持って、災害があったから支援のために募金をお願いしますと、1 週間くらい呼びかけをしました。

なおきさん：舞子高校に知り合いがいたので、（神戸にも被害があったので）安全かどうか確認して、安全だということがわかったので安心しました。そのあと、西日本豪雨の募金活動も行いました。

―やってみてどうでしたか？

ちなつさん：募金活動を朝やってたけど、ものすごく暑くて、飲み物もあまり飲むひまがないから大変だなーと正直思っていたんですけど、電車に乗る人とか降りてきた人とか、道を歩いていてこっちに来る用事はなかったのにわざわざ来て募金してくれた人とか、いろんな人がいて、寄付していただいたときに「がんばってね」と言ってもらえたのがうれしかったです。

なおきさん：募金活動は、自分たちが現地に行くことができなくても、間接的な活動でも被災地の助けになれていたと思います。

あゆさん：募金はやったことがあったけど実際に現地に行ったのは初めてで、行ってみて、報道されている以上に現地が大変だと感じました。川の堤防が崩れた部分とか、壁に（浸水した）線が残っていたり、ブルーシートが敷かれた状態だったりして、本当に発災直後で、外にいる人はみんな活動していました。以前の町の写真も見せてもらったんですけど、以前の様子と全然違いました。現地で活動している人は、外から来た人だけじゃなくて、実際に自分たちも被災している人がたくさんいて、被災している中でもほかの人のためにと活動しているのが、すごくかっこいいなと感じました。あと実際に生徒会が募金活動で集めたお金を倉敷青陵高校に持って行ったときに、家が浸水した方もいて、実際の様子を聞いたときに涙ぐんでいた方もいて、私が東日本大震災を経験したのが 9 年前とか 10 年前になってしまうんですけど、当時の気持ちを思い出しました。

東日本大震災の経験が現在につながっている

―東日本大震災のときのことで、今につながってることはありますか？

なおきさん：避難所生活はしたことがなくて、避難所がどういう雰囲気なのか実際に目で見たわけではないけど、授業で聞いたなかで、避難所の生活はとても大変だと思いました。東日本大震災があったから、こういった募金活動に積極的に取り組むようになったと思います。

ちなつさん：東日本大震災があって、そこからちょっとだけ災害に興味を持ち始めて今の学科を目指して来ているので、授業で習った避難所のこととか、実地研修で学んだこととか、知識が増えていくにつれて、そういう知識を活かして仕事に就きたいと考えて進路を決めました。市役所に就職が決まって、災害に直接かかわる部署はないけど、防災とか、市役所とか文化センターの備蓄品を管理する部署もあるので、そこに行けたらいいなと思っています。

―水害のあと、どんな支援があったらいいと思いますか？

ちなつさん：泥を早く出すことが必要です。実際にボランティアに行った友だちの話を聞くと、スコップとか使っても重労働と言っていたので、もっと早く撤去できる道具があればいいのかなって思います。

なおきさん：避難所で生活するとなると、雨の中避難するので、衣服が濡れると思うので、洋服とか着替えが支給されたらいいと思いました。避難するとき持ってくるのは難しいと思うので。

記録に残すことで、次の世代に受け継ぐ



「まち歩き　多賀城津波伝承」
発行：宮城県多賀城高等学校
第 42 回生徒会執行部
（令和元年 12 月 19 日）

―学校で東日本大震災の津波被害の伝承の冊子を作ったそうですが、どうして作ったんですか？

ちなつさん：生徒会が中心になって多賀城ロータリークラブと交流を続けていて、補助金を出してくださるとなったんです。生徒会を中心に「まち歩き」という東日本大震災の津波被害を伝承していく活動をしているので、補助をいただいて作りました。

―津波の被害や、今回の西日本豪雨の子どもたちの活動などを記録に残すことって、どう思いますか？

ちなつさん：大事だと思います。直接話で聞くのもいいけど、耳だけだとどうしても忘れてしまう。目に見える形で手に取って見られる形にしてあればいつでも見られるし、体験の重みも増すっていうか、そのまま受け継がれていくと思うので、残しておいた方がいいと思います。

あゆさん：（東日本大震災で）被災したのが小学 3 年生なので、あいまいなところがあって、その時のことを覚えているわけではなかったんですけど、実際に西日本豪雨の被災地に行ってみて当時のことを思い出せたので、記録が残っていればそのときのことを思い出すこともできるし、違う災害のことを見てそういえばあの災害のときこうだったなと思い出せたら、風化しないのかなと思います。

なおきさん：やったことが残らないとやった本人しかわからないけど、本みたいな感じで残すことで何年たっても次の世代に継いでいって、こういう災害があったときに高校生たちはこういう行動をしたんだなとわかるので、記録に残すことは賛成です。

迷いながら、小さい出会いを大事にする

―活動をするにあたって、何か不安なことや迷いはありましたか？

なおきさん：募金も、最初の一言が勇気がいりました。

ちなつさん：一歩踏み出すのは躊躇してしまう。誰が最初の一言を言うか、みんな目を合わせます。

あゆさん：真備まで行くのは大変だったけど、一緒に行った同級生の子に「やらないよりやった方がいいことって絶対あるから」と言われて、確かにそうだな、やってみようかな、と思えました。

ちなつさん：（被災した子たちに声をかけるとして）不用意に「大丈夫だよ」とか「がんばって」って声をかけると、「がんばってるのにもっとがんばるの？」と思われるかもしれないので、声をかけるのは難しいです。

なおきさん：声のかけ方は悩んだりします。「がんばって」とかも、勝手な言い方だし、そういう言葉じゃなくて、「復興は必ずできるから今は受け止めきれないかもしれないけど…」、そのあと続けるのが難しいですね。

あゆさん：目の前で起きたら何を言われても受け付けられないような気がするので、何か具体的な言葉は思いつかないですけど、安心してもらえるような言葉がかけられたらいいと思います。「大丈夫だよ」は違うかもしれないけど、ずっとこのままの状況が続くわけではないので…。

―最後に一言ずつお願いします。

なおきさん：災害にあった地域の人たちは自分から行動することは難しいと思うから、全国の人たちが被災した地域を直接助けに行ってもいいし、募金みたいに間接的に手助けでもいいので、そういった活動を積極的に行ってほしいと思います。

ちなつさん：私自身、東日本大震災を間近で体験したから思い入れがあるけど、生まれる前とか覚えてない被害や遠方や海外の被害だったりすると、どうしてもあまりかかわる機会がないので、行動を起こしたり意識を向ける機会が少ないと思います。もし誰かと話をする機会があったり被害があった県に行くことがあったら、災害の伝承館とか、災害を伝えるための冊子が駅に置いてあったりするので、そういうのを見つけたときは手に取って眺めるだけでも、自分から歩み寄っていることになると思うので、小さい出会いを大事にしたらいいのかなと思います。

あゆさん：実際に災害が起きたときに、仕事をしてる人は時間がない。そういうときに動けるのって、高校生とか学生や、年配の人だと思うんです。学科で学んで思ったけど、災害の避難所運営って、若い力が大切だと思います。そういうときに動ける人が動かないとだめだと思うので、一歩踏み出すのは大変だと思うけど、ほかの人に任せるのではなくて、若い力は特に必要とされることもあるので、動けたらいいと思いました。

今回実施したインタビュー全体を通して、
被災者や支援者の立場から、伝えたいことや要望を伺ったので紹介します。

■ よかったこと　■ 困ったこと・要望

避難所の食事について。

■ 非常食が同じものばかりで、食べれない人、足りない人がいました。パンも、菓子パンがほとんどで、おにぎりの具も毎日同じでした。最初は総菜のパンなどもあったけど、パンばかり。カップ麺もだんだん種類が同じになっていた。いろいろあったらうれしかった。（大人）

■ 子ども用のドリンクが水ばっかりで。あったけど、すぐなくなった。水以外は野菜ジュースばっかりだった。ジュースがよかった。（子ども）

■ 野菜、特に生野菜が欲しくなります。配られる弁当にきんぴら一口だけ。あとは揚げ物。地域の方の厚意の炊き出しで温かいご飯とみそ汁、さらにプチトマトがあったときは感動しました。（大人）

避難所のスペースについて。

■ 床で寝てて、硬かった。（子ども）

■ 途中から段ボールベッドを入れてくれたけど、最初は大変でした。それまでは床にじかにだったので。隣の人との境目もなくて、荷物も誰のかわからない。最初からしきりがあればよかったです。（大人）

子どもの居場所について。

■ 岡山県主催の子どもの居場所※がありがたかったです。家の片付けをしないといけなくて、子どもの面倒が見れない。子どももストレスがたまってしまう。幼稚園が、当初避難所に避難している子しか受け入れてくれなくて。なんとか入れたけど、限られたスペースで、幼稚園の先生も疲弊している様子でした。（子どもの居場所は、）バスに乗って行けるので子どももテンションがあがって、いろんなお兄さんお姉さんと遊んでもらえて、いきいきして帰ってきて、本当に助かりました。カレーを食べたのを喜んでいました。避難所では、低学年の子が年中の娘の同級生に向かってスマホ取ってこいみたいなこともあって。ストレスでひねくれてしまう子も。子どもの居場所は本当に支えでした。必要です。（大人）

（※岡山県保健福祉部子ども未来課主催「被災地域の子どもの安全・安心な居場所」。セーブ・ザ・チルドレンも運営に協力。）

■ 災害後に子どものために何かしたいと思っても、子どもたちが集まれる場所がまずなくて、公民館に電話をしたけど、いつまた避難所になるかわからないから使えませんでした。地元のコープが、使用料が普段はかかるけど無料でいいと言ってくれました。コープさん以外でも、場所を持っている方は、場所を提供することも災害の支援になることを知ってほしいです。場所を探すだけでも一苦労なので。（大人）

必要な物資について。

■ （被災した方に）使い捨て哺乳瓶やおむつはありますか？って聞かれました。防災センターにはあるけど、車が浸かってそこまで行けない。備蓄に関しては、施設の機能にあったものを用意しておくべきだと思います。子どもに関わる施設は、日頃使っているお母さんは絶対頼って相談しに来るので、そのときにないってなったら困る。粉ミルクとかも。防災センターや市役所も、川が決壊したらアウトなので、少しずつでもいいから、いろんなところに置いておかないといけないと思いました。市で予算を組んでもらえたらありがたいです。（大人）

■ 支援物資の提供をしているとき、被災した方が欲しいものがなかったら、ほかの場所と連絡を取り合って取り寄せられるように、用紙を用意してどんなものが欲しいか書いてもらいました。水筒、傘、など。（大人）

■ 支援物資の提供をしたけど、家が浸かって大変な方は、取りに来る暇もなかったかもしれない。浸かってない人はだめとは言えないけど、取りに来る人もいる。本当に困っている人にあげたい。いつも来てる人が来れないのに、必要でなさそうな人が取りに来て「これだけしかもらえないなんて」と不満を言われて心が折れることもありました。（大人）

■ 支援物資を届けたい、という人もいました。「何もできないからせめてできることがあれば」と。「どんなものがないですか？」と聞かれて、おむつ、おしりふきが足りないというと届けてくれました。「何かしないといけない」と考えてもらえたのがありがたいです。（大人）

■ （被災地に）送られてきた物資に、これは明らかに使えないというものもあった。洋服も、流行遅れのミニスカートとか。古着屋さんに出す感覚で送るのは違うかな。「送ればいいや」という気持ちならお金を支援してほしい。募金をしてお金を届けたほうがいい。（子ども）

■ 災害があると、千羽鶴が送られてくることがあって、作ってる方は「早く復興してほしい」という気持ちだと思うけど、送られてくる側だと、「何になるんだ？」と思っちゃう。難しいところだけど。（子ども）

報道について。

■ 斜め向かいの更地が陥没して傾いて。マスコミが勝手に入って来て、あいさつしない。入ってもいいですか？という人もいるけど、勝手に付いてくる人もいて困りました。（大人）

■ 取材は受けたけど、これは言ってはダメとか指摘される。伝えたかったところをカットされたり、伝えてほしいことが伝わっていない。継続的に支援をするために支援金は大事なのに、支援をしてください、は NG と言われた。本当のところをさらしだせない。本当に苦労したところを出せないこともありました。（大人）

■ 子ども支援の活動の取材で、毎日何局も来て、毎回同じ話をして大変でした。報道を見てボランティアに来てくれたり、物資を送ったりしてくれる方もいるのはありがたいけど、まとめて来てもらって話すとか、ここまでは読んでおいてくださいと資料を渡すとか、工夫が必要だと思いました。子どもたちに顔を出してもいいか、確認が大変でした。対応ばかりで、しんどいとも言えない。（大人）

■ 子どもが嫌がっているのに表情を撮ろうとする、被害がひどい人を探してそこの家に行きたいとかその人に話を聞きたいとか、礼儀がなっていない人もいます。（大人）

災害時に子どもとかかわる大人のみなさんへ

～緊急・復興支援におけるセーブ・ザ・チルドレンの取り組み～

災害時に子どもとかかわる際に、どういうことに気をつけたらいいかわからないといった声も聞かれます。セーブ・ザ・チルドレンの取り組みから、災害時に子どもとかかわる大人のみなさんに心に留めておいていただきたいことをご紹介します。

■ 緊急下の子どものこころのケア

避難所での生活や災害後の子ども支援を通して、普段と違う気になる子どもの様子を目にすることもあると思います。災害などの緊急時には、衣・食・住・医療などの基本的な支援に加え、遊びや学びの機会を提供するなど、子ども特有のニーズに対応していくことが、子どものこころの健康の回復には欠かせません。セーブ・ザ・チルドレンは、緊急時、子どもたちが普段していたような遊びを通して、より日常に近い生活を取り戻せるようサポートする活動「こどもひろば」や、ストレスを抱えた子どもや親、養育者に対するこころの応急手当てとして「子どものための心理的応急処置※」を実践・普及しています。

子ども特有の反応や、発達段階に応じて配慮するべき点などもあります。

（詳細はセーブ・ザ・チルドレンのウェブサイト https://www.savechildren.or.jp/lp/pfa/）

※「子どものための心理的応急処置（Psychological First Aid for Children）」（子どものための PFA）は、「準備・見る・聴く・つなぐ」を基本行動原則として、子どもの認知発達段階の特性に合わせた、誰にでもできるこころの応急手当てです。世界保健機関（WHO）などが開発した PFA マニュアルをもとに、セーブ・ザ・チルドレンが子どもに特化して開発しました。

■ 子どものセーフガーディング

「子どものセーフガーディング」とは、虐待や搾取をはじめ、子どもを傷つけるどのような行為も許さない環境づくりと、その予兆や SOS を見逃さない取り組みです。セーブ・ザ・チルドレンは、子どもたちが心から安心して参加できる活動を目指しています。けがや事故防止といった従来の安全管理だけでなく、不適切な言動により子どもを傷つけたり信頼を裏切ったりすることがないよう、関係者一人ひとりが子どもと適切な関係性を築くことを重視しています。

災害などの緊急時には特に、支援に携わる人々の行動によって、さらなる危険を生まない配慮が必要です。

（詳細はセーブ・ザ・チルドレンのウェブサイト https://www.savechildren.or.jp/about_sc/quality1.html）

■ 取材を受ける際に気をつけること

子ども支援の活動において新聞・テレビなどの取材を受けることがあります。子どもたちが安心・安全に活動を行える環境づくりに理解と協力をいただくために、報道関係者の方には、以下のようなことを伝えています。子どもや保護者、また子ども支援者の方にとって、取材が負担にならないように、参考にしてみてください。

〈セーブ・ザ・チルドレンが報道関係者にお伝えしている例〉

・インタビューを行っていただく子どもたちについては、保護者などの許可が必要なため、インタビューをする前に、必ずスタッフに子どもたちへのインタビューの可否について確認してください。
・子どもたちにインタビューする際は、被災の具体的な状況などを尋ねることや本人の意思に反して話を聞き続けることなどをお控えください。また、子どもたちの安全の配慮から子どもの氏名・学年・学校などをお伝えすることはできません。
・子どもたちに連絡先を聞く・交換する・教えることなどはお控えください。
・決められた撮影エリアから撮影をお願いします。

「震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト 報告書」活用事例



2013 年 4 月発行の「震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト 報告書」は、全国各地で、学校の授業や地域の防災講座などで活用いただいています。本冊を活用いただくにあたって参考になるよう、震災を経験した中高生の声を集めた報告書を使って具体的にどのような取り組みがなされているか、活用事例のアンケートを実施しました。

ケース 1　広島都市学園大学 子ども教育学部 教授（広島県）

Q：どのように報告書を知りましたか？
A：知人（研究仲間）からの紹介で知りました。
Q：活用していただいた感想などは？
A：中学・高校・大学生のいずれでも活用できる減災教育プログラムを開発するにあたり、生徒・学生が避難所で支援者として活躍できる可能性を確認することができました。研究協力高校へ送付し、プログラム実施前に家庭科教員にも内容をご確認いただきました。今後は先行研究として使わせていただこうと思っています。

ケース 2　高浜市役所 総合政策担当者（愛知県）

Q：活用の時期、具体的な活用方法は？
A：防災を考える市民の会が毎年度、子ども防災リーダー養成講座・中学生防災減災アカデミーという事業を実施する際に、事業計画立案などのための参考資料として活用しています。
Q：活用していただいた感想などは？
A：実際の生の事例がわかるのは大変参考になります。

ケース 3　大和市社会福祉協議会　ボランティア担当者（神奈川県）

Q：どのように報告書を知りましたか？
A：インターネットで「中高生　被災地ボランティア」で検索しました。
Q：活用の時期、具体的な活用方法は？
A：2019 年 8 月、本会主催の「中高生のための災害に備える夏期講習」において、いざという時は大人も子どもも関係なく助け合いが必要という事を強調するために、参加した学生に報告書を回覧しました。
Q：活用していただいた感想などは？
A：実際に被災地で中高生が助け合いを行った事例集を通して、自分たちにできる事を再確認できたと思います。



ワークショップ「大規模災害から生き残るためにすべきこと」の様子
（大和市社会福祉協議会　提供）

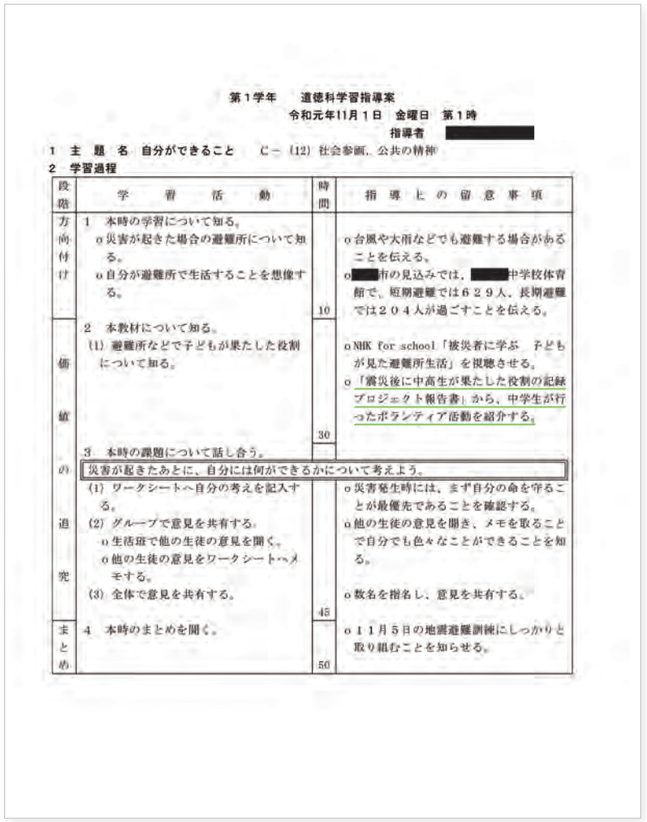
ケース４　昭和第一高等学校　国語科教諭（東京都）

Q：どのように報告書を知りましたか？
A：インターネットで「高校生が震災で果たした役割」についての資料を探していて見つけました。
Q：具体的な活用方法は？
A：２年生の国語表現の授業で使いました。期末テストの課題で「震災が起きた時、高校生として何ができるか」というテーマで小論文を書くための参考資料として、生徒一人一人に配布しました。
Q：活用していただいた感想などは？
　現実にあったことがリアルに生徒に伝わったと思います。配布した以外に、図書室にも置いています。

ケース５　Ｙ中学校（愛知県）

Q：具体的な活用方法は？
A：防災教育を兼ねた道徳の授業で、中高生が活躍した事例として紹介しました。

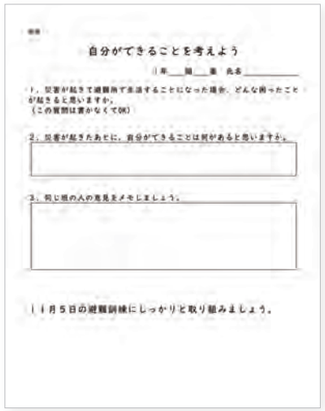
授業で使用した指導案（左）とワークシート（右）



第１学年　道徳科学習指導案
令和元年11月１日　金曜日　第１時
指導者 [redacted]

１　主　題　名　自分ができること　　C－（12）社会参画、公共の精神
２　学習過程

段階	学　習　活　動	時間	指　導　上　の　留　意　事　項
方向付け	1　本時の学習について知る。 o災害が起きた場合の避難所について知る。 o自分が避難所で生活することを想像する。	10	o台風や大雨などでも避難する場合があることを伝える。 o[redacted]市の見込みでは，[redacted]中学校体育館で、短期避難では６２９人，長期避難では２０４人が過ごすことを伝える。
価値の追究	2　本教材について知る。 (1) 避難所などで子どもが果たした役割について知る。	30	oNHK for school「被災者に学ぶ　子どもが見た避難所生活」を視聴させる。 o「震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト報告書」から、中学生が行ったボランティア活動を紹介する。
	3　本時の課題について話し合う。 災害が起きたあとに、自分には何ができるかについて考えよう。 (1) ワークシートへ自分の考えを記入する。 (2) グループで意見を共有する。 o生活班で他の生徒の意見を聞く。 o他の生徒の意見をワークシートへメモする。 (3) 全体で意見を共有する。	45	o災害発生時には，まず自分の命を守ることが最優先であることを確認する。 o他の生徒の意見を聞き、メモを取ることで自分でも色々なことができることを知る。 o数名を指名し、意見を共有する。
まとめ	4　本時のまとめを聞く。	50	o１１月５日の地震避難訓練にしっかりと取り組むことを知らせる。



自分ができることを考えよう
（　年　組　番　氏名　　）

1，災害が起きて避難所で生活することになった場合，どんな困ったことが起きると思いますか。
（この質問は書かなくてOK）

2，災害が起きたあとに，自分ができることは何があると思いますか。

3，同じ班の人の意見をメモしましょう。

１１月５日の避難訓練にしっかりと取り組みましょう。

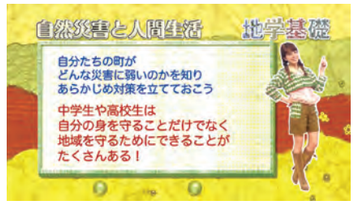
教科書などの題材としても取り上げられました

■ NHK 高校講座 地学基礎

第 39 回「自然災害と人間生活」（2014 年 2 月放送）

避難所で物資や水を運んだ中学生の体験談や、子どもの活動に励まされた大人の声が紹介されました。地域を守るために中高生ができることがたくさんある、というコメントもありました。





■ 教育図書株式会社「家庭科 55（GO!GO!）資料集」

（2018年３月１日初版発行）



地域の防災対策をテーマとしたページで、高校生が避難所の運営に奔走した様子が紹介されました。高校生向けの副教材で、災害を経験した同年代の子どもたちの活動を広く知ってもらうことにつながりました。

■ 数研出版株式会社「Revised COMET English Communication Ⅱ」

高等学校 外国語科 コミュニケーション英語Ⅱ 教科書　（2018 年 4 月発行）

高校生 2 人の体験談を英訳した文章が掲載されました。震災直後の避難所で、困難な状況のなか大人を手伝った高校生の様子や、ボランティア活動を通して感じたことを地域の人たちの防災意識を高めるためにたくさんの人に伝えようと思っている、というメッセージが取り上げられました。

講評

4 名の専門家の方に、今回寄せられた投稿用紙に目を通したうえで講評をいただきました。

被災経験から災害時の「子育て」と「子育ち」を学ぶ

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 准教授
阪本 真由美



災害は、突然起こり、それまでの生活環境を大きく変えます。住まいが壊れる、学校が休校となり行けなくなる、避難所で生活しなければならないなど、それまで当然だと考えていた日常生活が日常ではなくなります。災害は、被災した人、身近な人が被災した人、被災した地域を支えたいと考える人など、災害との距離は異なるものの、さまざまな人に影響を及ぼします。

災害は「子育て」をめぐる環境を変えますが、同時に子どもにさまざまな「育ち」を与えます。小学生・中高生世代からの投稿の多くは、被災した自宅の片づけを手伝う、友達や親戚の家の片づけを手伝う、避難所においてボランティアをする、募金するなどの取り組みに関するものです。これは、災害が子どもの自主性を育むきっかけとなっていることを示しています。困難な状況において「人の役に立ちたい」と考えるのは、自分も社会の一員として地域の復興に貢献できる、大人の指示がなくても何もできない存在ではないという自主性に結びついています。これに対して、大人の投稿からは、災害後の自宅の片づけ・避難生活という「子育て」をめぐる生活環境の変化と、そのなかでも家族のことを常に考えていることがわかります。そのような環境変化において、子どもが頑張る姿は親の励ましにもなっています。

災害は一過性の出来事です。大きな被害をもたらした災害であっても、時間の経過とともに次第にその記憶は薄れていきます。だからこそ、被災経験を忘れないよう災害の記憶をとどめるとともに、そこから得られる学びを災害の備えに結びつけることが大切です。

子どもが災害復興に関わる際の安全確保の重要性

佐久医療センター 小児科医
坂本 昌彦



子どもたちが、それぞれの立場から、自分にできることを試行錯誤しながら探す姿が浮かび上がり、頼もしく感じました。しかし、水害後の掃除に子どもたちがかかわることは衛生面から注意が必要です。そこで今回は、「子どもの健康の代弁者」である小児科医の立場から、災害時の子どもの活動の留意点をお伝えします。

まず、子どもは小さな大人ではありません。体のしくみが大人と違うのです。例えば体格が小さいため大人より地面に近い空気を吸い込みやすく、呼吸回数が多いため、災害時には有害物質やホコリを多く取り込みやすいです。また体が成長段階にあるため、晒された有毒物質は将来の発育に影響を及ぼす可能性があります。そのため子どもが災害復興に関わる際には、大人以上に安全確保が重要です。たとえば水害後は多くの有害物質が散乱し、下水も混じっているため感染症のリスクもあります。そのため有毒物質に感受性の強い中学生以下の子どもを水害後の掃除に関わらせるのはよくありません。高校生以上でゴーグルやマスク、長靴などのフル装備であれば掃除に参加可能だと考えています。

しかし、子どもたちが復興の役割を担うことはとても大切です。自分にもできることがあると知り、役割を果たすことは、彼ら自身の達成感や希望に繋がるからです。避難所で小さな子どもやお年寄りの相手をする、物資の配給や仕分けを手伝うなど、掃除以外にもできることはたくさんあります。子どもは地域の希望です。彼らが役割を与えられて活動している姿に大人達も励まされます。子どもの安全を確保する視点を忘れず、それぞれが役割を果たせたらと願っています。

災害時、子どもにできることはたくさんある

NPO 法人プラス・アーツ 東京事務所長
小倉 丈佳



私たちは全国で地域の防災訓練の支援をしているのですが、中学生・高校生を「お客さん」だと考えている地域がまだまだ多いように思います。その一方で、中学生・高校生をスタッフとして積極的に巻き込み、成果を上げている地域もあります。彼らは、日中仕事で外に出てしまう社会人ではなく、地域にいる中学生・高校生の力こそが必要だと考え、防災訓練という場を使って中学生・高校生とコミュニケーションを図っています。

実際に、過去の災害時には中学生・高校生が活躍しています。私自身、東日本大震災を経験した 50 人の方々に話を聞く機会があったのですが、何人もの方から、中学生・高校生が手助けしてくれてありがたかったという話を聞きました。例えば、大人たちが嫌がる中、避難所のトイレ掃除を率先して行っていた中学生。毎日近くの川へ水を汲みに行き、重たい水を避難所まで運んでいた中学生。避難所に届いた物資を、在宅避難生活をしていたお家に配っていた中学生。ジュニアリーダーの活動で培ったリーダーシップを発揮し、自分たちだけで様々なトラブルを乗り切った高校生−。

この冊子では、「西日本豪雨」の際、子どもたちがどんな活動を行ったかということを、彼ら自身の体験談を通して知ることができます。また、「子どもに言われなければ避難しなかった」という大人の声など、今後の水害対策のヒントになるようなエピソードも盛り込まれているように思います。

中学生・高校生をはじめ、子どもたちにできることはたくさんある。また、彼らでなければできないこともある。このことを子どもたち自身、また、多くの防災関係者に知って欲しいと思います。

私たちはもっと子どもの声を聴くべきだ

株式会社 危機管理教育研究所 代表
内閣府「防災スペシャリスト養成企画検討会」委員　国崎 信江



子どもは、体は小さくともしなやかなパワーを持っていて、なんでも吸収しようとする好奇心旺盛な視野をもち、ときに繊細さをもって大人の表情や態度を観察しています。災害は、これまでの環境を一変させ心身に衝撃をもたらします。子どもは大人より自然災害の知識や災害情報が少ないことで不安が増すこともあります。でもそんななかでも一生懸命大人を見て自分のすべきことを考えています。残念なのは、それに大人が気づいていないことです。西日本豪雨でも多くの子どもが親のため、地域の人のために行動しました。行動することで自分の気持ちを奮い立たせ、励ますことで誰かの役に立つ喜びを感じていたのです。

被災すると、誰しも不安になり希望を失いかけ虚無感から抜け出せなくなることもあります。そんなときに希望となるのが困難に屈せず行動する子どもたちの姿を見せられることです。大人の中に情けなさと恥ずかしさと嬉しさと慈しみの感情が入り混じり、しっかりしなければと気持ちが前に向くのです。

私たちはもっと子どもの声を聴くべきです。何を思い、何をしたいのか。たいそうなことはできなくても、そばで笑ってくれているだけでもいい。子どもが大人を見るように、大人もしっかりと子どもを見よう。子どもの力を見くびらず、子どもの気持ちを決めつけてしまわないように、子どもの目線からの被災地がどのようなものであるかを知ったうえで、地域社会の一員として尊びその力を広く活用することを考えるべきです。そして、子どもにも同じ世代がどう感じ行動したのかを伝えることも重要です。この記録集が子どもの刺激となって災害への心構えにつながる良い教材になるでしょう。

まとめ

セーブ・ザ・チルドレンは、子どもの権利を大切にし、子どもにとって安心・安全に事業を行うことを常に心がけています。自然災害の緊急・復興支援においても、子どもや親・養育者、子育て支援関係者の声を聴き、ニーズにあった支援活動を行っています。今回、子どもたち自身や、子どもたちの活動を見た大人の方から体験談を募集したりインタビューをして取りまとめた本記録集は、子どもの権利のなかでも「意見を聴かれる権利」（子どもの権利条約第 12 条）に主眼を置いて実施しました。今回集まった声は、今後のセーブ・ザ・チルドレンの活動の参考にしたり、全国各地の防災教育や防災活動の参考にされるよう働きかけを行っていきます。

■ 災害後の子どもの居場所の重要性

今回、体験談やインタビューを通して、災害後の子どもの居場所の大切さをあらためて実感しました。被災後に子どもの居場所があることで、大人が家の片付けなどに専念できるだけでなく、子どもは遊びや学習といった日常を過ごすことができ、心の安定につながります。また、子どもの心が安定する結果、親・養育者の安定やストレス軽減にもつながります。今後大きな災害が起こった際、避難所でも復興の過程においても、子どもが日常に近い災害前のような時間を過ごせる場があることが重要だと考えます。

■ 子どもたちの力に目を向けること

災害後の活動には、衛生面や熱中症、怪我、二次災害などの危険や、子どものこころの負担などの懸念もあり、子どもの安全確保・こころのケアは大前提と考えます。一方、子どもたちは、大人が思っている以上に「誰かのために何かをしたい」「自分も役に立ちたい」と思っていることや、何かをしようと意気込んでいなくても子どもたちが手伝ってくれることが大人の助けになることがわかりました。まわりの大人が、「何かしたい」という子どもの気持ちを受け止め、子どもの年齢や体力に応じた活動ができるようサポートしていくことが大切です。子どもたちの安心・安全な環境確保については、本冊 P.118「緊急下の子どものこころのケア」「子どものセーフガーディング」を参考にしてください。

■ 子ども自身が経験や思いを発信すること

子どもが体験談を投稿した保護者から、お子さんが「災害について公の場で何も語れず、記せなかったのですが、ようやく、災害の時に自分がどうしたか、ということを初めて記すことができたので、ひとつ成長するきっかけをいただけたのかと思います。」と個別にメッセージがありました。災害という困難な状況で自分がしたこと・感じたことを言葉にして伝える体験が、子ども自身のエンパワーメントにつながったことをうれしく思います。

■ 本記録集の活用に向けて

本記録集は、寄せられた 260 件の投稿用紙の内容をすべてそのまま掲載しています。インタビューも、お話いただいた内容をできるだけ忠実に掲載しています。また、投稿内容やインタビューからわかったことを、災害時の「子どもの権利・子ども参加」の観点から、専門家である安部芳絵氏にまとめていただきました（P.6-9）。

多くの情報を一冊にまとめましたが、本記録集の活用の参考に、活用事例の紹介（P.119-121）を掲載したり、専門家の方から客観的な視点で本記録集についての講評（P.122-123）もいただきました。

本記録集を、災害を経験した方たちの貴重な声が詰まった一次資料として、さまざまな場面で防災教育や防災活動に取り入れていただければ幸いです。

参考資料

○ チラシ



○ ポスター



○ 小学生用投稿用紙　表

小学生用

Save the Children セーブ・ザ・チルドレン

「災害時に子どもたちが果たした役割の記録 ～2018年西日本豪雨の経験から～」

体験談 投稿のお願い

災害時にみなさんがしたこと・感じたことを教えてください。避難所などで、小さな子のお世話をしたり、すすんで大人の手伝いをしたりする子どもたちの姿がありました。そこで、そのことが忘れられてしまわないように、みなさんがしたことを冊子にまとめたり、インターネットで広く伝えたりします。どんなことでもいいので、教えてください。（投稿用紙は裏面です。）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ ■ **保護者の方へ** ■ ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【募集期間】2019年6月10日（月）～2019年9月10日（火）

【応募方法】

①郵送：投稿用紙に記入して下記宛先に送付

②ファックス：投稿用紙に記入して 03-6859-0069 へ（この用紙の表・裏両面とも）

③ホームページ（応募フォーム）：
http://www.savechildren.or.jp/lp/kiroku（または、QRコードより）
（中高生世代の方や大人の方も、ホームページから応募できます。）

※投稿用紙は、手書きのまま冊子に掲載させていただく場合があります。



【郵送の場合の宛先・お問い合わせ先】

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4　山田ビル 4 階

公益社団法人　セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　国内事業部

メール：japan.hagukumi@savethechildren.org　　電話：03-6859-6869（平日 9:00～18:00）

～ セーブ・ザ・チルドレンについて ～

セーブ・ザ・チルドレンは、すべての子どもたちにとって、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現されている世界を目指し、世界約120ヶ国で活動する子ども支援専門の国際NGOです。2018年7月の西日本豪雨発生後は、岡山県倉敷市を中心に緊急・復興支援活動を行い、6,500人以上に支援を届けました。避難所で子どもが安心・安全に過ごすことのできる「こどもひろば」の活動や、学用品の配布、学童・児童館・保育園への備品支援、給付金の提供などを行いました。

■投稿を送ってくださるお子さんにより詳しくお話を聞かせていただける方、できあがった冊子の郵送を希望する方は、下記□に✓をして、連絡先をご記入ください。※冊子やインターネットに名前・連絡先等を掲載することはありません。

□ 詳しくお話を聞かせていただける。 （全員の方とは限りませんが、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンよりご連絡します。）	□ 冊子の郵送を希望する。 （発送は2020年3月頃予定です。）
電話番号	メールアドレス
住所　都・道 〒　府・県	
お子さま（投稿者）お名前 （ふりがな）	保護者署名 （ふりがな）

※セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンでは、業務上取り扱う全ての個人情報は、個人情報保護法その他の法令並びに当団体の個人情報保護方針などに則り適正に管理します。お預かりする個人情報は、インタビューの際のご連絡と冊子の郵送の目的のみに使用します。

○ 小学生用投稿用紙　裏

小学生用

「災害時に子どもたちが果たした役割の記録 ～2018年西日本豪雨の経験から～」投稿用紙

タイトル（あなたのしたことにタイトルをつけるとすると。）	その時、住んでいたところ 岡山県 ・ 広島県 ・ 愛媛県 その他：＿＿＿＿＿＿ 都道府県	年齢 ＿＿＿才 （小学＿＿年生）
①いつ、どこで、だれと、どんなことをしましたか？		
②なぜ、それをやろうと思いましたか？（きっかけや、理由、どんな気持ちで始めたか教えてください。）		
③やってどう思いましたか？（やってみてどんなことを感じたのか、気持ちや思ったことなどを教えてください。）		
④まわりの人はどんな反応をしましたか？（「□□□」と言われた、などありましたか。）		
⑤やってみて、気づいたことや他の人に伝えたいこと、これから大切にしたいことがあれば教えてください。		
避難するときや避難所にあったほうがよかったものは？	どんな応援があったらよかったですか？	

※書ききれないときは、別の紙に書いてください。

○ 中高生世代用投稿用紙　表

中高生世代用

Save the Children セーブ・ザ・チルドレン

「災害時に子どもたちが果たした役割の記録 ～2018年西日本豪雨の経験から～」
体験談投稿のお願い

災害時にみなさんがしたこと・感じたことを教えてください。避難所などで、小さな子のお世話をしたり、水や食料など重いものを運んだり、自ら考えて動く子どもたちの姿がありました。そこで、そのことが忘れられてしまわないように、みなさんがしたことを冊子にまとめたり、インターネットで広く伝えたりします。どんなことでもかまいません。みなさんがしたことを教えてください。（投稿用紙は裏面です。）

【募集期間】2019年6月10日（月）～2019年9月10日（火）

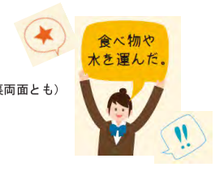
【応募方法】

①郵送：投稿用紙に記入して下記宛先に送付

②ファックス：投稿用紙に記入して 03-6859-0069 へ（この用紙の表・裏両面とも）

③ホームページ（応募フォーム）：
http://www.savechildren.or.jp/lp/kiroku（または、QRコードより）
（小学生の方や大人の方も、ホームページから応募できます。）

※投稿用紙は、手書きのまま冊子に掲載させていただく場合があります。



【郵送の場合の宛先・お問い合わせ先】

〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4　山田ビル 4 階

公益社団法人　セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　国内事業部

メール：japan.hagukumi@savethechildren.org　　電話：03-6859-6869（平日 9:00～18:00）

～ セーブ・ザ・チルドレンについて ～

セーブ・ザ・チルドレンは、すべての子どもたちにとって、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現されている世界を目指し、世界約120ヶ国で活動する子ども支援専門の国際NGOです。2018年7月の西日本豪雨発生後は、岡山県倉敷市を中心に緊急・復興支援活動を行い、6,500人以上に支援を届けました。避難所で子どもが安心・安全に過ごすことのできる「こどもひろば」の活動や、学用品の配布、学童・児童館・保育園への備品支援、給付金の提供などを行いました。

【保護者の方へ】（下記項目の記入は必須ではありません。）

投稿を送ってくださるお子さんにより詳しくお話を聞かせていただける方、できあがった冊子の郵送を希望する方は、下記□に✓をして、連絡先をご記入ください。※冊子やインターネットに名前・連絡先等を掲載することはありません。

□ 詳しくお話を聞かせていただける。 （全員の方とは限りませんが、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンよりご連絡します。）	□ 冊子の郵送を希望する。 （発送は2020年3月頃予定です。）
電話番号	メールアドレス
住所　都・道 〒　府・県	
お子さま（投稿者）お名前 （ふりがな）	保護者署名 （ふりがな）

※セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンでは、業務上取り扱う全ての個人情報は、個人情報保護法その他の法令並びに当団体の個人情報保護方針などに則り適正に管理します。お預かりする個人情報は、インタビューの際のご連絡と冊子の郵送の目的のみに使用します。

○ 中高生世代用投稿用紙　裏

中高生世代用

「災害時に子どもたちが果たした役割の記録 ～2018年西日本豪雨の経験から～」　投稿用紙

タイトル（あなたの活動にタイトルをつけるとすると。）	当時の住所 岡山県 ・ 広島県 ・ 愛媛県 その他：＿＿＿＿＿＿ 都道府県	年齢 ＿＿＿才 （中学・高校＿＿年生）
いつ頃 ※「○月頃」など	どこで ※○○県 ○○市・町 ※「避難所」など	だれと ※どんな人と、何人くらいで（個人名は不要です。）
①どんな活動をしましたか？　（実際に行ったことを教えてください。うまくいかなかったことでもいいです。）		
②なぜ、それをやろうと思いましたか？　（きっかけや、理由、どんな気持ちで始めたか教えてください。）		
③やってどう思いましたか？　（やってみてどんなことを感じたのか、気持ちや思ったことなどを教えてください。）		
④周囲の反応はどうでしたか？　（「□□□」と言われた、などありましたか。）		
⑤今回の経験をふまえて、気づいたことや他の人に伝えたいこと、これから大切にしたいことがあれば教えてください。		
避難するときや避難所にあったほうがよかったものは？	どんな応援があったらよかったですか？	

※書ききれない場合は、別紙に書いてください。

○ 大人用投稿用紙　裏

大人用

「災害時に子どもたちが果たした役割の記録 ～2018 年西日本豪雨の経験から～」　投稿用紙

タイトル（あなたの見た、助けられた活動にタイトルをつけるとすると。）	当時の住所 岡山県 ・ 広島県 ・ 愛媛県 その他：＿＿＿＿＿＿ 都 道 府 県	年齢 20 代 ・ 30 代 40 代 ・ 50 代 60 代 ・ 70 代以上
いつ頃　※「○月頃」など	どこで ※○○県 ○○市・町 ※「避難所」など	だれが　※人数、年齢など（個人名は不要です。）
①どんな活動を見ましたか？どんな活動に助けられましたか？		
②子どもたちのその姿に触れてどう思いましたか？（あなたや周りの大人に与えた影響など。）		
③子どもたちへの期待やメッセージを書いてください。		

※書ききれない場合は、別紙に書いてください。

○ 大人用投稿用紙　表

Save the Children セーブ・ザ・チルドレン

大人用

「災害時に子どもたちが果たした役割の記録 ～2018 年西日本豪雨の経験から～」
体験談投稿のお願い

災害時、避難所などで、子どもたちが果たした役割がありました。小さな子どものお世話をしたり、水や食料など重いものを率先して持ったり、自ら考えて動く子どもたちの姿に、大人はたくさんの勇気をもらいました。そこで、それらのことが忘れられてしまわないように、子どもたちの活動を見た、あるいは助けられたエピソードを教えてください。子どもたちからの投稿とあわせて、冊子にまとめたり、インターネットで伝えたりして、多くの人に知ってもらいたいと思っています。　（投稿用紙は裏面です。）



【募集期間】2019 年 6 月 10 日（月）～2019 年 9 月 10 日（火）

【応募方法】
①郵送：投稿用紙に記入して下記宛先に送付
②ファックス：投稿用紙に記入して 03-6859-0069 へ（この用紙の表・裏両面とも）
③ホームページ（応募フォーム）：
http://www.savechildren.or.jp/lp/kiroku（または、QR コードより）
（小学生、中高生世代の方も、ホームページから応募できます。）
※投稿用紙は、手書きのまま冊子に掲載させていただく場合があります。

【郵送の場合の宛先・お問い合わせ先】
〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-9-4　山田ビル 4 階
公益社団法人　セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　国内事業部
メール：japan.hagukumi@savethechildren.org　電話：03-6859-6869（平日 9:00～18:00）

～ セーブ・ザ・チルドレンについて ～
セーブ・ザ・チルドレンは、すべての子どもたちに、よりよい今日と明日を。生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現されている世界を目指し、世界約 120 ヵ国で活動する子ども支援専門の国際 NGO です。2018 年 7 月の西日本豪雨発生後は、岡山県倉敷市をはじめ、複数災害救援活動を行い、6,500 人以上に支援を届けました。避難所での子どもが安心して過ごすことのできることや、ひろげる」の活動や、学用品の配布、学童・児童館・保育園への備品支援、給付金の提供などを行いました。

■より詳しくお話を聞かせていただける方、できあがった冊子の郵送を希望する方は、下記口にノをして、連絡先をご記入ください。※冊子やインターネットに名前・連絡先等を掲載することはありません。

□ 詳しくお話を聞かせていただける。
□ 冊子の郵送を希望する。
（全員の方とは限りませんが、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンよりご連絡します。）（発送は 2020 年 3 月頃予定です。）

電話番号	メールアドレス
住所 〒	都・道 府・県
お名前（ふりがな）	

※セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンでは、業務上取り扱う全ての個人情報は、個人情報保護法その他の法令並びに当団体の個人情報保護方針などに則り適正に管理します。お預かりする個人情報は、インタビューの際のご連絡と冊子の郵送の目的のみに使用します。



■ 過去に発行した災害時の子どもたちの活動などをまとめた報告書

「震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト 報告書」

発行日　2013 年 4 月

主催・発行　公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

実施　一般財団法人 地域創造基金みやぎ
（現・公益財団法人 地域創造基金さなぶり）

ダウンロード　「セーブ・ザ・チルドレン」ウェブサイト> 発行物一覧

https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/yakuwari2013.pdf

■ 本記録集

「災害時に子どもたちが果たした役割の記録 ～ 2018 年西日本豪雨の経験から～」

発行日　2020 年 3 月

主催・発行　公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

ダウンロード　「セーブ・ザ・チルドレン」ウェブサイト> 発行物一覧

https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/yakuwari2020.pdf



※「震災後に中高生が果たした役割の記録プロジェクト 報告書」ならびに「災害時に子どもたちが果たした役割の記録 ～ 2018 年西日本豪雨の経験から～」の冊子の送付をご希望の方は、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンにお問い合わせください。



お問い合わせ先

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
東京事務所 国内事業部
〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル 4F
TEL：03-6859-6869　FAX：03-6859-0069　E-mail：japan.hagukumi@savethechildren.org
www.savechildren.or.jp

Save the Children

セーブ・ザ・チルドレンは、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現された世界を目指して活動する、子ども支援専門の国際 NGO です。日本国内では、子どもの貧困問題解決や子ども虐待の予防などに向けた事業のほか、自然災害被災地での緊急・復興支援を通して、子どもの権利を実現する活動を行っています。